

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 60 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(月) { 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(火) { }
- 12日(金) { 新入生オリエンテーション
- 11日(木) { }
- 12日(金) { 在校生成績発表(学部・短大)
- 11日(木) { }
- 16日(火) { 成績質疑応答
- 13日(土) 授業開始
- 15日(月) 祝禱音楽法要の日
- 18日(木) { }
- 19日(金) { 履修届受付(学部・短大1年次生)
- 22日(月) { 履修届受付(学部2.3.4年次生・短大2.3年次生)
- 27日(土) { (学部により受付日が異なる)
- 29日(月) 天皇誕生日
- 5月1日(水) 祝禱日
- 3日(金) 憲法記念日
- 4日(土) 研修日(全学休業)
- 5日(日) こどもの日
- 14日(火) { }
- 23日(木) { 春季健康診断(2.3.4年次生対象)
- 15日(水) 祝禱音楽法要の日
- 6月1日(土) 祝禱日
- 10日(月) 卒業論文論題受付締切(正午)
- 15日(土) 祝禱音楽法要の日
- 7月1日(月) 祝禱日
- 10日(水) { }
- 16日(火) { 中間試験(授業平常通り)
- 15日(月) 盂蘭盆会
- 17日(水) { 前期定期試験(前期終了科目)
- 18日(木) { (授業休講)
- 19日(金) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月9日(月) 授業再開
- 12日(木) 前期定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 12日(木) { 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生及び経済学部の2年次生)
- 19日(木) { }
- 15日(日) 敬老の日
- 17日(火) 祝禱音楽法要の日
- 17日(火) { 前期定期試験成績発表及び再試験申込受付
- 18日(水) { }
- 23日(月) 秋分の日
- 25日(水) { }
- 27日(金) { 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(日) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(火) 祝禱日
- 1日(火) { }
- 4日(金) { 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(木) { }
- 4日(金) { 専攻コース指定届受付(歴史・社会学科1年次生)
- 5日(土) 達磨忌
- 10日(木) 体育の日
- 11日(金) { }
- 12日(土) { 前期追・再試験成績発表
- 15日(火) 第103回開校記念日(全学休業)
- 16日(水) 祝禱音楽法要の日
- 11月1日(金) 祝禱日
- 3日(日) 文化の日
- 13日(水) { }
- 15日(金) { 転部科試験願書受付
- 15日(金) 祝禱音楽法要の日
- 21日(木) 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(土) 勤労感謝の日
- 29日(金) 転部科試験
- 12月1日(日) 祝禱日
- 4日(水) { }
- 12日(木) { 編入学試験願書受付
- 8日(日) 成道会
- 10日(火) 卒業論文受付締切(正午)
- 18日(水) 冬季休暇第1日
- 19日(木) 編入学試験
- 昭和61年
- 1月8日(水) 授業再開
- 15日(水) 成人の日
- 16日(木) { }
- 27日(月) { 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(日) 高祖(道元禪師)降誕会
- 1月28日(火) { }
- 2月5日(水) { 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 1日(土) 祝禱日
- 7日(金) { 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 11日(火) { 卒業論文口頭試問
- 15日(土) 建国記念の日
- 19日(水) 涅槃会
- 19日(水) { }
- 20日(木) { 成績発表及び追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 26日(水) { }
- 3月4日(火) { 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 1日(土) { 追試験(学部1.2.3年次生)
- 1日(土) 祝禱日
- 19日(水) 卒業生名簿発表
- 21日(金) 春分の日
- 25日(火) 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(14)
3.	学士号	(14)
III	授業科目の履修方法	(15)
1.	一般教育科目の履修方法	(15)
2.	外国語科目の履修方法	(17)
3.	保健体育科目の履修方法	(20)
4.	基礎教育科目の履修方法	(24)
5.	専門教育科目の履修方法	(25)
6.	随意科目の履修方法	(50)
7.	再履修科目の履修方法	(50)
	※コード番号について	(51)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(53)
1.	履修科目の登録	(53)
2.	履修届記入上の注意	(54)
3.	履修届の作成順序	(55)
V	試験および成績評価	(57)
1.	定期試験	(57)
2.	中間試験	(57)
3.	追・再試験	(57)
4.	受験心得	(58)
5.	成績評価・単位認定	(58)
VI	進級について	(59)
VII	クラス制およびクラス主任	(60)
VIII	教職課程・資格講座	(60)
IX	事務取扱いについて	(61)
X	届書・願書について	(62)
XI	各種証明書取扱い窓口	(63)
	試験実施規程(抜萃)・進級規程・進級基準	(64)
	講義内容	(69)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 60年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 58・59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

C. 57年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	6	24	72	
	選 択		40		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科

〔社会学コース〕

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用

〔社会福祉コース〕

A. 60年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	9(10)	36(40)	72	
	選 択		28(24)		
	卒業論文(必修)		8		

※ () の内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

〔心理学コース〕

A. 60年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

〔心理学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。なお、審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出について

- (1) あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、論題提出日までに、所属の教員に自己の研究概要を述べ、その承認を得なければならない。
- (2) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (3) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月27日（月）～6月10日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 用紙は所定の論文用紙を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ニ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 提出期間に遅れた場合や「卒業論文審査願」のない場合は受理しない。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月2日（月）～12月10日（火）正午まで（教務部⑥番窓口）

ホ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査され、論文の内容について口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月7日（金）

3. 学 士 号

大学に4ヵ年以上（7ヵ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}	文学士
英米文学科		
地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科 \ 分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科	16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人文分野			社会分野			自然分野		
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	理学	4		社会学	4				
	論理史術 (日本・西洋)	4		地理学	4				
英米文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	理学	4		社会学	4				
	論理史術 (日本・西洋)	4		地理学	4				
地理学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	数学	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		物理学	4	
	哲学	4		社会学	4		化学	4	
	文術	4		文化人類学	4		生物学	4	
	論理史術 (日本・西洋)	4							
歴史学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		地学	4	
	哲学	4		社会学	4		心理学	4	
	論理史術 (日本・西洋)	4		社会学	4		人類学	4	
		4		地理学	4				
社会学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		政治学	4		生物学	4	
	論理史術 (日本・西洋)	4		政治学	4		地学	4	
		4		社会学	4		人類学	4	
		4		地理学	4				

教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と、入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科 年 次		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3	年 次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2外国語

学 科 年 次		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは、英会話または英語LLに代替できる（ただし英米文学科は英会話に代替できない）	LL（ランゲージ・ラボラトリー）
英 語 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 2AⅠ	2		中国語 2AⅠ	2	講 読
英語 2AⅡ	2		中国語 2AⅡ	2	講 読
ドイツ語 2AⅠ	2	講 読	スペイン語 2AⅠ	2	講 読
ドイツ語 2AⅡ	2	講 読	スペイン語 2AⅡ	2	講 読
フランス語 2AⅠ	2	講 読	ロシア語 2AⅠ	2	講 読
フランス語 2AⅡ	2	講 読	ロシア語 2AⅡ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 3A	2	講 読	3Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号(下4ケタ)により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月中旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次 通 年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。
- ニ. 講義・体育実技Ⅰは月曜日に玉川校舎で授業を行う。
- ホ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。
 - A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
 - B. 前期(夏季休暇中)または後期(冬季休暇中)に実施される有料のシーズン・コースの授業
 - C. 前期(夏季休暇中)または後期(冬季休暇中)に実施される玉川校舎での集中授業
- ヘ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義・実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

1. 体育実技Ⅰの授業について(59年度以前入学生は体育実技)

前期・後期とも、それぞれ履修時間表(次頁)に含まれている数種目の中から選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間において、前・後期種目選択のためのオリエンテーションを実施し、決定するので必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。種目選択した種目名や担当者名ではない。

体育実技 I 時間表（1 年次，玉川校舎で実施する）

	月・1（禅・仏・国）	月・2（英・地）	月・3（歴・社）
	担任名 森本	担任名 森本	担任名 太田
種目担当者名	トレーニング 武藤	トレーニング 武藤	トレーニング 武藤
	室内球技 久保田	室内球技 久保田	室内球技 久保田
	テニス 浅野	テニス 浅野	テニス 浅野
	ソフトボール 太田	ソフトボール 太田	ソフトボール 太田
	陸上競技 森本	陸上競技 森本	陸上競技 森本
	体操 竹田	サッカー 秋田	サッカー 秋田
	卓球 村松	卓球 原山	卓球 村松
	剣道 上山	剣道 上山	剣道 上山

※59年度以前入学生は体育実技。

再履修クラス時間表（2 年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で実施する）

	火・3	水・1	水・2
	担任名 大石	担任名 三幣	担任名 上山
種目	室内球技 竹田 太極拳 大石	室内球技 三幣 剣道 上山	室内球技 森本 剣道 上山

(c) 単位の認定について

1 年間の授業を通して、1 単位（59年度以前入学生は2 単位）を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1 年間の授業によって単位の認定が行われる。

(d) 評価について

週1 回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから、本学においては評価の上で出席を最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験等の点数、および平常の授業における態度が加味されて実技の評価が行われる。

(e) 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担

任教員より指示を受けること。

(f) 服装, 更衣について

種目毎に, それぞれの担任教員の指示に従い, 指定された場所以外では着替えないこと。

(g) 盗難・事故・負傷について

①盗 難: 実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近, 特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので十分注意してほしい。

②事故・負傷: 実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

(h) 掲示について

実技上の連絡は, 玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので, 平常よく見ておくこと。

2. 体育実技Ⅱの授業について (60年度入学生適用)

2年次の前期または後期に, 次のA, B, Cの体育実技Ⅱの授業の中から, 1つを選んで履修し単位を修得する。

A. 本校での授業

授業は, 学部学科の指定はなく全学部オープンである。昭和61年度履修要項に記載する体育実技Ⅱの授業時間表の中から, どの時間どの種目でも選択し履修することができる。ただし, 履修できるのは1時間, 1種目だけに限る。また各時間, および種目は定員になり次第締切。なお, 定員に達しない種目のうち極端に人数が少ない種目の場合, 他の種目に移行して受講しなければならない場合もあり得る。単位は, 前期または後期授業により1単位を認定する。

時間・種目の決定と履修届提出の方法と順序について

① 教務部に履修届を提出する以前に「体育実技Ⅱ種目選択届」を行う。

開講時限および種目は, 昭和61年度履修要項に記載する。

② 「体育実技Ⅱ種目選択届」の方法

○期間: 在校生成績発表日より5日間とする。この期間に種目選択を行わない場合は, 原則として体育実技Ⅱを履修することはできない。

○場所 } 未定 実施前に掲示板にて指示, および昭和61年度履修要項に記載する。
○時間 }

○持参する物: 種目選択届用紙 (成績発表時に配布する), 学生証, 教務部提出用履修届用紙, 昭和61年度授業時間表

○種目選択届が受理されると, 教務部提出用履修届に種目選択済の確認印が押される。

③ 教務部への履修届提出

○種目選択済の確認印のない履修届は受付けない。

B. シーズン・コース

シーズン・コース授業は, 原則として本校での授業の体育実技Ⅱ (前記A) の選択が困難と認めら

れた場合に履修することができる。単位は、本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。実施期間は、前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期	テニスA
	テニスB
後期	スキーA
	スキーB

※AとBは、実施場所または時期が異なる。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお履修届はあらかじめシーズン・コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

C. 集中授業コース

集中授業コースはシーズン・コースと同様原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。

実施期間は、前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期・後期とも、ソフトボール、バドミントン、卓球、太極拳、ジャズダンスなど。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお、履修届はあらかじめ集中授業コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

学年 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会話)	2						

(注意)「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国 文 学 科	英米文学科		地 理 学 科	歴 史 学 科	社 会 学 科					
		58年度以 降入学生 適用	57年度以 前入学生 適用			57年度以降入学生適用			56年度以前入学生適用		
						社	福	心	社	福	心
必修科目	36(12)	28(7)	24(6)	16(6)	32(8)	48(12)	48(12)	28(8)	32(8)	36(9)	38(11)
選択科目	28	36	40	48	32	16	16	36	32	28	26
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

(注意) イ. () 内の数字は科目数。

ロ. 社会学科福祉コースで、昭和53年度以前入学生は10科目40単位を必修とする。

国文学科

必修科目（44単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 （原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること）
			国文学演習Ⅰ（上代）	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ（中古）	2	
国語学概論	4		国文学演習Ⅰ（中世）	2	
国文学概論	4		国文学演習Ⅰ（近世）	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ（近代）	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国文学研究	4	1科目4単位選択必修 （3年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する）
3 年 次 必 修			国文学史Ⅰ	4	
国文学史Ⅰ	4	1科目 4単位 選択必修	国文学史Ⅱ	4	
国文学史Ⅱ	4		国文学史Ⅲ	4	
国文学史Ⅲ	4		国文学史Ⅳ	4	
国文学史Ⅳ	4		国文学史Ⅴ	4	
国文学史Ⅴ	4		国語学演習Ⅱ	2	
国語学研究	4		国文学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 （卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること）
国文学講読Ⅲ	2		卒業論文	8	14頁参照

（注意）3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

「国文学史」の講義内容はⅠ（上代）・Ⅱ（中古）・Ⅲ（中世）・Ⅳ（近世）・Ⅴ（近代）とする。

選択科目（28単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
言語学概論	4		国文学特講 II	4	
国 語 史	4	} 隔年開講 休講	国文学特講 III	4	
国 語 学 史	4		国文学特講 IV	4	休講
上代文学	4			中 国 文 学	4
中古文学	4		東洋思想研究	4	
中世文学	4		中国文学演習	4	
近世文学	4		現 代 美 術	4	
近代文学	4		書道実習 I	4	
英米文化	4	旧外国文学	書道実習 II	4	
文学概論	4		美術史概説	4	
中国文学概論	4		美 術 史	2	
有 職 故 実	4	休講	国 文 学 史 I	4	} 選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
書 道 史	2		国 文 学 史 II	4	
仏 教 概 論	4		国 文 学 史 III	4	
日本史概説 I	4	古代, 中世	国 文 学 史 IV	4	
日本史概説 II	4	近世, 近代	国 文 学 史 V	4	
日本文化史 I	4	} 隔年開講 休講	編 集 実 務	2	
日本文化史 II	4		日 本 民 俗 学	4	
国文学特講 I	4				

（注意）「国文学史」の講義内容は I（上代）・II（中古）・III（中世）・IV（近世）・V（近代）とする。

「国文学特講」の I・II・III・IVは時代・履修順序等との関係はない。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位)

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	14頁参照
英作文 I	4		2年次または3年次必修		
3年次必修			文学史 (英文学史 I) (英文学史 II) (米文学史)	8	2年次1科目 3年次1科目 計2科目選択必修
音声学	4				
英語史	4				
シェイクスピア	4				

※ 「文学史」は2科目選択必修とし、残り1科目を専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		文学史 (英文学史 I) (英文学史 II) (米文学史)	4	1科目選択必修
3年次必修					
音声学	4	旧英語学研究	3年次または4年次必修		
英語史	4		批評論研究	4	
4年次必修			シェイクスピア	4	
卒業論文	8	14頁参照			

選択科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とし た科目を履 修するこ と	英 文 学 演 習 I (中世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16,17 c.)	4	3・4	※ホ
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18 c.)	4	3・4	休講
英 文 学 特 講 I (英文学16,17 c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19,20 c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18 c.)	4	3・4	休講	英 文 学 演 習 VI (小説I 19 c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19,20 c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説II 20 c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説I 19 c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19,20 c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説II 20 c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19,20 c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説III)	4	2・3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	※へ
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	旧英米 時文研究
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4	※ロ	商 業 英 語	4	3・4	
英 作 文 I	4	3・4	※ハ	ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語学)	4	3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	旧外国文学
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	} 隔年開講 休講
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英作文II)	4	3・4	※ニ	現 代 美 術	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4					

※イ 57年度以前入学生適用

※ロ 57年度以前入学生で「英文学特講VII (演劇19,20 c.)」・「米文学特講VI(演劇)」をいずれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習 (英作文)」

※ニ 58年度以降入学生適用

※ホ 57年度以前入学生で「英文学演習II (英文学16 c.)」・「英文学演習III (英文学17 c.)」をいずれか修得した者は、「英文学演習II (英文学16, 17 c.)」を履修できない。

※へ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ（演劇19,20c.）」・「米文学演習Ⅵ（演劇）」をいずれか修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

（注意） 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

- I (a) 2, 3, 4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。
 (b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。
 (c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。
 (d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。
- II (a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。
 (b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。
 (c) 57年度以前入学生で（旧）「英米語学演習（英作文）」の履修希望者は、「英作文Ⅰ」を履修すること。なお、その場合「英作文Ⅰ」の4講座のいずれかひとつを選択し、担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目〔24単位〕

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (14頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※ 「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

（注意） 「地理学演習」および「野外巡検（Ⅰ・Ⅱ）」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選択科目（48単位以上）

2年次選択			3年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
地形学Ⅰ	4		歴史地理学	4	
集落地理学	4		人口地理学	4	
郷土地理学	4		経済地理学Ⅱ	4	
経済地理学Ⅰ	4		原書講読	4	
交通地理学	4		日本地誌Ⅱ	4	休講
地図学	4	旧地図学概説	外国地誌Ⅱ	4	
日本地誌Ⅰ	4		地理学特講Ⅰ	2	
外国地誌Ⅰ	4		3・4年次選択		
3年次選択			文化地理学	4	
地質学	4		都市地理学	4	
地球物理学	4	休講	計量地理学	4	
地形学Ⅱ	4		空中写真判読法及び測量学	4	
気候学	4		日本地誌Ⅲ	4	
土壌地理学	4		外国地誌Ⅲ	4	
海洋学及び陸水学	4		応用地理学Ⅰ	4	
環境地理学	4		応用地理学Ⅱ	4	

（注意） 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学、空中写真判読法及び測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学Ⅰ、Ⅱのうち2科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること）

必修科目（40単位）（2年次以降の履修科目）

○日本史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	2科目8単位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
日本史概説Ⅰ（古中代世）	4		西洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	
日本史概説Ⅱ（近近代世）	4		西洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）で代替できる	考古学概説Ⅰ（日本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		考古学概説Ⅱ（外国）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	2科目8単位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
日本史概説Ⅰ（古中代世）	4		西洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	
日本史概説Ⅱ（近近代世）	4		西洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）で代替できる	考古学概説Ⅰ（日本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		卒 業 論 文	8	

○東洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4		卒 業 論 文	8	

○西洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4		考古学概説Ⅱ (外 国)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4		卒 業 論 文	8	

○考古学専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	2 科目 8 単 位 選 択 必 修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
考古学概説Ⅰ (日 本)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
考古学概説Ⅱ (外 国)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替 え 可 能	西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4		西洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	3 科目 12 単 位 選 択 必 修
考古学概説Ⅰ (日 本)	4		日本史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替 え 可 能	東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
日 本 史 学 史	4	1 科目 4 単 位 選 択 必 修	西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ (近 近 世 代)	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

選択科目（32単位以上）（2年次以降の履修科目）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
日本史各説 I	4		東洋史特講 I (古代)	4	旧 東洋史特講 VII
日本史各説 II	4		東洋史特講 II (古代)	4	休講
日本史各説 III	4		東洋史特講 III (古代)	4	休講
日本史各説 IV	4		東洋史特講 IV (中世)	4	
東洋史各説 I (古代)	4	旧 東洋史各説 II 休講	東洋史特講 V (中世)	4	休講
東洋史各説 II (古代)	4		東洋史特講 VI (中世)	4	旧 東洋史特講 III・VI 休講
東洋史各説 III (中世)	4	旧 東洋史各説 I 休講	東洋史特講 VII (近世)	4	
東洋史各説 IV (中世)	4		東洋史特講 VIII (近世)	4	休講
東洋史各説 V (近世)	4	旧 東洋史各説 III 休講	東洋史特講 IX (近世)	4	休講
東洋史各説 VI (近世)	4		東洋史特講 X (近現代)	4	
東洋史各説 VII (近現代)	4	休講	東洋史特講 XI (近現代)	4	旧 東洋史特講 IV
東洋史各説 VIII (近現代)	4		東洋史特講 XII (近現代)	4	旧 東洋史特講 II 休講
東洋史各説 IX (周辺史)	4	旧 東洋史各説 IV	東洋史特講 XIII (周辺史)	4	旧 東洋史特講 V
東洋史各説 X (周辺史)	4	旧 東洋史各説 II (59年度光瀧担当分)	東洋史特講 XIV (周辺史)	4	旧 東洋史特講 I
西洋史各説 I	4		東洋史特講 XV (周辺史)	4	休講
西洋史各説 II	4		西洋史特講 I	4	
西洋史各説 III	4		西洋史特講 II	4	休講
西洋史各説 IV	4	休講	西洋史特講 III	4	
考古学各説 I	4	休講	西洋史特講 IV	4	
考古学各説 II	4	休講	西洋史特講 V	4	休講
考古学各説 III	4		西洋各国史 I	4	
考古学各説 IV	4		西洋各国史 II	4	
日本史特講 I (古代)	4		西洋各国史 III	4	
日本史特講 II (中世)	4		西洋各国史 IV	4	
日本史特講 III (中世)	4		考古学特講 I	4	休講
日本史特講 IV (近世)	4		考古学特講 II	4	
日本史特講 V (近世)	4	休講	考古学特講 III	4	休講 } 隔年講
日本史特講 VI (近代)	4		考古学特講 IV	4	
日本史特講 VII (近代)	4		古文書学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4	
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休講 } IとIIIは 隔年開講	哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史 II	4		歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 III	4		仏 教 美 術	4	
日 本 文 化 史 I	4	休講 } 隔年開講	西 域 美 術 史	4	
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4	
西 洋 文 化 史 I	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
西 洋 文 化 史 II	4	休 講	演 習 I	4	(注)
西 洋 文 化 史 III	4		演 習 II	4	
考 古 学 実 習 I (写 真)	4		日 本 史 概 説 I (古 代 中 世)	4	
考 古 学 実 習 II (記 録)	4		日 本 史 概 説 II (近 世 近 代)	4	
考 古 学 実 習 III (測 量)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代 中 世)	4	
考 古 学 実 習 IV (調 査)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世 近 代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代 中 世)	4	
有 職 故 実	4	休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世 近 代)	4	
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
歴 史 地 理 学	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

[名称変更科目]

○新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはいけません。

○成績表は、59年度発表分では旧名称で、60年度からは新名称で打出される。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
東洋史特講Ⅰ(古 代)	一東洋史特講Ⅶ(古代史)	東洋史各説Ⅰ(古 代)	一東洋史各説Ⅱ
東洋史特講Ⅵ(中 世)	一東洋史特講Ⅲ (中世史)・Ⅵ(中世史)	東洋史各説Ⅲ(中 世)	一東洋史各説Ⅰ
東洋史特講Ⅺ(近現代)	一東洋史特講Ⅳ (近代・現代史)	東洋史各説Ⅴ(近 世)	一東洋史各説Ⅲ
東洋史特講Ⅻ(近現代)	一東洋史特講Ⅱ (近世・近代史)	東洋史各説Ⅸ(周辺史)	一東洋史各説Ⅳ
東洋史特講Ⅼ(周辺史)	一東洋史特講Ⅴ (西・中央アジア史)	東洋史各説Ⅹ(周辺史)	一東洋史各説Ⅱ (59年度光嵐担当分)
東洋史特講Ⅽ(周辺史)	一東洋史特講Ⅰ (中国周辺史)		

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること）

(1) 社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	休講 5科目20単位選択必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習 I	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習 II	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	14頁参照	外書講読 I	4	
			外書講読 II	4	
			社会学特講 I	4	
			社会学特講 II	4	
			社会学特講 III	4	休講

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	(注)	社会学原論	4	
産業社会学	4		図書館学Ⅰ	4	
都市社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
農村社会学	4		社会福祉方法総論	4	
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
宗教社会学	4		老人福祉論	4	
社会心理学	4		児童福祉論	4	
社会病理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
社会学特講Ⅰ	4		グループ・ダイナミクス	4	
社会学特講Ⅱ	4		民法	4	
社会学特講Ⅲ	4	労働法	4		
		行政法	4		
		経済原論	4		
		社会政策	4		

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（40単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		演 習 I	4	社会
社 会 学 原 論	4		4 年 次 必 修		
社 会 統 計 学	4		社 会 政 策	4	
宗 教 社 会 学	4		演 習 II	4	社会
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	14頁参照
社 会 調 査	4				

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを，卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（32単位以上）

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		労働法	4	
マスコミュニケーション	4		経済原論	4	
産業社会学	4		社会学特講Ⅰ	4	旧社会学特講
都市社会学	4		社会学特講Ⅱ	4	
農村社会学	4	休講	社会学特講Ⅲ	4	休講
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
社会心理学	4		老人福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		児童福祉論	4	
外書講読Ⅱ	4		地域福祉論	4	
2・3・4年次選択			基礎心理学Ⅰ	4	
図書館学Ⅰ	4		産業心理学	4	
図書館学Ⅱ	4		社会福祉方法総論	4	
グループ・ダイナミクス	4	旧 集団理論	3・4年次選択		
行政法	4		社会病理学	4	
民法	4		社会調査実習	4	旧 社会調査実習Ⅰ

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ取得、合計6科目24単位選択必修
社会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社会福祉方法総論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社会福祉実習Ⅰ	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 Ⅰ	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修			B 群	地 域 福 祉 論	4	
演 習 Ⅱ	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒 業 論 文	8	14頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
				リハビリテーション論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	(注)	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	休講
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		障害児教育原論	4	旧 異常児教育原論
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧 異常児教育方法論
福祉外書講読	4		障害児病理	4	旧 異常児病理 休講
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	旧 異常児心理 休講
ケースワーク論	4		図書館学 I	4	
グループワーク論	4		図書館学 II	4	
海外社会福祉論	4		社会政策	4	
社会福祉学特講 I	4		青少年問題研究	4	
社会福祉学特講 II	4		行政法	4	
社会福祉学特講 III	4		労働法	4	
基礎心理学 I	4		民法	4	
基礎心理学 II	4		経済原論	4	
社会心理学	4		4年次選択		
グループ・ダイナミックス	4		社会福祉実習 II	4	

(注意) ※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 「社会福祉実習 II」を履修する者は「社会福祉実習 I」取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（44単位）

※ ただし53年度以前入学生は48単位必修とする。

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社 会 福 祉 実 習 I	4	旧 社会福祉 実習
社 会 学 原 論	4		演 習 I	4	福祉
社 会 福 祉 法 制	4		4 年 次 必 修		
社 会 福 祉 概 論	4	53年度以前 の入学生のみ必修	社 会 政 策	4	
3 年 次 必 修			演 習 II	4	福祉
社 会 調 査	4		卒 業 論 文	8	14頁参照
社 会 福 祉 事 業 発 達 史	4	旧社会福祉 事業史			

（注意）※ 「社会福祉概論」は54年度以降入学生より基礎教育科目とする。

※ 「演習」は3年次で履修した先生のものを，卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（28単位以上）

※ ただし53年度以前入学生は24単位以上とする。

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧社会保障論	グループ・ダイナミックス	4	
児童福祉論	4		宗教社会学	4	
老人福祉論	4		産業社会学	4	
地域福祉論	4		都市社会学	4	
ケースワーク論	4	旧ケース・ワーク論	農村社会学	4	休講
グループワーク論	4	旧グループ・ワーク	法社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧精神発達学	図書館学Ⅰ	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅱ	4	
家族社会学	4		民法	4	
障害児教育原論	4	旧異常児教育原論	経済原論	4	
2・3・4年次選択			行政法	4	
公的扶助論	4		労働法	4	
母子福祉論	4		青少年問題研究	4	
医療社会事業論	4	旧医療社会事業	障害児病理	4	旧異常児病理 休講
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	旧異常児心理 休講
福祉外書講読	4	旧外書講読Ⅲ	障害福祉論	4	
海外社会福祉論	4		3・4年次選択		
社会福祉方法総論	4		障害児教育方法論	4	旧異常児教育 方法論
社会福祉管理運営論	4		社会病理学	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧社会福祉特講Ⅰ			
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧社会福祉特講Ⅱ			
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧社会福祉特講Ⅲ			
基礎心理学Ⅰ	4				

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心 理 学 研 究 III (実 習)	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 休 講
心 理 統 計 学	4		心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2		心 理 学 研 究 V (実 習)	2	
基 礎 心 理 学 I	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 2 必 修 で は し た と し 履 修 目 を 履 修 す る こ と
基 礎 心 理 学 II	4		基 礎 心 理 学 I	4	
基 礎 心 理 学 III	4		基 礎 心 理 学 II	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		基 礎 心 理 学 III	4	
基 礎 心 理 学 V	4		基 礎 心 理 学 IV	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 V	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		演 習	4	
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		卒 業 論 文	8	14 頁 参 照

(注意) 基礎心理学 I～V の内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	必修として履修した科目以外を履修すること	心 理 学 特 講 II	4	
基 礎 心 理 学 II	4		心 理 学 特 講 III	4	
基 礎 心 理 学 III	4		精 神 医 学	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 V	4		心 身 医 学	4	
心理学研究 I（実習）	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること 休講	宗 教 社 会 学	4	
心理学研究 II（実習）	2		産 業 社 会 学	4	
心理学研究 III（実習）	2		家 族 社 会 学	4	
心理学研究 IV（実習）	2		社 会 病 理 学	4	
心理学研究 V（実習）	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究 VI（実習）	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4		障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
グループ・ダイナミクス	4		民 法	4	
カウンセリング	4		経 済 原 論	4	
心 理 検 査 法	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 I	4				

（注意）2年次における基礎心理学I～Vの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (46単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	旧 人格心理 学	心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	旧 心理学 実験演習 (上級) 1科目2 単位 選択必修
グ ル ー プ ・ ダイ ナ ミ ッ ク ス	4	旧 集団理論	心 理 学 研 究 V (実 習) 休 講	2	
精 神 医 学	4		心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2	旧 心理学実 験演習(初 級)	心 理 学 特 講 I	4	旧 臨床心理 学II(方法)
			心 理 統 計 学	4	旧 精神測定 法
3 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
基 礎 心 理 学 III	4	旧 学習行動 理論	心 理 検 査 法	2	旧 臨床実習
基 礎 心 理 学 V	4	旧 臨床心理 学I(理論)	演 習	4	
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		卒 業 論 文	8	14頁参照
心 理 学 研 究 II (実 習)	2				
心 理 学 研 究 III (実 習)	2				

※ 「心理学実験演習(上級)」を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究 I (実習)」として記載する。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（26単位以上）

（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 II	4	旧 精神発達 学	精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 IV	4	旧 社会心理 学	心 身 医 学	4	旧 精神身体 医学
心理学研究 I (実習)	2	※3・4 年次選択 旧 心理 学実験演 習(上級) 3年次で 必修とし た科目以 外を履修 すること	宗 教 社 会 学	4	
心理学研究 II (実習)	2		産 業 社 会 学	4	
心理学研究 III (実習)	2		家 族 社 会 学	4	
心理学研究 IV (実習)	2		社 会 病 理 学	4	
心理学研究 V (実習) 休講	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究 VI (実習)	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4	旧 精神生理 学	障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		民 法	4	
心 理 学 特 講 II	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	

※ 「心理学実験演習（上級）」を既に修得した者は、「心理学研究 I（実習）」は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ド イ ツ 語 F	2		哲 学 特 講 I, II	4	
フ ラ ン ス 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
ス ペ イ ン 語 F	2		日 本 宗 教 文 化 史	4	
ロ シ ア 語 F	2		民 衆 宗 教 成 立 史	4	
日 本 語 F	2	(初級・中級)	歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)	美 術 史 概 説	4	国文, 歴史学科を除く
中 国 語 FLL	2	(初級・中級)	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 文 化 史	4	地理, 社会学科のみ
宗 教 学 特 講 I, II, III	4				

※ 日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる

※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更

※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

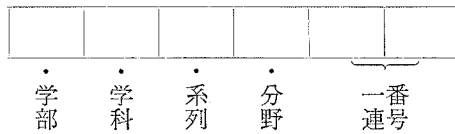
ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部、学科番号は学生番号欄での説明のとおりである。

(c) 系列、分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第 1 外国語		
第 2 外国語		
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必 修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
随 意 科 目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7, 8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた

学生番号区分				学籍異動の番号			
□	□	□	□	□	□	□	□
⋮ 入学 年度 (西暦)	⋮ 学籍 異動	⋮ 学 部	⋮ 学 科	⋮ 一連番号 (原級のつど変わる)			
				0…異動なし	1…原級	2…転部(科)	3…編入
				4…原級して転部(科)			転部(科)・編入をして原級

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1		法学部	4	
禅学科		1	法律学科		1
仏教学科		2	政治学科		2
文学部	2		経営学部	5	
国文学科		1	経営学科		1
英米文学科		2	短期大学	8	
地理学科		3	国文科		1
歴史学科		4	英文科		2
社会学科		5	放射線科		3
経済学部	3				
経済学科		1			
商学科		2			

(例)

5 0 2 1 0 0 1 2
 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮
 一九八五年入学 学籍異動なし 文学部 国文学科 12番

(1985年度入学・文学部国文学科12番)

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次、所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けませんが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月曜日				
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	ドイツ語1G	212201	百濟	879
二時限	保健体育理論(前)	214201	長浜	993
	保健体育理論(後)	214201		622
三時限	宗教学I	210101	平井(俊)	735
四時限	論理学	210203	国嶋	306
五時限	自然科学概論	210401	宇和川	104

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語1G	212201	百濟	879
	2		保健体育理論(前)	214201	長浜	993
	3		宗教学I	210101	平井(俊)	735
	4	○	論理学	210203	国嶋	306
	5		自然科学概論	210401	宇和川	104

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている、科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（国文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学1（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読1（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 開講科目の中から計4科目選択必修 （不足単位は2年次で履修）	4
1年次履修制限科目数			15

（英米文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学1（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語IA，IB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

(地理学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(歴史学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(社会学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続を経て履修登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示を十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は、追、再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追、再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日, 時, 試験場(教場)で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中, 机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し, 受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部, 学科, 学生番号, 氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し, 試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場(教場)においては, すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場(教場)の秩序を乱したり, 試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は, 「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり, 又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート, テキスト, 参考書, 六法, 辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり, 書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作, メモその他の方法で連絡をしたり, 連絡を受けること。
 - (6) 試験中ノート, テキスト, 参考書, 六法, 辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり, すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は, 優(100点~80点), 良(79点~70点), 可(69~60点)および不可(59点~0点)とし, 優, 良, 可を合格, 不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し, 合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

試験実施規程(抜萃)が(P64)掲載されているので参照のこと。

Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○ 注意進級とは進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○ 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
59年度以前入学生 進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。
60年度以降入学生 進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が13単位以上不足している場合。

○ 59年度以前入学生についても昭和62年度から「60年度以降入学生適用の進級規程」を一斉に適用するので計画的に単位を修得しておく必要がある。

進級規程及び進級基準が（P66）掲載されているので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座	備 考
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博 物 館 学 講 座	〃
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃
社 会 教 育 主 事 講 座	〃

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問 い 合 わ せ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本一通添付	要	不要	⑤
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2ヵ月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転 部 ・ 転 科 願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり	要	要	⑦

XI 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口
に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分
余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

（目 的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間審査として行う試験をいう。

2 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

- 2 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
- 3 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
- 4 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

- 1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

(目的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

(正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

(注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

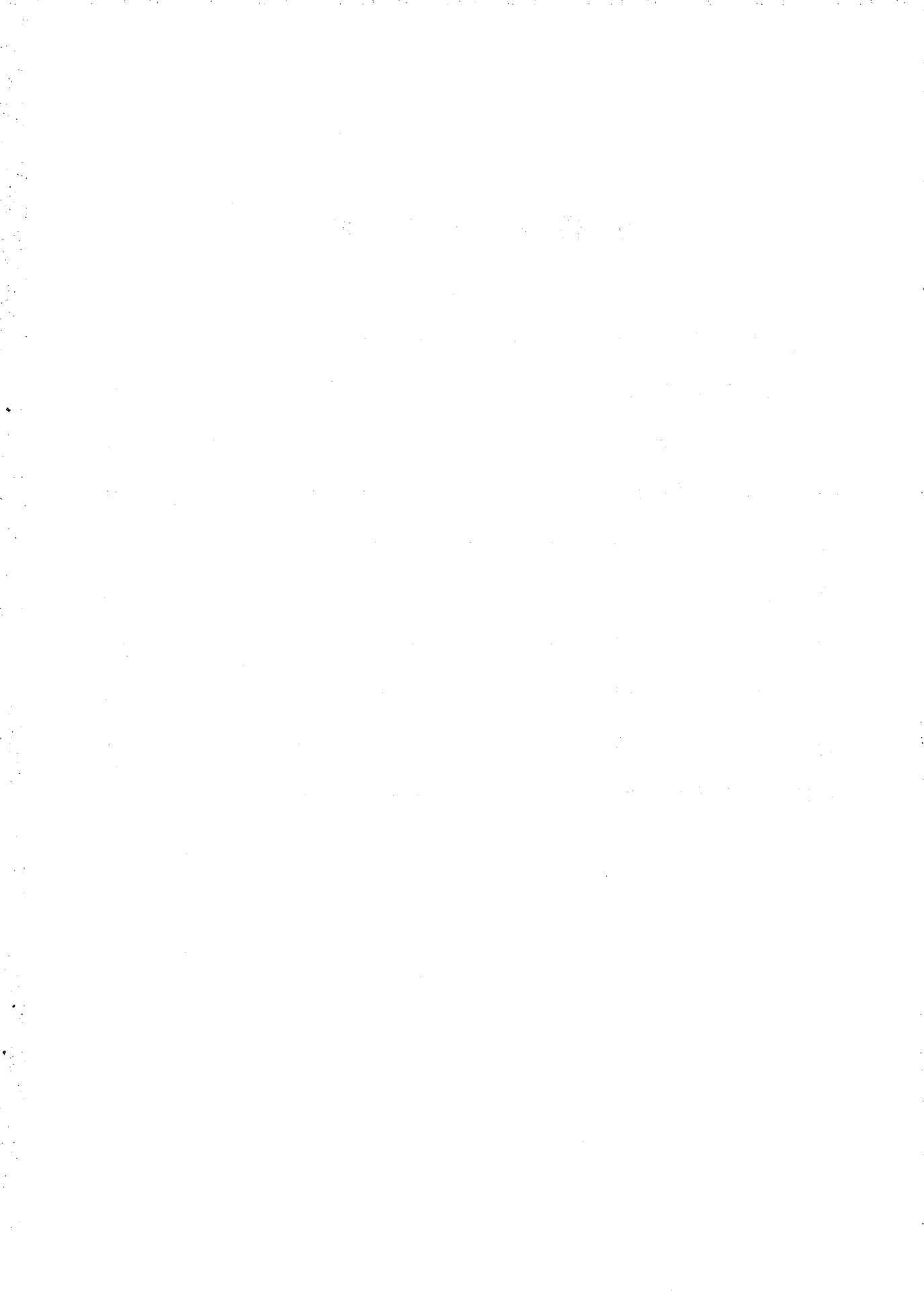
1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(71)
外国語科目(共通).....	(77)
保健体育科目(共通).....	(78)
随意科目(共通).....	(81)
国文学科.....	(85)
英米文学科.....	(95)
地理学科.....	(104)
歴史学科.....	(114)
社会学科.....	(129)
教職および資格講座.....	(143)



一般教育科目 (共通)

人文分野

宗教学 I (佐々木宏幹)	72
宗教学 I (洗 建)	72
宗教学 I (脇本 平也)	72
宗教学 I (山岡 隆晃)	72
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)	72
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)	72
宗教学 II (青龍 宗二)	72
宗教学 II (峯岸 孝哉)	73
宗教学 II (河村 孝道)	73
宗教学 II (若月 正吾)	73
宗教学 II (石井 修道)	73
哲学 (久保陽一・国嶋一則・中村友太郎)	73
論理学 (小宮山 隆・戸田 洋樹)	73
歴史学 (広瀬 良弘)	73
文学 (岡本 恭子)	74
芸術学 (日本美術) (竹内 尚次)	74
芸術学 (西洋美術) (宮崎 克己)	74
社会分野	
法学憲法 (和知 恵一)	74
経済学 (荒木 勝啓)	74
政治学 (小林 正敏)	74
社会学 (橋爪 敏)	74
文化人類学 (加藤 正春)	75
地理学 (赤川 泰司)	75
地理学 (渡邊 盾夫)	75
自然分野	
自然科学概論 (宇和川正人)	75
自然科学概論 (齊藤 浩三)	75
数学 (齊藤 浩三)	75
生物学 (菅原 敬)	75
生物学 (清水 善和)	76
心理学 (天野 珠子)	76
心理学 (坂原 明)	76
人類学 (中島 寿雄)	76
地学 (宇和川正人)	76
化学 (高木 正博)	76
物理学 (篠原 正雄)	76

外国語科目 (共通)

英会話 (N. Readdy)	77
英会話 (W. D. Hubbard)	77

保健体育科目 (共通)

体育実技	78
------------	----

随意科目 (共通)

宗教学特講 I (松田 文雄)	81
宗教学特講 II (脇本 平也)	81
宗教学特講 III (洗 建)	81
哲学特講 I (東洋) (篠原 寿雄)	81
哲学特講 II (西洋) (国嶋 一則)	81
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	81
民間信仰論 (谷口 貢)	81
日本宗教文化史 (脇本 平也)	81
民衆宗教成立史 (松田 文雄)	82
歴史哲学 (国嶋 一則)	82
美術史概説 (林 良一)	82
東洋思想研究 (船津 富彦)	82
日本文化史 I (圭室 文雄)	82
日本仏教史 (圭室 文雄)	82
日本民俗学 (山折 哲雄)	82
ドイツ語 F (栗原 万修)	82
ドイツ語 F L L (初級) (松本 洋子)	83
ドイツ語 F L L (中級) (小林佳世子)	83
フランス語 F (小玉 齋夫)	83
フランス語 F L L (初級) (松岡 宏一)	83
フランス語 F L L (初級) (マドレーヌ・マルタン)	83
フランス語 F L L (中級) (マドレーヌ・マルタン)	83
中国語 F (刈間 文俊)	83
中国語 F L L (初級) (果 荃 英)	83
中国語 F L L (中級) (羅 漾 明)	83
スペイン語 F (佐藤 玖美子)	84
スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナパロ)	84
スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナパロ)	84
ロシア語 F (前期) (杉山 秀子) (後期) (岡沢 宏)	84
ロシア語 F L L (初級) (タチャーナ・バリーソヴナ・野村)	84
ロシア語 F L L (中級) (タチャーナ・バリーソヴナ・野村)	84
日本語 F (初級) (留学生対象) (前期) (杉山 秀子) (後期) (大塚 純子)	84
日本語 F (中級) (留学生対象) (大塚 純子)	84

一般教育科目(共通)

人文分野

宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

「宗教とはなにか」という問題にたいして、これまで積みあげられてきた宗教学の研究成果を手がかりにアプローチする。この間に諸宗教形態の特質、宗教の種類、歴史、社会的機能、現代的意味などについて考察する。とくに仏教の世界観・人生観と実践体系について宗教学的に問題にしたい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 脇本平也『宗教を語る』(日新出版)

宗 教 学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化的現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムや外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的な問題についても考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 適時、指示する。

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題を現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)、『仏教の歩んだ道I』(東京書籍)

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は宗教学Iをうけて「禅仏教」を講じてゆくが、特に建学の理念を留意しながら、道元禅師の禅思想を通して、その現代的意義をも考えてゆきたいと思う。

宗 教 学 II

峯 岸 孝 哉

中国で成立し、大いに展開をとげた禅仏教の解説を目的とする。まずインド、中国、日本における禅仏教の歴史について述べ、続いて禅仏教の思想的構造について考える。さらに禅仏教のもつ今日的意味や機能について考える。

〔教科書〕『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解および宗教（禅）と人生との関わり合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『宗教学II』（更生社）

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷辨禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを摸索してみたいと思う。

〔教科書〕大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』（山喜房佛書林） ¥ 1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからや

って来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅という自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕『宗教学II』山内舜雄編（更生社）

¥ 1,950

哲 学

久 保 陽 一 ・ 国 嶋 一 則 ・ 中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

小 宮 山 隆 ・ 戸 田 洋 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

歴 史 学

広 瀬 良 弘

歴史の流れや社会・文化の諸様相をみることによって、歴史を視る目を養いたいと思う。本講座では、とくに、日本の中世から近世にかけての各時代の社会・文化・宗教等の諸様相を具体的にみる中で、その目的を達成したいと考えている。

〔教科書〕 とくになし。
〔参考書〕 講義中に示したい。

文 学

岡 本 恭 子

文学とは何かを客観的に定義づけることは不可能である。では文学とはなんのために存在するのか、また文学と人間はどのような関係にあるのかという問題にしぼると、ある程度、具体的な答が得られるのではなからうか。その方法のひとつに、文学に携わった人たちが、どのような意識をもって文学にかかわったかということ、歴史の流れに添って考察してみるのも有効であると考える。

ここでは、特定の時代、ひとりの作者、ひとつの作品に焦点をしばらない。

〔教科書〕 未定

芸 術 学 (日本美術)

竹 内 尚 次

日本美術のなかで重要な位置を占める禅林美術とは、如何なるもので、如何に展開して花咲いたか、という問題を、その本質を解明することによって理解したい。

まず、曹洞宗の高僧風外慧薫・風外本高禪師の画事から出発し、中国宋元時代の美術、我国鎌倉後期および室町時代の美術を検討することによって、禅林美術の本質を明らかにしたいと思う。つまり、禅宗教団史とのかわりのなから禅林美術の位置を解明しようとするものである。

なお、国宝・重要文化財などの美術作品を直接に鑑賞することも一つの作業とする。

〔教科書〕 『思想の群馬(風外慧薫)』(あさを社) ¥800

〔参考書〕 『夢想国師』玉村竹二著(平楽寺書店)

¥2,200

芸 術 学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパの美術の流れを、11世紀のロマネスク美術より20世紀の現代美術まで概観する。絵画や彫刻のみならず、ヨーロッパの美術で常に大きな役割を果たしてきた建築にも触れる。美術作品の基本的な見方、そして歴史の基本的な見方について、具体的な物を通して考える。

〔参考書〕 『美術の歩み』(上・下) E・H・ゴンブリッチ著(美術出版社)

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

われわれは日常の社会生活の中で、無意識のうちに「法」とかかわりを持っている。たとえば、交通機関を利用する、アパートを借りる、食堂で食事するといった日頃の活動も常に「法」的な側面を持っているのである。

これら「法」の本質、あるいはその発展状況をふまえながら、社会生活をおくるうえで必要不可欠な法知識の基礎を学習してもらおう。そのために、日常生活に密着した多くの具体的事例を挙げて講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人・和知恵一他著『事例法学入門』(東京教学社)、六法

〔参考書〕 小林弘人他著『憲法27講』(創成社)

経 済 学

荒 木 勝 啓

ケインズ理論の入門と現代マクロ経済学および経済政策の基礎を講義する。

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』(日本評論社) ¥3,300

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸課題を、その理論、歴史、制度など多面的な視野から取り上げることにはしたい。また社会学科の政治学であることを考慮して、政党、圧力団体、選挙、政治意識などは、政治社会学的な考察にも意を用いたい。

〔教科書〕 高橋正則他『現代日本の政治構造』(芦書房)

社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言

えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』〔新版〕(学文社)

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

文化人類学

加藤正春

文化人類学の基本的な概念、方法、課題等を講義する。具体的な事例をおおくあげながら、社会組織、宗教・儀礼・世界観その他の人類生活の諸側面を検討する。また、沖縄をふくむ日本の伝統的民俗社会と文化についても適宜紹介したい。

地理学

赤川泰司

概ね次の内容をとりあげる計画である。

○地理学の本質と方法について考察し、自然環境をベースにして、人間生活(民族・文化)、生産活動などについてグローバルな視点から概観する。

○現代社会における地理学の意味を、人口・食糧問題、資源・エネルギー問題、環境(生態系)問題、国際関係などの課題を通して考察してみたい。

※開講時に、受講する学生の高校時代の社会科履修科目状況、また各自の専攻を調査した上で、講義内容を具体的に検討したい。従って多少の変更が予想される。

〔教科書〕 特に指定しないが、プリントでまとめている予定。

〔参考書〕 文献、研究事例をその都度紹介していく。

地理学

渡邊盾夫

この講義では、人文地理学を中心にし、地理学史、自然環境、この自然環境の中で人間がどのように適応して活動をしているのかを講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

自然分野

自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源、とくに水資源、農林海洋、エネルギー資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 その都度紹介する。

自然科学概論

斉藤浩三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで地圏・水圏・気圏にまたがる諸事象のうち、われわれの生活に大きな影響をおよぼす大気汚染、水質汚濁などの環境問題や自然災害の実態をさぐり、さらにこれらの防止技術の現状について講義する。

数 学

斉藤浩三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデータを統計的手法によって整理・集約し、図表化することによって、はじめて情報として役に立つようになる。データの集計・整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、標本調査などの基本事項について、例題を示して解説し、また随時演習も行う。

生 物 学

菅原敬

生命の起源、遺伝、老化、そして生物の進化など現代生物学のかかえる中心的課題について、これまで研究がどのように展開され、どの程度解明されたかを解説していく。また今後の課題などについてもふれる。

〔教科書〕 『バイオサイエンス』(芦書房) ¥2,000

生 物 学

清 水 善 和

生物資源、遺伝子工学、がん、環境汚染など、最先端の問題をとりあげながら、現代生物学の主要な分野をなす遺伝学、免疫学、分類学、生態学などの基礎的な知識の修得をめざす。

〔教科書〕 なし

心 理 学

天 野 珠 子

この講座は、一般教養科目に組入れられているので、心理学を始めて学ぶ学生を対象に、心理学の基礎的分野のそれぞれについて概観し、現代心理学の理解と、日常生活への適用を捉えて行きたい。

心理学を学ぶことで、人間の行動や精神を客観的に把握することができる、社会生活における人間関係や物の見方が変わってくるものと思われる。従来の研究成果をもとに、具体的事例を紹介しながら講義を進めてゆきたい。

〔参考書〕 『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的な知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの、考え方などのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

人 類 学

中 島 寿 雄

一般教育の人類学の講義は、広範な領域を包括するこの学問の性格のため、とかく散漫になりやすいので、年間30回に限られた講義においては、題目をしぼって集中的に行なうことも一法である。本年は「性」を中心として講ずるが、これは性が年齢とともに人類学上の重要な指標であり、人類学のほとんど全範囲を被らうからで

ある。性の問題を明らかにしながら、さらに、人類学にとって最も重要な課題の一つである「人類起源」を、とりわけ社会起源との関連において講じたい。

〔教科書〕 ノートを用いて講義するので教科書は用いない

〔参考書〕 講義中に適時指示する

地 学

宇和川 正 人

気・水・地圏および生物圏を通じて、人類とのかかわりあいを主軸にして解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 その都度紹介する。

化 学

高 木 正 博

まず、化学の領域における基礎的な諸事項を解説する。つぎに、地球化学および環境化学の立場から、化学物質と自然環境の結びつきや、さらにいくつかの身近な化学物質をとりあげ、化学物質と人間のかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

「力」とは何だろうか。日常さまざまな意味で用いられる「力」「重さ」などの語も、物理の世界でははっきりと限定された意味を持っている。本講では力、質量、エネルギー、波などの諸概念について、物理学の発達の流れの中でとらえてみたい。

〔教科書〕 『教養の新物理学』（東京教学社）¥1,300

外国語科目(共通)

英 会 話

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using book 3 only.

英 会 話

W. D. Hubbard

This aural comprehension and speaking oriented course is designed for those students who either expect to study English conversation for just one year or plan to further their competence through subsequent classes. The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Through the use of effective linguistic methods, this course is designed to help you acquire the ability to successfully communicate your ideas in English.

The text for this course will be ENGLISH 900, Book 3. Tapes for this text will also be made available during the course.

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)

宮沢 栄作・光永 吉輝
村松 誠・久保田洋一
関本美津子

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操(玉川体育館)

竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)

田中 佳孝・高森 秀蔵
武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進，内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道(玉川体育館)

光永 吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)，応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣道(玉川体育館)

上山 智身

剣禅一致の精神に基き，初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空手道(玉川体育館)

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き，初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に，受，突，打，蹴技の反復練習)
2. 形(基本の受，突，打，蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手(基本技で取得した，受，突，打，蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相撲(玉川体育館)

館岡 儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に，併せて応用技の習得を行い，心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸上競技(玉川グラウンド)

森本 葵

駒大式四種競技(100米，長距離，砲丸投，走高跳)

を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソフトボール（玉川グラウンド）

太田 誠・原山 良勁
竹田 幸夫・幸前 芳孝

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サッカー（玉川グラウンド）

秋 田 浩 一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンドボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレシャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テニス（玉川グラウンド）

牧野 茂・田中 佳孝
高橋 俊介・浅野 鉦世

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓球（玉川校舎）

原山 良勁・宮沢 栄作
村松 誠・秋田 浩一
関本美津子・幸前 芳孝

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太極拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

ゴルフ（玉川グラウンド）

三幣 晴三・館岡 儀秋

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに、ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により、正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。グローブは必ず着用すること。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：

世田谷区宇奈根1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717 保健体育部

再 履 修 生 種 目 〈本校〉

室 内 球 技（本校体育館）

三幣晴三・森本 葵・竹田幸夫

基礎技術の習得と併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その他）

服装：一般的運動服装、上履用運動靴。

太 極 拳 (本校第二体育館)

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

剣 道 (本校第二体育館)

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基づき、初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館：本学内，男子更衣は三階東側スタンド（ステージに向い左側）。女子は三階西側の更衣室（ステージに向い右側）。
TEL (418) 9517・9213 体育教員室
- (2) 本校第二体育館：本学内，相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。
TEL (418) 9201 体育教員室

随 意 科 目 (共 通)

宗 教 学 特 講 I

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——，特に教職単位であることを考慮し，宗教思想の潮流，および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗 教 学 特 講 II

脇 本 平 也

——宗教現象の構造——宗教現象は，その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば，宗教体験，思想・教義，儀礼，教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造的分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』
(日新出版)

宗 教 学 特 講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題，とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範，更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

哲 学 特 講 I (東 洋)

篠 原 寿 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする，儒教・仏教，そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命，非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に，先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 老子(中公文庫) 280円

〔参考書〕 その都度紹介したい。

哲 学 特 講 II (西 洋)

国 嶋 一 則

人間は，何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常，われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは，自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって，現代世界の有力な主義を明確にし，自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗 教 人 類 学

佐々木 宏 幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ，検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造，社会—文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

民 間 信 仰 論

谷 口 貢

地域社会に展開する神社や寺院を民間信仰との関連で検討を加え，各地の具体的な宗教儀礼を取りあげながら，その構造と機能，およびそれらの文化的・社会的意味についても考察する。また最近の民間信仰の研究動向についてもその都度紹介してゆきたい。

〔参考書〕 桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』(春秋社)

日 本 宗 教 文 化 史

脇 本 平 也

——宗教思想論争——昨年度に引き続き，日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ，文

化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することができる。

〔参考書〕 適時指示する。

民衆宗教成立史

松田文雄

日本仏教の民衆化、土着化に焦点を合わせ、仏教教団の地方伝播、地方定着について考察する。今年度は鎌倉室町期における禅仏教の地方発展をとりあげる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する

歴史哲学

国嶋一則

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を行為すべきか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述

〔1〕 a. 文書の選択, b. 記録命題, c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述, 〔2〕 a. 歴史を動かす意志, b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

東洋思想研究

船津富彦

いわゆる東洋という極めて広い範囲の中で、昔からいろいろの思想が発生し、展開して来たが、それらの中、特に日本にも大きな影響を与えたものに中国で形成された思想がある。本年度は中国で生れた思想の中から特に中国文学にあらわれた文学思想を中心にして、それに投影された儒教、老荘、或は仏教を副として、多くの資料を読みつつ、概説してみたい。

日本文化史I

圭室文雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかかわりを追求してみたい。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史』II(山川出版社)

日本仏教史

圭室文雄

本年は江戸時代の仏教に焦点をあてて講義をおこなう予定でいる。江戸時代の仏教について二つの評価がある。一つは江戸時代の仏教こそが、はじめて庶民の信仰をえたものである。もう一つは江戸時代の仏教は墮落した仏教で、宗祖の精神がほとんど生かされていない。そこで講義ではこのような二つの見解について、研究史の整理・史料の検討を通じて問題点をあきらかにしていきたいと思う。また適宜史料を配布する予定でいる。

〔教科書〕 圭室文雄編『江戸幕府の宗教統制』(評論社)

〔参考書〕 伊東多三郎『近世史の研究』第一巻(吉川弘文館)

日本民俗学

山折哲雄

日本人の生死観を、とくに柳田国男・折口信夫の説にもとづいて考察し、それを西欧やアジアの諸民族のそれと比較する。

〔教科書〕 山折哲雄著『神と仏』(講談社新書)

ドイツ語F

栗原万修

昨年につづきドイツと日本の民話をドイツ語で読みながら、さらにいろいろな資料を参考にして、民話の本質を考察したい。テキストおよび資料はその都度配布する(無料)。

ドイツ語 FLL (初級)

松本洋子

基本的な文型や語彙を身につけ、簡単な日常会話が出来るようにしていきたい。またビデオやテープを用いて、生きたドイツ語を聴きとる能力をつけていきたいと思う。

〔教科書〕 テキストはその都度配布するが、無料。

ドイツ語 FLL (中級)

小林佳世子

一年次のドイツ語(1G, 1R)を終えた者を対象に、ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて様々な生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力を高めること、また基本的な文型や語彙を身につけ、それを応用してドイツ語の表現力を養うことを主な目的とする。さらにドイツ語の背景にある風俗習慣や文化、歴史等にも目を向けるようにしたい。

〔教科書〕 適宜プリントを配布する。

フランス語 F

小玉齊夫

3年ほど前に、フランスの現代思想に関して、およそ1900年から1940年ほどまでの流れを、概略、迎ってきましたので、今年度は、その延長として、1950年代以降の思想(さまざまな領域での)の展開を眺め、把握を試みる予定です。教材・資料は、講義のたびに、適宜、指示しますが、解説書と原著とを併用します。フランス語の読解力は、あるにこしたことはありませんが、特にこだわりません。

フランス語 FLL (初級)

松岡宏一

“Le Français et la Vie”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話すことに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕 “Le Français et la Vie”

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

“De Vive Voix”を教材とし、その第1課から、実用的なフランス語の会話練習をします。さまざまな状況に応じた表現に慣れ、基礎的なちからを養うことを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 “De Vive Voix”

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、“De Vive Voix”の第5課から(履修学生の語学力によって多少の変更はあります)始めます。より一般的なフランス語会話の習得をめざします。

〔教科書〕 “De Vive Voix”

中国語 F

刈間文俊

中国語を二次次まで学んだものを主たる対象とし、文学作品の講読を通してより上のレベルへの向上を目的とする。ここ数年来の新しい作品を選び、文学言語としての中国語の可能性をも考察したい。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの、又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。映画・録音なども教材として使用します。

テキスト：必要に応じて、教場でプリントを配ります

スペイン語 F

佐藤 玖美子

本講座は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に読解力を作文力の養成に力を入れたと思います。テキストとしては、ワントン・アービングの“アルハンブラ物語”のスペイン語訳を予定しています。

スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度L1初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

(前期) 杉山 秀子
(後期) 岡沢 宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 FLL (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 FLL (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F (初級) (留学生対象)

(前期) 杉山 秀子
(後期) 大塚 純子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F (中級) (留学生対象)

大塚 純子

日本語Fの初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学 (片岡 懋)	86
基礎国文学 (小野 寛)	86
基礎国文学 (高橋 文二)	86
基礎国語学 (前期) (片山晴賢・山田みどり)	
(後期) (木村 晟)	86
基礎中国文学 (中村 璋八)	86

専門教育科目

国文学概論 (渡辺 三男)	86
国語学概論 (前期) (片山 晴賢)	
(後期) (木村 晟)	87
国文学講読 I (村上 光徳)	87
国文学講読 II (高橋 文二)	87
国文学講読 III (富士 昭雄)	87
中国文学講読 (篠原 寿雄)	87
国語学研究 (山田 巖)	87
国文学史 I (上代) (遠藤 宏)	87
国文学史 II (中古) (渡辺 三男)	87
国文学史 III (中世) (水原 一)	88
国文学史 IV (近世) (乙葉 弘)	88
国文学史 V (近代) (片岡 懋)	88
国語学演習 I (前期) (若杉 哲男)	
(後期) (木村 晟)	88
国文学演習 I (上代) (小野 寛)	88
国文学演習 I (中古) (高橋 文二)	88
国文学演習 I (中世) (村上 光徳)	88
国文学演習 I (近世) (富士 昭雄)	88
国文学演習 I (近代) (片岡 懋)	88
国文学演習 I (近代) (畑 実)	89
国文学演習 I (近代) (橋本芳一郎)	89
国語学演習 II (山田 巖)	89
国文学演習 II (上代) (小野 寛)	89
国文学演習 II (中古) (高橋 文二)	89
国文学演習 II (中古) (渡辺 三男)	89
国文学演習 II (中世) (村上 光徳)	89
国文学演習 II (中世) (水原 一)	89
国文学演習 II (近世) (乙葉 弘)	89
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄)	89
国文学演習 II (近代) (橋本芳一郎)	90
国文学演習 II (近代) (片岡 懋)	90
国文学演習 II (近代) (大室 英爾)	90

国文学演習 II (近代) (石割 透)	90
国文学研究 (橋本芳一郎)	90
国文学研究 (片岡 懋)	90
国文学研究 (村上 光徳)	90
文学概論 (橋本芳一郎)	90
国語史 (前期) (若杉 哲男)	
(後期) (木村 晟)	90
言語学概論 (飯島 周)	91
上代文学 (小野 寛)	91
中古文学 (廣島まさる)	91
中世文学 (水原 一)	91
近世文学 (富士 昭雄)	91
近代文学 (畑 実)	91
国文学特講 I (乙葉 弘)	91
国文学特講 II (菊地 良一)	91
国文学特講 III (岩佐美代子)	91
中国文学 (中村 璋八)	92
中国文学演習 (飯田 利行)	92
中国文学概論 (飯田 利行)	92
仏教概論 (山内 舜雄)	92
東洋思想研究 (船津 富彦)	92
日本史概説 I (古代・中世) (杉山 博)	92
日本史概説 II (近世・近代) (所 理喜夫)	92
日本文化史 I (圭室 文雄)	92
書道史 (谷村 義雄)	93
書道実習 I (金子 卓義)	93
書道実習 II (金子 卓義)	93
美術史概説 (林 良一)	93
美術史 (谷村 義雄)	93
現代美術 (宮崎 克己)	93
編集実務 (宇賀田達雄)	93
英米文化 (金関 寿夫)	94
日本民俗学 (山折 哲雄)	94

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学

片岡 懋

中野重治「空想家とシナリオ」と夏目漱石「こころ」によって、作品の読み方や作者の考え方などを解説した後、上代から近代に至る文学の史的展開を作家や作品を通して概観する。中野重治の作品と夏目漱石の作品とは各自で準備しておくこと。

〔教科書〕 中野重治『歌のわかれ』（新潮文庫）

基礎国文学

小野 寛

大学で国文学を専攻して勉強するよろこびとそのきびしさを知ってもらいたい。国文学の研究の第一歩は作品をよむことである。まず正しく「よむ」ためには、その作品の正しい本文がなければならない。それはどこにあるか。「よむ」勉強はそこから始まる。

〔教科書〕 適宜、プリントによる。

基礎国文学

高橋 文二

この国の古典文学と近代文学の関りを見渡し、あるいはその比較検討を介して、文学上の種々の問題に対する基礎的な理解を深める。

〔教科書〕 小林秀雄『考えるヒント 3』（文春文庫）
『平安鎌倉女流歌人集』
（加藤中道館）¥1,500

基礎国語学

（前期）片山 晴賢・山田みどり
（後期）木村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたいと思う。併せて現代国語の諸問題も採り挙げて考察する。

本年は日本語の「文法」を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的とされている橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕 和田利政他著『国文法要説（文語篇）』（桜楓社）¥800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

基礎中国文学

中村 璋八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解説し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕 『中国思想文学通史』（明治書院）¥1,500

専門教育科目

国文学概論

渡辺 三男

国文学の領域・種類・理念および研究法について講じ、国文学と風土・時代・社会との関係等の問題にも及びたい。

〔教科書〕 麻生磯次ほか共編『日本文学概論』秀英社

〔教科書〕 『世間胸算用』(明治書院)

国語学概論

(前期) 片山 晴賢
(後期) 木村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういふ観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』笠間書院 ¥800

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』岩波書店
時枝誠記著『国語学原論』岩波書店
山田忠雄著『国語学概論』日大通信教育部

国文学講読Ⅰ

村上 光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』(桜楓社)

〔参考書〕 『平家物語全注釈』(角川書店)

国文学講読Ⅱ

高橋 文二

『更級日記』を読み、王朝文学のありようを考える。
〔教科書〕 『更級日記(翻刻・校注・影印)』(笠間書院) ¥1,400

国文学講読Ⅲ

富士 昭雄

西鶴の『世間胸算用』講読。西鶴の町人物の読解を通して、西鶴文学の特徴を考察する。

中国文学講読

篠原 寿雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにつとめたい。

〔教科書〕 詩文精粹(明治書院) ¥1,100

〔参考書〕 その都度紹介したい。

国語学研究

山田 巖

天草版金句集は、文禄元年(1592)印刷の天草版平家物語に天草版伊曾保物語とともに合綴し、総序を加えて、文禄二年、天草学林から刊行したローマ字本である。本書冒頭に「四書七書などの中より抜き出し、金句集となすものなり」とあるが、実際は、漢籍のほか禅句、国書などを典拠にしている一種の格言辞典と言える。格言は漢文訓読体の文章であるが、それぞれに口語体の文章がついていて、当時の文語文と口語文とを比較する上に貴重な国語資料である。室町末期の語法・語彙・文体を研究する資料として採り上げた。

〔教科書〕 『金句集四種集成』(勉誠社) ¥2,400

〔参考書〕 吉田澄夫『天草版金句集の研究』(東洋文庫)

国文学史Ⅰ(上代)

遠藤 宏

文学の発生から平安奠都までの上代文学の流れを講述していく。

〔教科書〕 『上代文学史』(笠間書院)

国文学史Ⅱ(中古)

渡辺 三男

中古文学の特色と、その史的展開を概説する。

〔教科書〕 山崎正之ほか共編『資料日本文学史上代中古篇』(桜楓社)

国文学史Ⅲ(中世)

水原 一

国文学史における“中世”の意義・特質について考察し、主要作品の解題、その文学性につき理解する。併せて作家の活動・思想を知り、時代背景を展望する。今年には思想・芸能に関する分野をとり扱う予定である。

〔教科書〕 『資料日本文学史・中世篇』(桜楓社)

国文学史Ⅳ(近世)

乙葉 弘

近世文学の特質とその史的展開を概説する。

国文学史Ⅴ(近代)

片岡 懋

近代文学の特質を考え、作家と作品の具体的な考察を通して、時代の流れ、社会の在り方との関連をも考えながら、近代文学の史的展開の相と思潮の隆替について展望する。

〔教科書〕 『片岡良一著作集 第三巻 近代日本文学の展望』(中央公論社)

国語学演習Ⅰ

(前期) 若杉 哲男
(後期) 木村 晟

『唐大和上東征伝』を国語学的見地から解説する。本文は院政期頃書写の観智院本甲本・乙本を対照させながら、院政期の語彙・語法・音韻・文学等の特徴を考察し、併せてヲコト点の解説方法も指導する。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日菊辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 プリントを用意する。

〔参考書〕 授業中に紹介する。

国文学演習Ⅰ(上代)

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。演習では、『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当して徹底的によみ込んでゆく。

〔教科書〕 鶴久・森山隆編『萬葉集』(桜楓社)

〔参考書〕 小野寛校注『万葉集抄』(笠間書院)

国文学演習Ⅰ(中古)

高橋 文二

『源氏物語』の初音・胡蝶の巻を読み、王朝文雅のありようを考える。用語用例の調査、古注を始めとする諸注釈の検討、本文批評等に関しても綿密に行いたい。

〔教科書〕 『源氏物語(⇒)・(⇒)』(岩波文庫) (⇒)¥550 (⇒)¥500

影印本 源氏物語『初音』(新典社) ¥500

〔参考書〕 『平安朝文学史入門便覧』(武蔵野書院) ¥600

国文学演習Ⅰ(中世)

村上 光徳

承久記の研究。とくに古本と考えられている慈光寺本を中心に他の諸本と対校し、慈光寺本の特色・作品としての本書を検討する。

〔教科書〕 『承久記・慈光寺本』(桜楓社刊) (影印)

国文学演習Ⅰ(近世)

富士 昭雄

西鶴の『武家義理物語』演習。西鶴の武家物を精読し、西鶴文学を解明する。

〔教科書〕 『武家義理物語』(桜楓社)

国文学演習Ⅰ(近代)

片岡 懋

樋口一葉、国木田独步、田山花袋、夏目漱石、志賀直哉、有島武郎、芥川龍之介、横光利一、堀辰雄、井伏鱒二、中野重治、岡本かの子の作品を読み、併せて近・現代文学の展開の相を考察する。作品は各作家2、3篇と

する。考察する作品については、最初の時間に提示する。

国文学演習Ⅰ（近代）

畑 実

明治の小説

明治二十年代から明治末年までの代表的小説作品を選んで演習を行う。とりあげる作品は最初の授業時間に指示する予定。

国文学演習Ⅰ（近代）

橋本 芳一郎

「鷗外・漱石」……森鷗外・夏目漱石の両文豪の作品中から、発表者の希望する作品について演習として攻めし、近代文学の研究法を学ぶ。

〔教科書〕 各自手持ちのもの（文庫本でも可）。

〔参考書〕 その都度指示する。

国語学演習Ⅱ

山田 巖

百座法談は天仁三年（1110）に法華経、般若心経、阿彌陀経が講じられた時の聞書である。院政時代の語法研究には打聞集と共に最も貴重な資料である。語法・文体・語彙等について百座法談を研究する。

〔教科書〕 『百座法談聞書抄』桜楓社 ¥1,000

国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

『古事記』の演習をする。上巻の神話をよむ。並行して、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、皆で考え、採り合いながら、各自の卒業論文への結実を図る。

〔教科書〕 西宮一民編『古事記』（桜楓社）

国文学演習Ⅱ（中古）

高橋 文二

『古今集』の「羈旅歌」「物名」などを読み、「歌物語」の世界との関りを探る。演習の方法は演習Ⅰに準ずる。

〔教科書〕 『古今和歌集』（玉川琢彌編）（桜楓社）

¥1800

国文学演習Ⅱ（中古）

渡辺 三男

小倉山荘色紙和歌と題する九条家襲蔵の百人一首をテキストとして、各作者の代表作を読解鑑賞し、中世初頭までの和歌の流れを通観したい。

〔教科書〕 小倉山荘色紙和歌『百人一首』（桜楓社刊影印本）

国文学演習Ⅱ（中世）

村上 光徳

『無名抄』の研究。とくに歌論・歌学に関する研究を中心とする。六条源家の流れを受けている長明が当時の歌壇をどううけとめていたのか、また作歌態度等をも考える。

〔教科書〕 『方文記・無名抄』（双文社刊）

国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

鴨長明の『発心集』を教材として演習を行ない、併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕 日本古典文学大系『和漢朗詠集・梁塵秘抄』（岩波書店）

国文学演習Ⅱ（近世）

乙葉 弘

近世中期の浄瑠璃とテキストとして演習を行う。卒業論文の指導は開講後、受講者と相談する。

〔教科書〕 日本古典文学大系『浄瑠璃集』上（岩波書店）

国文学演習Ⅱ（近世）

富士 昭雄

影印本による西鶴及び秋成の小説の演習。併せて卒業論文の指導も行う。

〔教科書〕 『好色一代男〈一・二〉』（笠間影印叢刊・62）（笠間書院）

『雨月物語』（影印本）（桜楓社）

国文学演習Ⅱ(近代)

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書〕・〔参考書〕 その都度指示する。

国文学演習Ⅱ(近代)

片岡 懋

北村透谷、正岡子規、国木田独歩の作品を読み、近代文学の在るべき相について考えたい。卒業論文についての指導も兼ねて行う。

〔教科書〕 勝本清一郎校訂『北村透谷選集』(岩波文庫)

国文学演習Ⅱ(近代)

大室 英爾

日本近代文学のなかから主要な作品を選び、読んでいく中で、問題点を探り、深めていく。この作業を各自の卒業論文作成の一助とする。

〔教科書〕 教場にてその都度指示する。

〔参考書〕 ”

国文学演習Ⅱ(近代)

石割 透

夏目漱石の作品、「吾輩は猫である」から「明暗」までを発表された順に読んでいきたい。報告者を毎時間きめて、その報告にしたがって問題点を深めていきたい。

〔教科書〕 特に定めない。

国文学研究

橋本 芳一郎

「日本近代象徴派と耽美派」……鷗外の初期評論、晶子の詩歌、上田敏による西欧高踏派・象徴派の詩の紹介、有明・白秋・李太郎らの創作詩、荷風・潤一郎の初期小説・戯曲などを作品鑑賞を中心に研究する。

〔教科書〕 詩歌はプリントして与える。

〔参考書〕 その都度指示する。

国文学研究

片岡 懋

明治30年代文学の特色とその展開の相を、小杉天外、小栗風葉、徳田秋声、島崎藤村、田山花袋、徳富蘆花、内田魯庵、木下尚江らの作品によって考察する。

国文学研究

村上 光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評の部分で女の論・男の論を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕 『昭和校注 無名草子』(武蔵野書院)

文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用

〔参考書〕 その都度指示する。

国語史

(前期) 若杉 哲男
(後期) 木村 晟

国語の変遷のあとを上代から近代に至るまで音韻・語法・語彙の各分野に亘って概観するが、本年は特に院政鎌倉期から近代までの後半部に重点を置いて講義し、近代語成立の様相を眺めることとする。

〔教科書〕 佐藤喜代治著『国語史(下)』(桜楓社)
¥1,200

〔参考書〕 『講座 国語史』〈音韻・文学・語彙・言語生活史〉(大修館)

〔教科書〕 『三冊子』 (影印本) (笠間書院)

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、具体例の検討を行なう。言語一般に通用する原理を前提とするが、日本語を中心に考察する。理論的な面では、機能的分析の適用による結果に注意したい。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 V. アテジウス『機能言語学』(桐原書店) ¥2,800

近代文学

畑 実

『小説神髓』への道

明治初期の文学を概観し、そこに流れる文学改良の方向を考察し、近代文学の出発点といわれる『小説神髓』へのつながりを考えてみたい。テキストは用いずノートによるが、プリントを配布することがある。

上代文学

小野 寛

上代文学とは何か。『万葉集』をよみながら、その都度、上代の歴史・社会・風土・民俗を考え、ことばの本源をしらべ、古代日本人の心を探ってゆく。

〔教科書〕 小野 寛校注『万葉集抄』(笠間書院)

国文学特講 I

乙葉 弘

影印本によって近松の浄瑠璃を読み、木版本の読み方浄瑠璃の解釈・鑑賞などを行う。なお、浄瑠璃人形劇の成立・変遷、近松の浄瑠璃、特質なども講述する予定。講読は「曾根崎心中」よりはじめる。

〔教科書〕 影印本「曾根岸心中・心中天の網島」桜楓社。

中古文学

廣島 まさる

源氏物語を影印本で読むことによって、写本を読む力を養うとともに、読解力を深め、さらに作品の持つ文芸性や作品中の人物像にもふれたい。

〔教科書〕 源氏物語『薄雲』影印本(新典社) ¥800

〔参考書〕 写本の読み方(桜楓社) ¥680

国文学特講 II

菊地 良一

文学と仏教の思想的形成関係を考察する。

平安朝から鎌倉期にわたって仏教思想を受容した物語和歌説話随筆評論等の諸作品について、それら作品を羅列指摘するのではなく、それらの思想が仏教のいかなる思想によるか、それが文学思想としてどのような文芸思想を形成したか考察する。そして中世文学の特質である仏教性をあきらかにして、中世日本文学の理解をふかめることを目的とする。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 講義の時に説明する。

中世文学

水原 一

中世軍記の巨篇である『太平記』の重要章段を影印本で読み、解釈・考証を通してその軍記としての特質・意義について考えてみたい。

〔教科書〕 『版本太平記抄』(水原・長谷川) 桜楓社

国文学特講 III

岩佐 美代子

中世女流日記の中から、『中務内侍日記』を影印本によって読む。本格的研究の進んでいない作品であるから基礎的読解と本文批判を主とし、あわせて中世女流日記全般の性格をも考えたい。

〔教科書〕 『彰考館蔵 中務内侍日記』(和泉書院) ¥1,800

近世文学

富士 昭雄

俳論書『三冊子』の読解を中心に、蕉風俳諧の特色を考察する。また影印本により近世の版本の読みにも習熟する。

中国文学

中村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事・民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦、習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義校註』（汲古書院）¥3,000

中国文学演習

飯田 利 行

中国の文学史上に、その比を見ざる良寛文学。また日本近代文学史上、漱石、朔太郎の人および作品に最も影響を与えた良寛珠玉の詩篇を演習する。

〔教科書〕大法野閣刊『良寛詩集譯』¥2,400

中国文学概論

飯田 利 行

日本精神文化史上、特に日本大学に最も影響を与えた中国文学の作品を中心として概論する。

〔教科書〕中国・日本史文研究会発行『中国文学概論』¥1,000

仏教概論

山内 舜 雄

仏身論、成道論、本尊論を中心に、仏教成立の思想的根拠を体系的に概説して、仏教全般のアウトラインを明示すると共に、中国成立の仏教教学の主要なもの解説を教理的にこころみ、以て日本仏教における各宗教学との関係を明確し、インド、中国、日本と三国にわたる仏教の思想的理解を体系的に把握させることを目的とする。

〔教科書〕ノート講義

東洋思想研究

船津 富 彦

いわゆる東洋という極めて広い範囲の中で、昔からいろいろの思想が発生し、展開して来たが、それらの中、特に日本にも大きな影響を与えたものに中国で形成された思想がある。本年度は、中国で生れた思想の中から特に中国文学にあらわれた文学思想を中心にして、それに投影された儒教、老荘、或は仏教を副として、多くの資料を読みつつ、概説してみたい。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉 山 博

日本の中世国家の政治過程と政治機構を、前年度に引き続き具体的に解明したい。

〔教科書〕佐藤進一著『日本の中世国家』岩波書店 ¥1,400

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

所 理 喜 夫

江戸幕府創業史から、その政治史・権力構造、江戸時代の文化・経済等について論述する。

〔参考書〕講義中、適宜に指示する。

日本文化史Ⅰ

圭 室 文 雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかわりを追求してみたい。

〔教科書〕池田英俊・大浜徹也、圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕笠原一男編『日本宗教史』Ⅱ（山川出版社）

書道史

谷村 義雄

殷代の甲骨文字に既に書法の萌芽を見る。書すなわち漢字の書法を、各時代別に文字書体の変遷とともに考えて行く方法で解明していく方針。六朝以後は楷行草の草創期で、ここに起った書芸術の自覚、特に北魏の書法と南朝の王羲之を中心とする書法との対比を考えて、この影響下に隋唐の書法が開花する。これらのテーマを講義する。

〔参考書〕(筑摩書房)『書の本』第1, 第2, 谷村外共同執筆。

書道実習 I

金子 卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷行草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書「高貞碑」を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道I』[高校用教科書 旧版](教育出版)
中国の書道『高貞碑』(書芸文化新社)

書道実習 II

金子 卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国唐時代の行草書「祭姪文稿」を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道II』[高校用教科書 旧版](教育出版)
中国の書道『争坐位帖、祭姪文稿』(書芸文化新社)

美術史概説

林 良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

美術史

谷村 義雄

中国および日本に於ける書道芸術の変遷を文学発生の原始から説きおこし、各時代に於ける書体の特質を探求する。甲骨文、金文、篆文、隸書そして楷行草の書体の変遷を中心として講義を行なう。

〔参考書〕伏見沖敬編『書の歴史』図版篇(二文社発行)

現代美術

宮崎 克己

19・20世紀の西洋絵画を、具体的な作品を多く採り上げながら考える。現代美術に内在する空間、色彩、意味内容の問題を中心に据え、その他、現代美術を取巻く環境についても述べる。講義以外にも、美術館や展覧会を自主的に見に行く事が必要になるであろう。

編集実務

宇賀田 達雄

将来マスコミの方面に進む者は当然知っている方がよいことだが、編集の知識と技術は、情報化時代の今日、あらゆる方面から強く求められている。雑誌など印刷物を新しく編集するとき、企画をたてるため前提として考えなければならないことは何か、原稿を自ら書き、また他人に依頼するため必要なことは何か、入手した原稿をどのようにして編集するか、レイアウトのしかたは、校正はどうやるのか——編集者として知っていなければならない知識、編集上必要な技術はいろいろとあるが、基本さえ身につければ、それほどむずかしいものではない。その基本を、実習を通して考えてみたい。

〔教科書〕印刷学界編集部『編集校正便覧』250円
〒104 中央区銀座5-6-2 安藤七宝ビル3F
TEL 571-6025

英 米 文 化

金 関 寿 夫

米国文化の特質を文学、美術、演劇映画、音楽等について解説、そのユニークさを明らかにする。授業にはスライド、カセットテープを使用することがある。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 教場で示す。

日 本 民 俗 学

山 折 哲 雄

日本人の生死観を、とくに柳田国男、折口信夫の説にもとづいて考察し、それを西欧やアジアの諸民族のそれと比較する。

〔教科書〕 山折哲雄著『神と仏』（講談社新書）

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論 (中岡 洋)	96
米文学概論 (金関 寿夫)	96
基礎英語 I A (東 雄一郎)	96
基礎英語 I A (坂本 武)	96
基礎英語 I A (高野 正夫)	96
基礎英語 I B (A. G. Ryder)	96
基礎英語 I B (N. Readdy)	96
基礎英語 I B (T. J. Wright)	97
基礎英語 II A (荒井 良雄)	97
基礎英語 II A (東 雄一郎)	97
基礎英語 II A (高野 正夫)	97
基礎英語 II B (N. Readdy)	97
基礎英語 II B (A. G. Ryder)	97

専門教育科目

英語学概論 (大沢 一雄)	98
英作文 I (佐藤 千春)	98
英作文 I (坂本 武)	98
英作文 I (東 雄一郎)	98
英作文 I (高野 正夫)	98
英文学史 I (河崎 征俊)	98
英文学史 II (中岡 洋)	98
米文学史 (佐藤 千春)	98
英語史 (岡田 尚)	99
音声学 (坂本 武)	99
英米語学演習 (英作文 II)	
(57年度以前入学生：批評論研究)	
(河崎 征俊)	99
英米語学演習 (英作文 II)	
(57年度以前入学生：批評論研究)	
(佐藤 千春)	99
シェイクスピア (荒井 良雄)	99
英文学演習 I (中世) (河崎 征俊)	99
英文学演習 II (英文学16・17C)	
(河崎 征俊)	99
英文学演習 V (詩19・20C)	
(高野 正夫)	99
英文学演習 VI (小説 I 19C)	
(中岡 洋)	100
英文学演習 VII (小説 II 20C)	
(飯島 淳秀)	100
英文学演習 VIII (批評19・20C)	
(東 雄一郎)	100

米文学演習 I (詩) (金関 寿夫)	100
米文学演習 II (小説 I) (岡崎寿一郎)	100
米文学演習 III (小説 II) (佐藤 千春)	100
米文学演習 IV (小説 III) (田中 剛)	100
米文学演習 V (批評) (赤祖父哲二)	100
英米演劇演習 (荒井 良雄)	100
英文学特講 I (英文学16・17C)	
(石原 孝哉)	101
英文学特講 III (詩19・20C)	
(高野 正夫)	101
英文学特講 IV (小説 I 19C)	
(中岡 洋)	101
英文学特講 V (小説 II 20C)	
(飯島 淳秀)	101
英文学特講 VI (批評19・20C)	
(武田 勝彦)	101
米文学特講 I (詩) (東 雄一郎)	101
米文学特講 II (小説 I) (佐藤 吉介)	101
米文学特講 III (小説 II) (山縣 敏夫)	101
米文学特講 IV (小説 III) (田中 剛)	102
米文学特講 V (批評) (佐藤 吉介)	102
英米演劇特講 (落合 和昭)	102
英米語学演習 (英語学) (大沢 一雄)	102
英米語学演習 (英語史) (繁尾 久)	102
英米語学演習 (英文法) (岡田 尚)	102
英米語学演習 (英会話) (N. Readdy)	102
英米語学演習 (英会話) (W. D. Hubbard)	102
英米語学演習 (英会話) (T. J. Wright)	102
英米文化 (金関 寿夫)	103
時事英語 (大沢 一雄)	103
商業英語 (青山 則雄)	103
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	103
日本文化史 I (圭室 文雄)	103
現代美術 (宮崎 克己)	103

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英 文 学 概 論

中 岡 洋

Shakespeare を始めとして多くのすばらしい作家たちが作りあげる英文学の世界は深い魅力をたたえている。その魅力ある世界について基礎となる知識を講じていく。英文学を学ぶ喜びを味わい、学ぶ意欲を一層深めてもらいたい。

〔教科書〕・〔参考書〕 教室で指示する。

米 文 学 概 論

金 関 寿 夫

米文学研究鑑賞に必要な時代背景、思想、文学論などを解説する。

〔教科書〕 小説、詩、評論などをプリントで読む。

〔参考書〕 教場で示す。

基 礎 英 語 I A

東 雄 一 郎

Readingや Translation の能力を前提とした、Hearing の能力の養成、向上をはかる。英語の基礎的かつ総合的な実力の養成を目指す。当然、予習を欠かさないこと。

〔教科書〕 開講時に指示します。

基 礎 英 語 I A

坂 本 武

Tape 使用を主体とする内容で、いわゆる「読んで訳して」ではない。毎時間、「書取り」(Dictation) を実施

し、いわゆる Hearing (Understanding) の能力向上につとめたい。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕・〔参考書〕 教場にて指示する

基 礎 英 語 I A

高 野 正 夫

英語の基礎的な知識を養うために、英文を読みながら文法や作文の注意点について、それぞれ検討していくつもりです。

〔教科書〕 教場にて説明します。

〔参考書〕 未定。

基 礎 英 語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基 礎 英 語 I B

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation,

both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK : ENGLISH 900. BOOK 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

基礎英語 I B

T. J. Wright

This will be an intensive comprehensive course for underclassmen. We will cover the four basic skills of the English language. Emphasis will be placed on learning to read, write, listen and speak.

Weekly written and oral assignments will be required. Attendance is mandatory and students may not speak any Japanese in class. This will be a great opportunity to improve your English ability. I promise the class will be quite interesting and educational.

Textbooks to be announced at a later date.

基礎英語 II A

荒井良雄

英語検定一級の英語力を目標にした Reading, Speaking, Hearing, Writing の総合演習を英語でおこないます。聞き取りはラジオやテレビの英語ニュース、読解力は英字新聞の論説や *Time* および *Listner* の記事を使用して訓練します。副読本として「英語一級問題集」の最新版を持つことが望ましいと思います。

LL教室があれば、使用いたします。

〔教科書〕 *Words To Live By* (北星堂)

基礎英語 II A

東 雄一郎

Text の内容理解, Points of study, 応用 Exercises の流れの中で、英語の総合力の養成をはかる。テープを使用し、Hearing の力を向上させる。当然、予習を欠かさないこと。

〔教科書〕 開講時に指示します。

基礎英語 II A

高野正夫

テープを用いながら、英語の口語表現の知識を養うとともに、英作文の演習も行なっていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 II B

N. Readdy

The general outline of the course is the same as that given for English 900, Book 3 except it is of a more advanced nature.

This course consists of exercises in everyday English using tapes [about 15 minutes] and individual participation. Examination requirements are the same as those in conversation I.

TEXTBOOK : ENGLISH 900 Book 4 COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL.

基礎英語 II B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

専門教育科目

英語学概論

大沢 一雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、それは、言語について研究する学問すなわち言語学の一部であることは、いうまでもない。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語で English philology とか English linguistics といわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

英作文Ⅰ

佐藤 千春

使用するテキストなど、授業開始の時点で連絡いたします。

〔教科書〕 未定。

英作文Ⅰ

坂本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について巾広く採り上げる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕・〔参考書〕 教場にて指示します

英作文Ⅰ

東 雄一郎

前期は基本的な表現を中心として授業をすすめ、後期は応用力の養成をはかる。毎回、必ず授業中に小テストをおこない、これを出席票とする。当然、予習は欠かせないこと。

〔教科書〕 開講時に指示します。

英作文Ⅰ

高野 正夫

英作文を書く時に比較的誤り易い例文を、文法的に見ていきながら、基礎的な英作文の力を養っていきます。

〔教科書〕 未定

英文学史Ⅰ

河崎 征俊

古代から中世を経て、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。

〔教科書〕 教場で指示します。

英文学史Ⅱ

中岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を輩出してきた。Wordsworth, Scott, Austen らの時代以降、それらの作品を年代順に跡づけ、現在に至る。不滅の作品群にふれる歓びを共に味わいたい。

〔教科書〕・〔参考書〕 教室で指示する。

米文学史

佐藤 千春

時代の流れ、とくに文芸思潮に焦点をあわせながら、これに触れ、この間に輩出した作家、ならびにその主要作品を解説して行く。

〔教科書〕 『アメリカ文学史入門』井上謙治編(創元社)

英 語 史

岡 田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 教室で指示する。

音 声 学

坂 本 武

調音音声学の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが、本講義の内容である。今更自己流の発音がなおせるかな……ではなくて、英米文学科生は徹底的にこれを第一歩から修正する必要がある。英語の母音、子音からはじめて、各論に至る迄知識を得てほしいものである。英語を専攻していて、natives の発音が判らない、したがって自己の考えも表現不可能、では困るのである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕・〔参考書〕 教場にて指示する

英米語学演習（英作文Ⅱ）

（57年度以前入学生：批評論研究）

河 崎 征 俊

基本的な表現から、一歩進んだ表現へと向かってゆきます。予習、復習を欠かさないことが大切です。なお、英作文の向上には優れた英文にふれることが重要であることを忘れないでほしいです。機械的な作業から思考的レベルへと向けて努力してほしいです。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）

（57年度以前入学生：批評論研究）

佐 藤 千 春

授業開始の時点で連絡いたします。

〔教科書〕 未定。

シェイクスピア

荒 井 良 雄

シェイクスピアの人生観と劇作術と言葉の魅力を、『ハムレット』を中心に講義します。シェイクスピアの生涯と作品、批評史や上演史などにもふれながら講義を進め、『ハムレット』以外の悲劇や喜劇からも引用しますので、特にシェイクスピアに関心の深い学生は全作品を収録した一冊本全集 The Alexander Text を持つのが望ましいと思います。一般学生は指定のテキスト、または研究社版の対訳双書『ハムレット』で十分です。

〔教科書〕 『ハムレット』（日本放送出版協会）

英文学演習Ⅰ（中世）

河 崎 征 俊

昨年に続き Chaucer の *The Canterbury Tales* を読みます。中世英語の文法及び当時の社会的背景や文化風土なども交えながら、中世の世界が現代にどのようにかかってくるのかを考えてみたいと思います。作品は F. N. Robinson 版をコピーにして使用します。ノートが必要ですから用意すること。

〔教科書〕 『イメージの詩学』（篠崎書林）¥3,200

英文学演習Ⅱ（英文学16.17C）

河 崎 征 俊

ジョン・ダンを中心とする形而上詩人の作品を読み、シェイクスピアの作品とのかかわり方を研究します。正確な読みが求められますので、予習を欠かさないことが大切です。

〔教科書〕 『イメージの詩学』（篠崎書林） ¥3,200

〔参考書〕 教場でその都度指示します。

英文学演習Ⅴ（詩19.20C）

高 野 正 夫

ニュー・カンントリー派の中心人物である、オーデンの後期の作品をとりあげる。1948年以降、及び彼がミンガンアン・アーバー大学で教えていた頃の *Shorter Poems* を読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英文学演習Ⅵ (小説Ⅰ19C)

中 岡 洋

The Brontë Sisters はイギリス的でなく、それでいて紛れもなくイギリス的である。それだけ魅力的なわけであるが、その魅力の秘密をさぐっていききたい。本年度はそのデビュー作、Charlotte Brontë の名作*Jane Eyre*を読む。

〔教科書〕 教室で指示する。

〔参考書〕 教室で指示する。

英文学演習Ⅶ (小説Ⅱ20C)

飯 島 淳 秀

20世紀イギリス小説を読む。毎回、学生に当ててやってもらふ。前期と後期にそれぞれ課題レポート(単位レポート)の提出が必ず要求される。テキストは開講時に指示する。

英文学演習Ⅷ (批評19.20C)

東 雄一郎

前期は詩に関する評論文、特に T. S. Eliot の著書を読み、現代詩についての考察を試み、後期は小説に関する評論文、E. M. Forster や Edwin Muir (*Aspects of the Novels*, 並び *The Structure of the Novel*) を中心に読み、近代小説についての考察をすすめる。

〔教科書〕 『T. S. Eliot』(山口書店), 他は開講時に指示します。

〔参考書〕 開講時に指示します。

米文学演習Ⅰ (詩)

金 関 寿 夫

現代アメリカ詩の代表作をフロストから最近の詩人に至るまで熟読鑑賞し、時代精神の変化との関連においてアメリカ詩の特質を明らかにする。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 教場で示す

米文学演習Ⅱ (小説Ⅰ)

岡 崎 寿一郎

アメリカ小説の講読を通して文学が現代にもつ意味を探究してみる。

〔教科書〕 教場で指示する。

米文学演習Ⅲ (小説Ⅱ)

佐 藤 千 春

本年度は、とくに19Cの作品を読んでみることにする。小説Ⅱとはなっているが、必ずしも小説とは限らず、エッセーなども扱うかも知れない。詳しいことは授業開始の時点で連絡の予定。

〔教科書〕 未定。

米文学演習Ⅳ (小説Ⅲ)

田 中 剛

ハーマン・メルヴィルの代表作『白鯨』を抜萃で読む。

〔教科書〕 『Moby-Dick or the whale』(あぼろん社 ¥650)

米文学演習Ⅴ (批評)

赤 祖 父 哲 二

William Faulkner: *The Bear* (フォークナー『熊』)を読む。

〔教科書〕 『熊』(開文社)

英米演劇演習

荒 井 良 雄

イギリス的一幕劇の名作として知られるテレンス・ラティガンの『ブラウニング版』をテキストにして、ドラマの鑑賞法と研究法を演習したあと、ブロードウェイで3,224回の超ロングラン記録を樹立した名舞台劇『父と暮らして』(*Life with Father*)を精読します。

〔教科書〕 『ブラウニング版』(成美堂)

英文学特講Ⅰ (英文学16.17C)

石原孝哉

イギリス・ルネッサンス期の文学について講ずる。中世から近世への移行期における世界観の変遷について、トーマス・モア、スペンサー、マロー、シェイクスピア、ベン・ジョンソン、ミルトンなどを例にして論ずる。文学のみならず人文科学全体に興味のある学生の受講を望む。

〔参考書〕 そのつど教場にて指示する

英文学特講Ⅲ (詩19.20C)

高野正夫

オーデンやディラン・トーマス以降、イギリスの現代詩はまったくアメリカの詩に圧倒されてしまったようであるが、このような沈滞ぎみの現代イギリスの詩人のなかでも、強烈な個性を放っている若い詩人の作品を読んでいきます。さらに、現代詩とは対照的なロマン派の詩についても見ていくつもりです。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学特講Ⅳ (小説Ⅰ19C)

中岡洋

The Brontë Sisters は英文学史上の「突然変異」だとはよくいわれるが、それがどこまで真実で、どこから真実でないか、彼女たちの特異性を英文学史のなかのどこへ、どのように位置づければよいか、そういう魅力的な問題について、その前後の作家群を視野に取めながら、その生い立ち、教育、時代、環境、当時の女性の立場という現実的問題から作品までをじっくり考察する予定である。

〔教科書〕・〔参考書〕 教室で指示する。

英文学特講Ⅴ (小説Ⅱ20C)

飯島淳秀

現代イギリス文学、特に小説にみられる20世紀の特徴心理小説、伝記と小説の相関、その他について講義する予定。特定のテキスト、参考書は用いない。前期・後期にそれぞれ課題レポート(単位レポート)の提出が必ず求められる。出席も重視される。

英文学特講Ⅵ (批評19.20C)

武田勝彦

アリストテレス以降の西欧の批評史を略述しながら、英・米文学の批評の源泉を探究する。それを原点とし、19世紀と20世紀の批評のあり方を具体的に論述する。

前期は主としてアーノルド、ペイター、ワイルド、シモンズを通してのイギリスの批評のあり方を辿る。この過程で、いかに比較文学的見地が批評の中に確立されたかを詳説する。

後期はT・S・エリオット以降の分析批評、深層心理学、ゲシュタルト心理学を応用した批評がどのように展開したかを実例をあげながら講述する。最後に批評がいかにして科学性を持ち、かつ創造性を発揮し得るかにまで論及したい。

〔教科書〕 『比較文学の試み』(創林社)

〔参考書〕 『基本文芸用語辞典』(荒竹出版)

米文学特講Ⅰ (詩)

東雄一郎

アメリカ現代詩の創成期から今日に至るまでの変遷をたどり、アンソロジーを読み、すすめる。17世紀の Anne Bradstreet から20世紀の Sylvia Plath に至るまでの代表的な詩人を取りあげ、現代の詩的状況を検討する。

〔教科書〕 *The Penguin Book of American Verse*, ed. Geoffrey Moore

〔参考書〕 『アメリカ現代詩ノート』(研究社)

¥2,000

米文学特講Ⅱ (小説Ⅰ)

佐藤吉介

アメリカ文学——特に19世紀の作品、Mark Twain, Ambrose Bierce, Stephen Crane, Nathaniel Hawthorne などを用いて英語文学の風土背景を講述する。

〔教科書〕 プリント

米文学特講Ⅲ (小説Ⅱ)

山縣敏夫

アメリカにおける黒人文化の歴史的発展を考察し、現代黒人文学の代表的作家・ボールドウィン (James

Baldwin), エリソン (Ralph Ellison) 等を中心に, その作品研究を行う。

〔教科書〕 開講後指示する。

米文学特講Ⅳ (小説Ⅲ)

田 中 剛

マーク・トウェインの代表作『ハックルベリー・フィンの冒険』を中心に, 彼の主要な作品について考える。

〔教科書〕 研究社英米文学叢書 Huckleberry Finn
¥2,900

米文学特講Ⅴ (批評)

佐 藤 吉 介

アメリカ文学の作品を材料に使用して批評の方法—分析, 文体論, 表現論, 時間論, 一—を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。

〔教科書〕 プリント

英米演劇特講

落 合 和 昭

昨年度に続いて, 劇の「様式化」について学ぶ。エクスプレシオニズム, セアトリカリズム, エグジスタンシャルリスト・ドラマ, 不条理劇, エイリアネイション, 現代のコメディ・オブ・マナーズ, スーブラ・リアリズム, ケイス・スタディ, ミュージカル等。

また, 劇の要素であるダイアログ, ストーリー, キャラクター, アクションや劇の大きな二分野である, 悲劇と喜劇について学ぶ。

〔教科書〕 アメリカの大学用のテキストを使用する。

英米語学演習 (英語学)

大 沢 一 雄

Good English, bad English とはどういうことか, とくに, 口語体の英語について考えてみる。テキストには, いくつかの one-act plays を用いる。

英米語学演習 (英語史)

繁 尾 久

英語の先史時代から, OE, ME を経て現代に至る流れを概観できるようにしたい。テーマを定め, 参加者が意見を発表し, 自由に討論ができる場となるように努める。

〔教科書〕 開講時指定

〔参考書〕 岡田尚訳モッセ著『英語史概説』(開文社)

英米語学演習 (英文法)

岡 田 尚

生きた英文に接しながら, 伝統的な文法の知識を確認するとともに, どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習 (英会話)

N. Readdy

Same as Page 72. However, if the majority of students in this class have already completed ENGLISH 900 Book 4, we will proceed with Book 5.

英米語学演習 (英会話)

W. D. Hubbard

This course is designed for those students who desire to continue their English conversation study through their 3rd or 4th year. Emphasis is on using a variety of topics to increase both listening and speaking abilities. Textbook not yet decided.

英米語学演習 (英会話)

T. J. Wright

This class will be on the intermediate to advanced level. We will cover a variety of material dealing with Communicative Competence in the English language.

Each week students will be required to communicate in English on a number of assigned subjects. Stress will be placed on the four basic skills-reading, writing, listening and speaking. Students should have an open-mind and a strong desire to improve their level of speaking. There will be no Japanese spoken in my class. I promise it will be an educational and exciting experience.

Textbooks to be announced at a later date.

英米文化

金 関 寿 夫

米国文化の特質を文学、美術、演劇映画、音楽等について解説、そのユニークさを明らかにする。授業にはスライド、カセットテープを使用することがある。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 教場で示す

時事英語

大 沢 一 雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいいうと、新聞、テレビ、ラジオ等の mass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

商業英語

青 山 則 雄

前期は輸出取引の流れに沿い、テキストのモデル・レターを読み貿易用語を解説する。また簡単なビジネス英文作成を練習する。後期は正式なフォームで英文レターを作成できるようにし、また経済レポートの書き方も指導する。

〔教科書〕 斎藤祥男著、『国際貿易英語通信』（梓出版社）

ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変

化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』（研究社）

日本文化史 I

圭 室 文 雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかかわりを追求してみたい。

〔教科書〕 池田英俊、大浜徹也、圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史』Ⅱ（山川出版社）

現代美術

宮 崎 克 己

19・20世紀の西洋絵画を、具体的な作品を多く採り上げながら考える。現代美術に内在する空間、色彩、意味内容の問題を中心に据え、その他、現代美術を取巻く環境についても述べる。講義以外にも、美術館や展覧会を自主的に見に行く事が必要になるであろう。

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学 (今朝洞重美)	105
基礎人文地理学 (長野 覚)	105
基礎自然地理学 (長沼 信夫)	105
基礎自然地理学 (早船 元峰)	105

専門教育科目

人文地理学実習 (上野 福男)	105
人文地理学実習 (小川 徹)	105
人文地理学実習 (今朝洞重美)	105
人文地理学実習 (桜井 正信)	105
人文地理学実習 (長野 覚)	106
自然地理学実習 (小池 一之)	106
自然地理学実習 (中村 和郎)	106
自然地理学実習 (長沼 信夫)	106
自然地理学実習 (高木 正博)	106
自然地理学実習 (早船 元峰)	106
野外巡検 I (小川 徹)	106
野外巡検 I (桜井 正信)	107
野外巡検 I (長沼 信夫)	107
野外巡検 I (西村 嘉助)	107
野外巡検 I (高木 正博)	107
野外巡検 I (長野 覚)	107
野外巡検 I (早船 元峰)	107
日本地誌 I (今朝洞重美)	107
外国地誌 I (生井澤 進)	107
経済地理学 I (赤川 泰司)	107
郷土地理学 (長野 覚)	108
集落地理学 (小川 徹)	108
地形学 I (西村 嘉助)	108
地 図 学 (高木 正博)	108
交通地理学 (奥野 隆史)	108
地理学総論 (小川 徹)	108
地理学総論 (中村 和郎)	108
地理学総論 (西村 嘉助)	108
野外巡検 II (上野 福男)	108
野外巡検 II (今朝洞重美)	109
野外巡検 II (小池 一之)	109
野外巡検 II (中村 和郎)	109
野外巡検 II (長沼 信夫)	109
野外巡検 II (高木 正博)	109
外国地誌 II (上野 福男)	109

経済地理学 II (生井澤 進)	109
地形学 II (今泉 俊文)	109
歴史地理学 (桜井 正信)	110
人口地理学 (上坂 修夫)	110
原書講読 (梅原 弘光)	110
地 質 学 (小池 一之)	110
土壤地理学 (吉野 (漆原) 和子)	110
気 候 学 (中村 和郎)	110
海洋学及び陸水学 (長沼 信夫)	110
環境地理学 (早船 元峰)	110
日本地誌 III (中島 義一)	111
外国地誌 III (梅原 弘光)	111
都市地理学 (今朝洞重美)	111
計量地理学 (奥野 隆史)	111
応用地理学 I (高木 正博)	111
応用地理学 II (今野 修平)	111
文化地理学 (宮口 侗廸)	111
空中写真判読法及測量学 (小池 一之)	111
地理学特講 I (長野 覚)	111
地理学演習 (上野 福男)	112
地理学演習 (小川 徹)	112
地理学演習 (今朝洞重美)	112
地理学演習 (小池 一之)	112
地理学演習 (桜井 正信)	112
地理学演習 (中村 和郎)	112
地理学演習 (長沼 信夫)	112
地理学演習 (西村 嘉助)	112
地理学演習 (高木 正博)	112
地理学演習 (長野 覚)	113
地理学演習 (早船 元峰)	113

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」、「考え方」とはどのようなものであるか、について事例を中心に説明する。

基礎人文地理学

長 野 覚

世界的視野において、自然と人間活動の相関性を考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。テキストは下記のほか、適宜プリントで補足する。受講に際して地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕『五訂 人文地理学』藤岡謙二郎著(大明堂)

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお、参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕『自然環境の生い立ち』(朝倉書店)

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかかわりあいをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

上 野 福 男

人文地理学を第一次生産部門から第三次生産部門までふくめた経済地理学の分野、並びに集落地理学、都市地理学、人口地理学の諸分野について、それぞれの分野で用いられる統計資料を示し、学生各自に題目を選定させ、それについての図的表現を試みさせる。できあがった図表に説明をつけさせる。以上の実習を通じて人文地理学の理解を増進させる。

人文地理学実習

小 川 徹

人文地理学に必要な図式化、とくに地図化について、方法的・技術的に考慮すべき点を実習せしめる。資料・参考書はその都度指示する。

人文地理学実習

今朝洞 重 美

地形図、都市図を利用して土地利用、宗教、集落など人文地理学に関する実習を行う。

人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、その

つど指示し、実習の成果をあげるようにする。

人文地理学実習

長野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう、土地利用図・地形段彩図などを作成し、人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして、各種の統計地図類を作成することにより、主として人文現象の図化を習得する。

自然地理学実習

小池 一之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法について実習を行なう。必要に応じパーソナル・コンピュータによるデータ整理についても紹介する。実習内容(予定)

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読(含現地調査)
4. その他

自然地理学実習

中村 和郎

自然地理学の基礎的な実習を行なう。次の内容を予定しているが、実施の順序は変更することがある。

1. 計測(野外および机上で各種の計測を行なう)
2. 統計処理(各種データの整理方法を学ぶ)
3. 地図化(主題図を作成する)
4. 読図(地形図の読図を行なう)
5. 空中写真判読(空中写真から必要な情報を読む)
6. 地上写真撮影(地理的事象を写真で表現する)

自然地理学実習

長沼 信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点(レポート、図表等の提出物)で評価する。

〔参考書〕 谷岡武雄他著:『新訂地理実習』(人文地理ゼミナール)(大明堂)

三野与吉編:『自然地理調査法』(朝倉書店)

自然地理学実習

高木 正博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とし、その手段として各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

- (1) 地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
- (2) 各種統計資料の図化など、授業の進捗状況に応じて指示する。

評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

自然地理学実習

早船 元峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行なう。

前期

○図上作業(切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成)

○資料の収集・整理・分析の方法

○調査器械・器具の使用法

後期(班別)

○粒度分析

○空中写真の判読(土地利用図・地形学図・標定図作成)

○水の調査(湖水・河川水・地下水の水温、水質等)

○微地形・表層地質調査(元荒川・古利根川流域)

野外巡検 I

小川 徹

開講後指示する。

野外巡検 I

桜井 正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

野外巡検 I

長沼 信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時(ガイダンス)に報告する。

- (1) 巡検地域：三重県伊勢・志摩地域
- (2) 巡検期日：昭和60年5月下旬～6月上旬の間に3泊4日で実施する予定。
- (3) 巡検テーマ：伊勢・志摩の自然と生活

野外巡検 I

西村 嘉助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学Iを受講している者でないと参加の意味がない。

野外巡検 I

高木 正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的に特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

具体的な地域、期日などは、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

長野 覚

三陸海岸と北上山地を3泊3日(1泊は車中)で、6月初旬に実施。釜石鉄山・製鉄所、リアス式海岸と漁港宮古、北上山地の主峰早池峰山登頂などの巡検を通し

て、海と山にかかわる主として人文現象を見学・調査する。第1日・第2日はともに未明からの行動となる。

野外巡検 I

早船 元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理学的事象(自然的・人文的)を、学生自らの現地での体験(観察・調査)を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

日本地誌 I

今朝洞 重美

地誌学の本質論を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕 『日本の地域像—新しい日本地誌—』
〒102 東京都千代田区富士見1-4-11
森地出版株式会社 TEL 03(265)8341

外国地誌 I

生井 澤 進

アメリカ地誌を英語文献をもとに講義する。

〔教科書〕 講義の都度プリント配布

経済地理学 I

赤川 泰司

経済地理学Iは、その内容を農業地理学においている。

- 1) 世界農業地域の形成と発展(伝播)を考察しながら、世界農業地域の特色と類型化について、研究事例から概観する。
- 2) 世界及び日本の農業地理学研究(学説史)を概観し、現代農業地域及び農業地域構造の把握に際し、研究事例をふまえてまとめる。
- 3) 世界農業地域と食糧問題、農業生産とAgri-Business穀物メジャーなど、現代的課題についても余裕があれば考察してみたい。

〔教科書〕 全体を通してプリントで講義内容をまとめ、補足していく。

〔参考書〕 文献、研究事例(論説)をその都度紹介する。

郷土地理学

長野 覚

1. 郷土の地域概念を理解するため、古代から現代に至る行政変化について学習し、各自で調査した成果をレポートする。

2. 国土面積の約4%を占める山地の包蔵する山岳信仰文化の地域的特色を考察し、各自の郷土における山岳信仰を調査しレポートする。

〔参考書〕 『山岳宗教史研究叢書』（名著出版）『地名大辞典』（角川書店）、『日本歴史地名大系』（平凡社）

集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

地形学 I

西村 嘉助

地形学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

〔教科書〕 西村嘉助『自然地理学Ⅱ』（朝倉書店）

地図学

高木 正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに、解説、利用法について考える。

授業内容に応じて実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えてほしい。

交通地理学

奥野 隆史

交通現象の経済地理学的考察について議義する。議義のトピックは、(1)ネットワークの地理的意味、(2)交通発達と地域の関係、(3)ネットワークの設計とシミュレーションである。

（使用教科書）『地域交通論』（大明堂）¥2,000

地理学総論

小川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

旧科目（地理学研究法及び地理学史）未履修者はその対策について教務部担当者に相談すること。

地理学総論

中村 和郎

「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆく。各自もこのテーマを十分考えてみて欲しい。

地理学総論

西村 嘉助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

野外巡検Ⅱ

上野 福男

巡検地：木曽谷

木曽福島を拠点とし、調査項目別に班を組織して行う。

期間：3泊4日

時期：9月下旬または10月上旬

調査項目に次の5つを設定する

1. 木曾谷の交通路、とくに峠に焦点をおく
2. 木曾谷上流地域とくに開田の高冷地農業の推移
3. 木曾谷の林業 A. 国有林の育林と木材集散
B. 製材と木製品
4. 御嶽登山を中心とした観光と民宿
5. 木曾谷の人口の推移と集落

野外巡検Ⅱ

今朝洞 重美

山陰地方(出雲, 石見)の巡検を行う。実施時期は夏期休暇(7月)。

野外巡検Ⅱ

小池 一之

地理学とくに地形学の野外実習法の習得。テフラと段丘堆積物との関係, 火山活動と段丘の発達, 広域対比, などをテーマとして野外での詳細な調査を行なう予定。

巡検予定地: 群馬県片品川流域
実施予定期間: 60年10月末ごろ 3泊4日

野外巡検Ⅱ

中村 和郎

局地風とそれが生活に及ぼす影響の観察と調査を中心とした巡検を行なう。詳細はガイドンスの際に発表する。

野外巡検Ⅱ

長沼 信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時(ガイドンス)に報告する。

- (1) 巡検地域: 静岡県伊豆半島南部の河津川流域
- (2) 巡検期日: 昭和60年7月中旬(3泊4日)
- (3) 巡検テーマ: 伊豆半島における自然と生活

野外巡検Ⅱ

高木 正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

具体的な地域、期日などは、ガイドンスの際に発表する。

外国地誌Ⅱ

上野 福男

ヨーロッパアルプス諸国の地誌学講義

アルプス山地の地理学的特質、草地利用を主とした農山村地域の推移、水力資源の開発、山地障壁を克服する交通路の開発、観光業発展と人口と集落の変遷等を相互に関連させながら、東西比較、南北の対比を行う。従来集めた多数のスライドを使用する。

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における工業生産活動を産地形成という観点から分析・講義する。

〔教科書〕 講義中にその都度指示する
〔参考書〕 ”

地形学Ⅱ

今泉 俊文

“動かざること大地のごとし”と、言われるが、変動帯に属する日本の地形は、活発な地殻変動のもとで形成されている。変動地形を中心に講義を行う。

〔教科書〕 特に指定しない
〔参考書〕 杉村新、『大地の動きをさぐる』(岩波書店)
吉川虎雄ほか『新編日本地形論』(東大出版会)
笠原慶一ほか編『岩波講座 地球科学10』(岩波書店)

歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

人口地理学

上坂修夫

人口現象は、周知の通り社会地理、文化地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけでなく、質的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人口の分布や移動に関する従来の研究を跡づけながら、人文地理の諸分野において人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されていなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかわり合い方について考えていく予定である。

原書講読

梅原弘光

プランテーションに関する英語の地理学論文を選び、輪読する。それによって世界のプランテーションがどのように変貌してきたか、第三世界の国々の小農民にどういった影響を及ぼしているかを考察する。P.P. Cowterayの *Plantation Agriculture* (London, 1971) を主要参考書とする。

地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1) 地球史、(2) 岩石と地層、(3) 海洋底、(4) 古地磁気と大陸移動 (5) プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕 ホームズ著 (上田ほか訳) 『一般地質学Ⅲ』 (東大出版会) ¥3,400

〔参考書〕 ホームズ著 (上田ほか訳) 『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』 (東大出版会) 各¥3,400

土壌地理学

吉野(漆原)和子

土壌の生成について解説し、多くの土壌生成因子のうち、特に時間、気候、地形について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変りつつあるかも考察する。

〔教科書〕 『地形と土壌』 (新地学教育講座9) (東海大学出版会)

気候学

中村和郎

地理学の立場から気候学の基礎を定ぶ。

(1)日射と気温、(2)大気中の水、(3)大気の循環、(4)天気系、(5)世界の気候、(6)気候変動

レポート(1回)を課し、小テスト(数回)を実施する。

〔参考書〕 G. T. Trewartha and L. H. Horn (1980) *An Introduction to Climate*, (McGrawHill International Book Company).

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学(水文学)の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』 (新地学教育講座10) (東海大学出版会)

〔参考書〕 『水文学』 (自然地理学講座3) (大明堂)

環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用・水利用を通して歴史的観点をふまえて論じる。

日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学上の諸問題に重点をおいて講義する。下記教科書のほか、地図帳を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦『空からみた歴史量観』(大明堂)

外国地誌Ⅲ

梅原弘光

主に東南アジアを対象とし、前半では欧米諸国の植民地支配が始まる前までのこの地域の地域の特徴を検討、続いて後半には植民地支配期の東南アジアの地域の特徴を考察する。

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次『都市地理学』(大明堂)

計量地理学

奥野隆史

計量地理学のごく基本的な知識について平易に説明する。トピックは(1)データの入手と検討、(2)データの整理、(3)分布の解析、(4)ネットワークの分析、(3)共変動の解析である。

(使用教科書)『計量地理学の基礎』(大明堂) ¥2,400

応用地理学Ⅰ

高木正博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的な改変との関係からとらえる。また、治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕西村嘉助『応用地形学』(大明堂)

大矢雅彦『河川の開発と平野』(大明堂)

応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の議義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第三次全国総合開発計画を使用し、現行国土計画の内容を講ずる他、長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第三次全国総合開発計画』『2000年の日本』

文化地理学

宮口侗廸

村落社会の生活の展開過程を通して日本の文化的基盤を考え、日本とかなり対称的な生活様式をもつ西アジアの文化を対比させながら、日本の文化地理的な位置づけとパースペクティブを試みたい。

空中写真判読法及び測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、からなず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角函数(数学Ⅰ程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

(1) 誤差論 (2) 角の測定 (3) 距離測定 (4) 水準測量 (5) 多角測量 (6) 地形測量 (7) 写真測量 (8) 写真判読法 (6) リモートセンシング

〔教科書〕小田部和司『図解土木講座 測量学』(技報堂出版) ¥2,800

地理学特講Ⅰ

長野覚

高等学校・中学校の社会科地理教員の採用試験を受験する者を対象とする。指導内容は1学年以来、学習した地理学の教科内容を整理・集約することに重点を置く。また、小・中・高校一貫した社会科教育カリキュラムの改訂き対応した受験が可能のように、地理以外の教科についてゼミ形式の補講を予定している。テキストはプリントを主体とするが、下記参考書も必備のものである。

〔教科書〕『教育小六法』(学陽書房)・学習指導要領
・日本国勢図会・高校地理教科書・中学校社会科教科書・地図帳

地理学演習

上野 福男

卒業論文の作製指導に重点をおいて演習を行う。現地調査の方法、資料の整理、論文作成の基本的態度等について述べ、事物を把握し理解する力をひきだし、論文作成能力を達成させる。

地理学演習

桜井 正信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学演習

小川 徹

卒業論文の指導を中心にする。およその日程であるが、(1)春休みを利用することが前提なので、この点については別個にガイダンスを行う。(2)登録のためのテーマ決定・題目の検討 (3)調査資料・調査方法の検討 (4)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以上の日程にしたがって、各人少くとも3回発表の必要がある。この規定は厳密に実施する。

地理学演習

中村 和郎

卒業論文の作成指導を中心に行なう。テーマの決定、研究の進め方、文献蒐集とその読み方、資料の整理の仕方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表の仕方などについて指導する。

地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学（人文地理学）に関する卒業論文の演習を行う。

地理学演習

長沼 信夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理、調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期および後期に各1回合宿（総合報告・検討会）を行う予定である。

地理学演習

小池 一之

前期：地理学調査方法（野外調査・文献調査）の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ

後前：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習

地理学演習

西村 嘉助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

地理学演習

高木 正博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

調査地域へはできるだけ多く出かけ、問題点を整理しておくこと。

地理学演習

長野 覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実地調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行ない、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

地理学演習

早船 元峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成、現地調査、文献資料の収集、整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果（中間報告）の発表や関連した論文の内容の紹介をさせる。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次)	116
基礎歴史学 (所 理喜夫)	116
基礎歴史学 (渡辺 直彦)	116

専門教育科目

史学概論 (椽川 一朗)	116
日本史概説Ⅰ (古代・中世) (杉山 博)	116
日本史概説Ⅱ (近世・近代) (所 理喜夫)	116
東洋史概説Ⅰ (阿部 肇一)	116
東洋史概説Ⅱ (渡辺 惇)	117
西洋史概説Ⅰ (椽川 一朗)	117
西洋史概説Ⅱ (青木 道彦)	117
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎)	117
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次)	117
日本史学史 (葉貫 磨哉)	117
東洋史学史 (阿部 肇一)	117
西洋史学史 (石川 澄雄)	117
考古学史 (飯島 武次)	117
演習Ⅰ (葉貫 磨哉)	118
演習Ⅱ (葉貫 磨哉)	118
演習Ⅰ (杉山 博)	118
演習Ⅱ (杉山 博)	118
演習Ⅰ (箭内 健次)	118
演習Ⅱ (箭内 健次)	118
演習Ⅰ (所 理喜夫)	118
演習Ⅱ (所 理喜夫)	118
演習Ⅰ (吉田 常吉)	118
演習Ⅱ (吉田 常吉)	118
演習Ⅰ (山口 一之)	119
演習Ⅱ (山口 一之)	119
演習Ⅰ (渡辺 直彦)	119
演習Ⅱ (渡辺 直彦)	119
演習Ⅰ (阿部 肇一)	119
演習Ⅱ (阿部 肇一)	119
演習Ⅰ (渡辺 惇)	119
演習Ⅱ (渡辺 惇)	119
演習Ⅰ (石川 澄雄)	119
演習Ⅱ (石川 澄雄)	119
演習Ⅰ (椽川 一朗)	120
演習Ⅱ (椽川 一朗)	120
演習Ⅰ (飯島 武次)	120
演習Ⅱ (飯島 武次)	120

演習Ⅰ (加藤 晋平)	120
演習Ⅱ (加藤 晋平)	120
演習Ⅱ (倉田 芳郎)	120
日本史各説Ⅰ (渡辺 直彦)	120
日本史各説Ⅱ (杉山 博)	120
日本史各説Ⅲ (土肥 鑑高)	120
日本史各説Ⅳ (山口 一之)	121
東洋史各説Ⅱ (古代) (宇都木 章)	121
東洋史各説Ⅳ (中世) (大川富士夫)	121
東洋史各説Ⅵ (近世) (吉田 寅)	121
東洋史各説Ⅷ (近現代) (渡辺 惇)	121
東洋史各説Ⅸ (周辺史) (岡本 敬二)	121
東洋史各説Ⅹ (周辺史) (光嶋 督)	121
西洋史各説Ⅰ (石川 澄雄)	121
西洋史各説Ⅱ (中村 道雄)	122
西洋史各説Ⅲ (伏島 正義)	122
西洋各国史Ⅰ (椽川 一朗)	122
西洋各国史Ⅱ (石川 澄雄)	122
西洋各国史Ⅲ (青木 道彦)	122
西洋各国史Ⅳ (阿部 重雄)	122
考古学各説Ⅲ (加藤 晋平)	122
考古学各説Ⅳ (清水 潤三)	122
古文書学 (今枝 愛真)	123
古文書講読Ⅰ (葉貫 磨哉)	123
古文書講読Ⅱ (宮本由紀子)	123
日本史特講Ⅰ (古代) (渡辺 直彦)	123
日本史特講Ⅱ (中世) (今枝 愛真)	123
日本史特講Ⅲ (中世) (杉山 博)	123
日本史特講Ⅳ (中世) (芥川 龍男)	123
日本史特講Ⅴ (近世) (箭内 健次)	123
日本史特講Ⅵ (近代) (吉田 常吉)	123
日本史特講Ⅶ (近代) (山口 一之)	123
東洋史特講Ⅰ (古代) (宇都木 章)	124
東洋史特講Ⅳ (中世) (大川富士夫)	124
東洋史特講Ⅶ (近世) (阿部 肇一)	124
東洋史特講Ⅹ (近・現代) (渡辺 惇)	124
東洋史特講Ⅺ (近・現代) (吉田 寅)	124
東洋史特講Ⅻ (周辺史) (岡本 敬二)	124
東洋史特講Ⅻ (周辺史) (光嶋 督)	124
西洋史特講Ⅰ (伏島 正義)	124
西洋史特講Ⅲ (三小田敏雄)	124
西洋史特講Ⅳ (中村 純)	125
考古学特講Ⅱ (飯島 武次)	125
考古学特講Ⅳ (高浜 秀)	125
日本仏教史Ⅲ (圭室 文雄)	125
日本文化史Ⅰ (圭室 文雄)	125
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗)	125
西洋文化史Ⅲ (阿部 重雄)	125
考古発掘実習 (飯島 武次)	125
考古学実習Ⅰ (写真) (齊藤 孝哉)	126

考古学実習Ⅱ（記録）（前期）（水村 孝行）…	126
考古学実習Ⅱ（記録）（後期）（酒井 清治）…	126
考古学実習Ⅲ（測量）（栗山 稔）……………	126
考古学実習Ⅳ（調査）（田村 晃一）……………	126
地誌学（今朝洞重美）……………	126
地誌学（長野 寛）……………	126
地誌学（渡邊 盾夫）……………	126
人文地理学概説（高木 久）……………	126
歴史地理学（桜井 正信）……………	127
哲学史（川戸 好武）……………	127
歴史哲学（国嶋 一則）……………	127
美術史概説（林 良一）……………	127
西域美術史（林 良一）……………	127
仏教美術（林 良一）……………	127
中国歴史文学（中村 璋八）……………	127
ラテン語特講（佐藤玖美子）……………	128
日本民俗学（山折 哲雄）……………	128

歴 史 学 科

基礎教育科目

基礎歴史学

飯 島 武 次

考古学より見た東洋の歴史について。この科目名は、「基礎歴史学」であるが、担当教員（飯島）が専門とする東洋考古学の講義を行なう。

基礎歴史学

所 理喜夫

歴史学の基礎概念について講述したのち、その方法論について考える。

〔教科書〕 堀米庸三『現代歴史学入門』（有斐閣）
¥1,000

基礎歴史学

渡 辺 直 彦

歴史学の方法論，補助学科，史料学，史料批判など，歴史を研究する上での基礎的な指針について論述する。

〔教科書〕 『歴史学研究法』東大新書（東京大学出版会）¥600

専門教育科目

史学概論

椽 川 一 朗

歴史学研究法。とくに「総合」の方法として，社会経済史および思想史における比較史的研究の実例と理論とを講述する。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉 山 博

日本の中世国家の政治過程と政治機構を，前年度に引き続き具体的に解明したい。

〔教科書〕 佐藤進一著『日本の中世国家』（岩波書店）
¥1,400

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

所 理喜夫

江戸幕府創業史から，その政治史，権力構造・江戸時代の文化・経済等について論述する。

〔参考書〕 講義中，適宜に指示する。

東洋史概説Ⅰ

阿 部 肇 一

上代より中世～近世初期ごろまで行う。政治と社会・経済を主とし，それに附いて文化的関連のものも対比してゆきたいと思う。主として中国が中心となる。

〔教科書〕 『東洋史概説』（南雲堂深山社刊）

東洋史概説Ⅱ

渡辺 惇

元・明・清代の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕 特に定めない

〔参考書〕 授業の中で指示する。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島 武次

『考古学ゼミナール』の講読を通じて外国考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年（学生版、¥2,800）

西洋史概説Ⅰ

椽川 一郎

西洋の古代・中世および近世の社会経済史と思想史とを、相互の関連に留意しつつ講述する。

日本史学史

葉貫 磨哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

西洋史概説Ⅱ

青木 道彦

近世初頭から現代にいたるヨーロッパ史を概況するのであるが、中世においては必ずしも他の文化世界をリードしていなかったヨーロッパが、なぜ近代工業化の先頭にたち、他の文化世界に強いインパクトを与えるようになったかという問題を中心におき、この問題の考察に必要な限りにおいて、ヨーロッパ中世史にもふれながら講義を進めたい。

授業中に示す参考文献の中から平易なものを受講者が選んで読書レポートを提出することを課題とする予定である。

〔教科書〕 木村尚三郎・本間長世編『概説西洋史』（有斐閣）

東洋史学史

阿部 肇一

中国史学の思想的展開について講義をする。

西洋史学史

石川 澄雄

西洋史学の発達を、文化史の動きをからませて概観する。1年で完結する短い講義であるから、受講者は、西洋史概説の知識を十分にこなして出席されたい。プリント併用の予定だが、授業をとおして参考書類を指示・説明する。

〔参考書〕 秀村欣二編著『西洋史概説』（東大出版会）などの概説書を持参すること。

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学史

飯島 武次

本年も東洋考古学史の講義を行なう。

〔参考書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年（学生版、¥2,800）

演習 I

葉貫磨哉

『蔭涼軒日録』の文明十七年四月より講読して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するため見学なども行う。

演習 II

箭内健次

卒業論文作成の指導を行いつつ、近世史の総合的把握を目的とする。研究発表に重点をおく。

演習 II

葉貫磨哉

『満濟准后日記』の應永22年より講読し、室町時代の文化史的な面について検討する。なお卒業論文の指導もあわせて行う。

演習 I

所理喜夫

「石川正西聞見集」の原本の影写本をプリントして講読し、江戸幕府創業期を考える。プリント実費、500円を用意されたい。

〔教科書〕 プリント使用。

演習 I

杉山博

前年度と同様、記録を歴史研究にいかに使するか、その実例を「快元僧都記」によって、具体的に研究してみたい。

〔教科書〕 プリント使用

演習 II

所理喜夫

戦国期より、近世初頭にかけての、松平=徳川氏関係古文書を影写して講読する。なお卒業論文指導が中心となるので、受講者は卒業年次生のみとする。

〔教科書〕 プリント使用。

演習 II

杉山博

室町・戦国期の歴史を概観し、この期の歴史的意義を理解せしめて、あわせて卒論の指導を行う。

〔参考書〕 網野・石井・笠松・勝俣著『中世の罪と罰』（東京大学出版会）¥1,400

演習 I

吉田常吉

江戸末期の下級武士の手記により、その生活を考察する。読解力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。

演習 I

箭内健次

近世史料の読解力および総合的考察力を養うことを目的とする。素材は近世初期の諸記録を用いる。

〔教科書〕 テキストはプリントして配布の予定

演習 II

吉田常吉

「山本政恒手記」により、徒士の修業・勤仕の状態を考察する。読解力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。なお併せて卒業論文の指導を行う。

演習 I

山口 一之

近代文書を使って史料の読解と批判の力をつける時間をとしたい。教材は授業開始の際に指示するが、別に下記の書物を用意しておくとう用です。

〔参考書〕 児玉幸多編『くずし字解読辞典』増補版
(近藤出版社)

演習 II

山口 一之

筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』(東京大学出版会刊) (3,200円) を使用して、各自の報告と討論を行う。

演習 I

渡辺 直彦

文徳天皇即位の嘉祥三年(850)条から、順次史料を講読する。

〔教科書〕 『日本文徳天皇実録』(吉川弘文館)
¥2,000

演習 II

渡辺 直彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕 『令義解』(吉川弘文館) ¥3,200

演習 I

阿部 肇一

二十二史劄記講読と発表。
〔教科書〕 プリント印刷

演習 II

阿部 肇一

人唐求法巡礼行記の講読と発表。
〔教科書〕・〔参考書〕 プリント

演習 I

渡辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分(漢文)を講読する。

〔教科書〕 プリント配布する

演習 II

渡辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争・太平天国の部分(現代中国文)を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する

演習 I

石川 澄雄

西洋史, 3年。テキストは英文から選び、私の専攻から、中欧。ドイツ史中心に、プリントで進行する予定。山川出版社「世界史小辞典」のほか、できたら平凡社「カラー世界史百科」を携行すること。

演習 II

石川 澄雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので、該当者は必ず出席すること。モンテスキュー『法の精神』英訳文を輪読し、またトインビーの『歴史の研究』の一部をも講読予定。

演習 I

椽川一朗

ロック『市民政府論』（英語原典）の講読、および研究文献に関する読書指導。

演習 II

椽川一朗

ルソー『民約論』（フランス語原典）の講読、および卒業論文作成指導。

演習 I

飯島武次

『史記』平準書講読

演習 II

飯島武次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。

演習 I

加藤晋平

考古学の方法論に関する欧文献を読みながら、諸外国における最近の研究法を理解する。

演習 II

加藤晋平

環境考古学に関する邦文献をもとに、先史人類の生業活動の復原への手続きを考える。

演習 II

倉田芳郎

日本の弥生時代以降に関する考古学の報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させて、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。あわせて、この時間を用いて、卒業論文作成の指導をする。年度第1週目の授業に必ず出席のこと。

日本史各説 I

渡辺直彦

平安初期の政治や文化について、基本史料を解読しながら講述する。

〔教科書〕『史料による日本の歩み古代編』（吉川弘文館）¥2,700

日本史各説 II

杉山博

前年度に引続き、戦国時代の政治・経済・文化の諸様相を概説し、この時代を研究することの意義について明らかにしたい。

〔教科書〕『日本の歴史11』（中央公論社）中公パックス ¥1,200

日本史各説 III

土肥鑑高

「米遣い経済」といわれる近世について、全国に目をくばりつつ、米の流通、統制などについてみ、さらに米商人の動向にふれたい。

〔教科書〕土肥鑑高著『米と江戸時代』（雄山閣）¥1,800

日本史各説Ⅳ

山口 一之

下記の書物を使って近代日本の問題点を把握する時間としたい。

〔参考書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』（東京大学出版会刊）（3,200円）

東洋史各説Ⅱ（古代）

宇都木 章

中国古代史概説。主として先秦時代の政治の変遷とその特色を考えるとともに、殷・周時代の文化の性格についても触れて見たい。

東洋史各説Ⅳ（中世）

大川 富士夫

魏晉南北朝時代の貴族制社会の成立過程・変化をたどり、中国中世社会の性格・特質を考察する。この時代は政治的混乱と異民族の侵入により分裂をくり返すが、それだけに地方では豪族勢力が伸長した。貴族制はこの豪族社会が生み出した貴賤観念による身分秩序が国家の秩序となったものである。国家と社会の関係からこの問題を究明したい。

〔参考書〕 川勝義雄著『六朝貴族制社会の研究』（岩波書店 1982）

東洋史各説Ⅵ（近世）

吉田 寅

明・清時代における中国史の発展を概説的に講述する。なお歴史的考察と関連しつつ、時に応じて史料の解説を行ない、明・清時代史研究への手続きとする。

〔教科書〕 史料プリントを配布する。

東洋史各説Ⅷ（近・現代）

渡辺 惇

中国民衆結社史；近代中国社会における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社（会党・帮会）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景（明清、近代）、史的意義等について講義する。

〔教科書〕 特に定めない

〔参考書〕 講義の中で紹介・指示する。

東洋史各説Ⅸ（周辺史）

岡本 敬二

政治的にも文化的にも東アジアの歴史世界に多大な影響を与えていた中国の唐朝が衰退すると、契丹族や女真族などの諸民族が抬頭して、新しい歴史の展開がみられた。やがて蒙古族によって、世界史的な大帝国が建設され、東アジア歴史世界は大きく進転する。こうした問題について考察する。参考書は適時に紹介する。

東洋史各説Ⅹ（周辺史）

光 嵐 督

アジア文明の最も早く咲いた地域の一つ印度について、その古代に於ける文化、特に精神文化について、ヴェーダーの成立から波羅門六派の形成、そして仏教の成立に到る過程について検討し、仏教成立の背景と、波羅門神学の原始仏教への影響について考察し、原始仏教の持つ特異性と、原始仏教から印度仏教への展開を考えてみたい。

〔教科書〕 『アジア古代史概説』光嵐監著（成文堂、¥1,800）

西洋史各説Ⅰ

石川 澄雄

フランス革命時代を中心に、近・現代史の諸問題を考察する。「近代」の歴史的意義を検討する点に重点を置くので、概説的知識を十分にこなしたうえで出席されたたい。

〔参考書〕 『世界史小辞典』（山川出版社）
『カラー世界史百科』（平凡社）

西洋史各説Ⅱ

中村道雄

アメリカ合衆国の歴史を概観する。西洋史専攻者のみでなく、ひろく日本史・東洋史専攻の学生諸君の受講も希望する。史料購読なども随時行なうつもりである。

〔参考書〕 有賀貞，大下尚一編『概説アメリカ史』（有斐閣）

西洋史各説Ⅲ

伏島正義

西洋中世の農村社会に生きた農民に注目し、彼らをとりにくく社会的、経済的側面を検討する。その場合、諸種の史料（原典史料はラテン語、アングロ＝サクソン語などで書かれているが、できる限り英訳のものを使用する）を受講生自身が繙くことにより、生きた農民、農村社会を現出させたい。講義、史料・関係文献の輪読、演習形式を採る。テキスト、文献等は第一時限目に指示する。

西洋各国史Ⅰ

椋川一朗

フランス史。フランス近代思想史の講述およびデカルト『方法叙説』等の原典講読。（「演習Ⅱ」原典講読の準備指導を兼ねる。）

西洋各国史Ⅱ

石川澄雄

やさしいドイツ語テキスト（プリント）使用，ドイツ史を研究する。卒業年次生の卒論指導をも兼ねたいので，4年演習出席者は，卒論題目にかかわらず，選択してほしい。3年生の出席も歓迎する。

西洋各国史Ⅲ

青木道彦

今年度は〈クロムウェルと護国卿政權〉を中心にイギリス共和政期について講義し，イギリス革命の時代にと

まりをつけてみたい。時間に余裕があれば，王政復古期に多少ふれて講義する予定である。

今年度始めて受講する学生には4枚配布する英文年表のうち，3枚の日本語訳を課題として課し，58年度に引き続き受講する学生には，前年度のレジュメを課題として課す。

〔教科書〕 今井宏『クロムウェル』（清水書院）

〔参考書〕 浜村正夫『増補版・イギリス市民革命史』（未来社）

西洋各国史Ⅳ

阿部重雄

今年度は，昨年との続き。「ソビエト連邦史」を講述する。下記の教科書を使用し，一緒に読み，解説を加えてゆく。

〔教科書〕 ジャン・ブリュア『ソビエト連邦史』（白水社，文庫クセジュ189）

考古学各説Ⅲ

加藤晋平

世界の旧石器・中石器文化について，講義する。

考古学各説Ⅳ

清水潤三

私は故大山柏博士の門弟で慶応大学に在学中から御他界に至るまで，長い間特別の薫陶を受け，大山先生とその学問については誰よりもよく知っているつもりであると同時に，先生の研究が他の考古学者とはかなり違った独特のもので，今日においても世界の学者の中に伍してユニークなものであること，それに加えてそれらの点については現存する多数の学者の中で私が最もよくその衣鉢をついでいると自負しており，諸君にその精髓を理解していただける絶好の機会だと考えているからである。

大山先生は考古学を古物いぢりから科学へ昇華させようと努力した方であり，その知識は洋の東西に及び，同時に関連諸科学にも他人の及び得ない深い造詣を持っておられた。まさに私の遠く及ばざるところではあるが，

意外と一般の人々にはその本質を知られていないのが遺憾でたまらない。

現在この大学に在って切磋に励んでおられる皆さんに先生の学問の一部なりともを理解していただき、考古学に新しい曙光をもたらす一助となれば幸いこれに過るものはないと考え、本年度の講義をお引受けし、全力を挙げて努力する覚悟である。

古文書学

今 枝 愛 真

前半 古文書学概説

後半 テキスト使用による解説法

テキストは供与

古文書講読Ⅰ

葉 貫 磨 哉

古文書の読解力を養う授業であるので、予習も必要であり、時には現物も使用する。

〔教科書〕『演習古文書選』〔古代中世編〕(吉川弘文館発行)

古文書講読Ⅱ

宮 本 由 紀 子

近世の地方・町方史料など、近世古文書の読解を行う。

〔教科書〕『演習古文書選(近世編)』(吉川弘文館) ¥980

日本史特講Ⅰ(古代)

渡 辺 直 彦

摂関時代史—藤原兼家・道長・頼・を中心として—を講義する。

〔教科書〕『日本歴史5 王朝の貴族』中公文庫(中央公論社) ¥640

日本史特講Ⅱ(中世)

今 枝 愛 真

碧山日録講読

テキストはゼロクスプリントを与う

日本史特講Ⅲ(中世)

杉 山 博

16世紀の日本社会の状況を、ルイス・フロイスの見た視点を検討することによって、具体的に明らかにしてみたい。

〔教科書〕松田毅一・E, ヨリッセン著『フロイスの日本覚書』(中央公論社「中公新書」707) ¥480

日本史特講Ⅲ(中世)

芥 川 龍 男

「武士団に関する諸問題」について講述する。特に研究的考察・東国武士団・西国武士団等についてふれる予定である。参考文献等は講義の進行過程で紹介する。

日本史特講Ⅳ(近世)

箭 内 健 次

長崎貿易官営化をめぐる諸問題

元禄十一年における長崎会所の設立は、鎖国体制下における幕府の貿易政策の大きな転換を意味するものであった、本講はその転換の歴史的背景を総合的に考察し、併せて其後の組織に及ぶ予定である。

日本史特講Ⅵ(近代)

吉 田 常 吉

倒幕運動の展開について講述する。

日本史特講Ⅶ(近代)

山 口 一 之

近代日本に於ける対外問題をとり上げての講義。

東洋史特講 I (古代)

宇 都 木 章

春秋左氏伝の世界、「左氏伝」研究の概要、春秋時代研究史、春秋時代の青銅器銘文の研究、以上の3つの観点から、春秋時代の貴族政治の問題点を考えて見たい。

東洋史特講IV (中世)

大 川 富士夫

中国における仏教受容・変容の問題をとりあげる。仏教の伝来・格義仏教から中国の大乗仏教成立に至る過程を、政治的社会的状況をふまえて考察し、中国人の宗教信仰の特徴について考えてみたい。

東洋史特講VII (近世)

阿 部 肇 一

中国近世の仏教と社会、仏教の政治的関連と文化の展開についてのべてみたい。とくに禅宗の信者との展開と他の道教、儒教の中国古来の思想、生活との関連についてのべたい。

〔参考書〕『禅の世界(現代人の仏教11)』(筑摩書房刊)

東洋史特講X (近・現代)

渡 辺 惇

辛亥革命史；二千年来の専制王朝支配に終止符をうち、アジア最初の共和制を実現した辛亥革命について、その原因、背景、運動主体、経過史的意義等について、最近の学説をふまえて講義する。

〔教科書〕特に定めない

〔参考書〕講義の中で紹介・指示する。

東洋史特講XI (近・現代)

吉 田 寅

明・清時代以降の中国キリスト教史を、中国文化史の流れの上において講述する。特にヨーロッパ文化の中国流入および、それに対する中国人の対応を中心に考察す

る。なお、時に応じて史料の解説を行ない、より深い研究への手引きとする。

〔教科書〕史料プリントを配布する。

東洋史特講XIII (周辺史)

岡 本 敬 二

東北アジアにおける諸民族の間における経済的・文化的交通について、原史料を取り扱いながら、具体的に研究を進める。その際、歴史史料の取り扱いや基礎的な研究方法などについても、十分に考慮する。テキストは新しく作成する予定である。

東洋史特講XIV (周辺史)

光 嵐 督

仏教のチベット伝播とその発展、そして所謂ラマ教の成立に至る過程とこれに対応する吐蕃王朝の姿をとらえ、また、この仏教のチベット流入に対してチベット古来の民族宗教であるボン教がどのように対処して来たかを探る。

〔教科書〕特に用いず、

〔参考書〕『ボン教・ラマ教史料よる吐蕃の研究』(成文堂)光嵐督著

西洋史特講I

伏 島 正義

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Iでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および北海道教養部からの3年生で、西洋史を希望する学生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

西洋史特講III

三小田 敏 雄

キリスト教の歴史を幾つかの重要な時期に重点をおきながら講義する。参考文献はその都度紹介するが、全体として下記の程度のものを自分で読んでおいて貰いたい。

〔参考書〕曾根『キリスト教史』(日本基督教団出版局)

西洋史特講Ⅳ

中村 純

古代ギリシアの歴史は、換言すれば、そこに固有の国家形態であるポリスの形成と発展、そして衰退の歴史に他ならない、このポリスの政治的側面に系わる諸問題について考える予定である。

〔教科書〕 ナシ

〔参考書〕 開講時指示

考古学特講Ⅱ

飯島 武次

UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China" の講読を行なう。

〔教科書〕 UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China," 東洋文庫附属ユネスコ東アジア文化研究センター1984年, ¥2,100

考古学特講Ⅳ

高浜 秀

北アジア考古学。特にジベリヤから中国の北方を中心として、北方ユーラシア・ステップ(草原)地帯の青銅器～初期鉄器時代文化を概観する。この時期には、スキタイ系遊牧騎馬民族文化が各地に興り、中国の北では匈奴などの活躍が知られる。匈奴がその主要な担い手であったと考えられるオールドス青銅器文化と、匈奴考古学に重点を置く予定である。

日本仏教史Ⅲ

圭室 文雄

本年は江戸時代の仏教に焦点をあてて講義をおこなう予定である。江戸時代の仏教について二つの評価がある。一つは江戸時代の仏教こそが、はじめて庶民の信仰をえたものである。もう一つは江戸時代の仏教は墮落した仏教で、宗祖の精神がほとんど生かされていない。そこで講義ではこのような二つの見解について、研究史の整理・史料の検討を通じて問題点をあきらかにしていきたいと思う。また適宜史料を配布する予定である。

〔教科書〕 圭室文雄編『江戸幕府の宗教統制』(評論社)

〔参考書〕 伊東多三郎『近世史の研究』第一巻(吉川弘文館)

日本文化史Ⅰ

圭室 文雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかかわりを追求してみたい。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史』Ⅱ(山川出版社)

西洋文化史Ⅰ

椽川 一朗

西洋都市史。フランス・イギリス都市とドイツ都市との歴史的な性格を比較しつつ、中世から近代への変遷を概観する。

西洋文化史Ⅲ

阿部 重雄

今年は、昨年の続き。「ヨーロッパ中世社会とその文化」というテーマで講述する。内容の概略は次の通り。

1. 民族大移動とローマ帝国の解体
2. 『ビザンツ帝国』の発展
3. サラセン文化の影響
4. Feudalismとは何か。その構造と特色
5. 中世ヨーロッパの生活と文化
6. 中世都市の発達

考古発掘実習

飯島 武次

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

考古学実習Ⅰ（写真）

齊藤孝哉

考古資料写真の撮影技術および処理技術の基礎を習得することを目的とし、解り易く実習を交えながら講義する。

- ①写真プロセスの基礎と写真用語 ②カメラ、レンズ、フィルムの基礎 ③撮影技術 ④現像処理 ⑤カラーフィルムの撮影と処理 ⑥ライティング ⑦大型カメラの操作 ⑧考古資料写真撮影の基礎 ⑨その他

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕『写真のテクニック』シリーズ No.15（日本カメラ社）

考古学実習Ⅱ（記録）前期

水村孝行

先土器時代の石器を中心に、その実測をおこなう。

〔参考書〕図録『石器の基礎知識Ⅱ先土器（下）』（柏書房） ¥2,000

考古学実習Ⅱ（記録）後期

酒井清治

過去の情報が得られ、資料となりうる土器の実測を行う。

〔参考書〕『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（国土地理協会）

考古学実習Ⅲ（測量）

栗山稔

遺跡調査など、土地と関連する考古学の調査では、調査地の現況や遺跡・遺物の出土の状況を、正確、詳細に把握することが求められる。

この教課では、この調査で必要となる測量に関する基礎的知識と、トランシットを用いての測量実習とに重点を置き、技術・理論の習得を目的とする。

夏休みに3～4日の測量実習を行なう。

〔教科書〕『測量の基礎』檀原毅著（山海堂）

〔参考書〕『測量学』中村英夫・村井俊治 共著（技法堂出版）

考古学実習Ⅳ（調査）

田村晃一

- (1)考古学の調査の諸手続きについて。
(2)考古学の調査の諸注意事項について。
(3)考古学の調査の方法について

〔参考書〕『埋蔵文化財発掘調査の手引き』

地誌学

今朝洞重美

地誌学の本質論を説明しつつ日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学

長野覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』〔改訂版〕（大明堂）

地誌学

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講義をする。受講希望者は地図帳を持参すること。

人文地理学概説

高木久

地理学の思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理学的な見方、考え方」の基礎の上に立つ

て、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

川戸好武

はじめに、古代ギリシャおよび中世の哲学の要点を簡単に述べた後で、ルネッサンス以後の近世哲学史を概説する。

教科書、参考書は、授業の際に指示する。

歴史哲学

国嶋一則

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を行為すべきか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述
〔1〕 a. 文書の選択, b. 記録命題, c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述, 〔2〕 a. 歴史を動かす意志, b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

西域美術史

林良一

アフガニスタンより中央アジアにいたる地域に展開した、いわゆる西域美術について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

仏教美術

林良一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

中国歴史文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕 『五行大義校註』（汲古書院）¥3,000

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕『詳解ラテン文法』（研修社）

日本民俗学

山折 哲雄

日本人の生死観を、とくに柳田国男、折口信夫の説にもとづいて考察し、それを西欧やアジアの諸民族のそれと比較する。

〔教科書〕山折哲雄著『神と仏』（講談社新書）

社会学科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	130
社会福祉概論(高橋 重宏)	130
心理学概論(篠原 英寿)	130

専門教育科目

社会統計学(指田 隆一)	130
社会学史(安藤喜久雄)	130
社会学方法論(金丸 由雄)	131
社会調査(前期)(坪井 健)	
(後期)(川本 勝)	131
社会調査実習(川本 勝・坪井 健・高橋信行)	131
マスコミュニケーション(前期)(小池保夫)	
(後期)(川本 勝)	131
産業社会学(安藤喜久雄)	131
都市社会学(岡田 真)	131
家族社会学(山根 常男)	132
法社会学(小林 弘人)	132
宗教社会学(門馬 幸夫)	132
社会心理学(坪井 健)	132
社会病理学(中本 博通)	132
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)	132
外書講読Ⅱ(坪井 健)	132
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)	133
社会学特講Ⅱ(高橋 信行)	133
社会学原論(渡辺 源樹)	133
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	133
図書館学Ⅱ(前期)(高橋 信行)	
(後期)(山崎 慶子)	133
社会保障概論(小沼 正)	133
社会福祉法制(小林 弘人)	133
社会福祉方法総論(高橋 重宏)	134
社会福祉実習Ⅰ(高橋 重宏)	134
公的扶助論(小沼 正)	134
障害福祉論(原田 信一)	134
老人福祉論(奥山 正司)	134
児童福祉論(原田 信一)	135
母子福祉論(林 千代)	135
医療社会事業論(春見 静子)	135
地域福祉論(岡田 真)	135
社会福祉事業発達史(林 千代)	135
社会福祉管理運営論(重田 信一)	136
福祉外書講読(岡田 真)	136

リハビリテーション論(原田 信一)	136
ケースワーク論(高橋 重宏)	136
グループワーク論(前期)(松本 栄二)	
(後期)(春見 静子)	136
海外社会福祉論(星野貞一郎)	136
社会福祉学特講Ⅰ(高橋 重宏)	137
社会福祉学特講Ⅱ(星野貞一郎)	137
社会福祉学特講Ⅲ(星野貞一郎)	137
社会福祉実習Ⅱ(原田 信一)	137
障害児教育方法論(井田 範美)	137
障害児教育原論(井田 範美)	137
心理学史(萩野 源一)	138
心理統計学(篠原 英寿)	138
心理学実験(実習)(篠原英寿・谷口泰富)	138
心理学研究法(小野 浩一)	138
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	138
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英寿)	138
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)	138
基礎心理学Ⅳ(社会)(水原 泰介)	138
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)	139
心理学研究Ⅰ(実習)(萩野 源一)	139
心理学研究Ⅱ(実習)(水原 泰介)	139
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)	139
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英寿)	139
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)	139
生理心理学(谷口 泰富)	139
児童心理学(天野 珠子)	139
産業心理学(大塚 秀治)	140
グループ・ダイナミックス(花沢 成一)	140
カウンセリング(鈴木 順一)	140
心理検査法(花沢 成一)	140
禅心理学(脇本 平也)	140
心理学特講Ⅰ(佐々木雄二)	140
心理学特講Ⅱ(佐々木宏幹)	140
心理学特講Ⅲ(古賀 義亮)	141
精神医学(柴田 出)	141
心身医学(佐々木雄二)	141
社会政策(清水 英彦)	141
民法(青山 尚史)	141
労働法(平岡 一實)	141
行政法(鶏徳 啓登)	141
経済原論(浅野 克己)	142
青少年問題研究(和田 謙寿)	142

社会学科

基礎教育科目

社会学概論

坪井 健

社会学は「社会の経験の学」である。社会学は、われわれの日常経験を社会システムとの関連で理解するための知的原理の1つである。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的諸事象に対する社会学的な見方を獲得することを主眼とし、当初は、社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸状況を選択的に分析していく中で、社会学的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『新版社会学概論』(学文社)

〔参考書〕『統計からみる社会学』(学文社)

社会福祉概論

高橋重宏

日常生活の中で、私たちは社会福祉という言葉をよく耳聞きする。だが、社会福祉とは何か？ ということになると、その解釈は人さまざまで、その内容や課題についての一致した見解が、必ずしもあるとはいえない。

「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに、「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などの言葉を安易に混乱し使用している場合が多いのである。

本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と、社会福祉の現代的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

〔教科書〕高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』(川島書店)

高橋重宏・宮崎俊策・安藤弘編著『ソーシャル・ワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕図書館発行の『読書案内』(昭和59年版)を参照してほしい。

心理学概論

篠原英寿

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版)

専門教育科目

社会統計学

指田隆一

社会学や社会調査を中心とした統計学の基本的な知識と技法について説明する。主な内容は、(1)計算機、(2)測定、(3)表グラフ、分布、(4)代表値・散布度・相関関係、(5)標本抽出、(6)検定・推定、(7)回帰方程式、(8)多変量解折法である。実際に機械を利用し、また、作表・作図、計算を行って、統計学の方法と技術を身につけることが大切なので、出席、レポートは厳しくチェックする。

特別な数学的知識は前提にしていない。

〔教科書〕羽鳥裕久『あたらしい統計学』(培風館)

〔参考書〕随時指示する

社会学史

安藤喜久雄

社会学の形成、発展の歴史を概観する場合、主としてフランス、ドイツ、イギリス、アメリカの諸国のそれらについての足跡をたどることが一般的である。社会学の史的発展を学ぶということは、各国各時代の歴史的背景の中で社会学的諸問題が発展していることから、それが現代社会の諸問題とどのようにかかわっているかを知ることには大きな意味がある。それゆえ、これらの点を考慮に入れながら講義を進めていきたい。

〔教科書〕阿閉・内藤編『社会学史概論』(勁草書房)

社会学方法論

金丸由雄

社会学的な物の見方を身につけられるように、基本的概念を丁寧に学習し、次に社会学における古典といわれるような諸理論の構造を分析する。

〔参考書〕ゼタバーグ著、安積・金丸訳『社会学的思考法』（ミネルヴァ書房）

社会調査

(前期) 坪井 健
(後期) 川本 勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点や技法、検定の仕方などを検討してみたい。また、社会調査実習では統計調査実施上の技法をマスターすることになるので、本講義では、社会調査の持つ意義などをさまざまな種類の調査との関連で考察する。

〔教科書〕講義の中で指示する、

社会調査実習

川本 勝・坪井 健
高橋 信行

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひとつと理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕その都度指示する、

マスコミュニケーション

(前期) 小池 保夫
(後期) 川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察する。

情報化社会といわれる今日のさまざまなマス・メディアと社会や人びとの社会生活とのかかわりを社会学的に分析し、メッセージ内容の分析などを行なうことによって、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響を検討する。

〔教科書〕講義の中で指示する、

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の各領域においてどのような問題があり、それらがわれわれの生活とどのようにかかわっているかをみてみたい。各領域とは「労働者の生活」「労働者の意識、疎外」「組織」「職場集団と人間関係」「リーダーシップ」「労働組合」「技術革新」「企業と地域」「産業社会とその変動」などがあげられる。これらの諸問題を中心にみてみたい。

〔教科書〕松島静雄・岡本秀昭編『産業社会学』（川島書店）

都市社会学

岡田 真

① 都市計画（基本計画等）が最初にテーマになる。社会学専攻生にはそれが「就職に売込める専門性」の一つだからだ。そのソーシャル・プランニングは日本ではまだ弱体。あなたの専門性への期待は大きい。

日本の福祉も、行政責任が都市計画上に明記されて、はじめて現実のものとして実施される。輸入福祉学用語としてのソーシャル・プランニングでなく、現実の福祉計画を学習すること。これが福祉学専攻生の専門性に対するの寄与だ。さて、①に続いて

② 基本的諸概念、日本の都市化の特性の明確化。

③ 最新の学界動向。ちなみに昨年は、岩上講師の駒沢社会学研究誌上の論文に検討をくわえた。

学問は「遊び」の要素も含むものではあるが、同時に「メシの種類」にもならねばならない。そして、本学出身公務員にはなぜか、福祉部局に配属されるや否や「魚が水を得た働き」をする人が多い。それであるから、あな

たもおなじ担当者の「地域福祉論」（社選択単位・社福資格単位）をあわせて知ってくれることが望ましい。（もちろん本講義だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）。

〔教科書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

〔参考書〕 岡田 真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）。他に最新の文献や入手困難な文献（コピーによる）

家族社会学

山根常男

- 1 家族研究の歴史と展望
- 2 家族とは何か？
- 3 家族の歴史の変動
- 4 家族と人格形成
- 5 性と結婚
- 6 老人問題
- 7 家族と他のライフスタイル

〔教科書〕 山根常男『家族の論理』（垣内出版）

〔参考書〕 山根常男監修『ゆれ動く現代家族』（日本放送出版）

法社会学

小林弘人

前期は、法社会学の基礎理論（学説が中心になる）後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川 伸、新版『法社会学入門』（法律文化社）

宗教社会学

門馬幸夫

民衆の宗教的ニーズによって創出される新宗教の成立と展開過程を宗教集団の社会学的分析方法にもとずいて究明する。とくに教祖にみるシャーマン性が日本の社会を貫流する民俗宗教に根ざす点に注目し、その特色を扶け出すところに力点をおく。

〔教科書〕 桜井徳太郎『日本民俗宗教論』（春秋社）
¥3,800

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。社会心理学には、社会学のアプローチと心理学のアプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響をあたえる社会的諸条件に関心を持ち、ミクロな心理的過程を重視する心理学のアプローチにも留意しつつ、躍動する社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、マクロな社会過程を重視する社会学のアプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とする。

〔参考書〕 講義の中で指示する

社会病理学

中本博通

本年度は人格における社会病理（その原理と現象形態——精神病理、登校拒否、怠学、少年非行、犯罪、家出及び放浪等——）と家族における社会病理（その原理と現象形態——離婚、家庭紛争、家庭内暴力、保育問題、片親世帯等——）との講義を行う。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 中本博通編『社会病理と社会問題』（旺文書房）大橋薫編『社会病理学』有斐閣

外書講読Ⅰ

金丸由雄

講読する英文は難しすぎても易しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読Ⅱ

坪井 健

外書講読Ⅱは、原書（英文）の講読を通じて社会学的分析力を培うことを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講Ⅰ

橋 爪 敏

本講では、政治社会学的諸問題についての講義を行う。政治社会学は、政治現象について社会学的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象である人間諸関係の政治的側面とそれ以外の諸側面との関連が問題となってくる。そこでまず、政治社会学とは何かを問うことから始め、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治（社会）運動、政治的社会化などを取り扱うこととした。

〔教科書〕 未定（追って指示する）。

社会学特講Ⅱ

高 橋 信 行

「男らしさ」、「女らしさ」は、男性一般、女性一般の性格特性をあらわす言葉であると同時に、役割期待としての意味をもった言葉でもある。性差の研究に対するアプローチはさまざまであるが、とくに本講義では「性格」および「役割」の概念をキーワードにしなが、ら、「男らしさ」、「女らしさ」の社会学を論ずるつもりである。なおテキストは特に指定しない。

社会学原論

渡 辺 源 樹

社会的行為、地位・役割、同調・逸脱、準拠集団というような社会学の社会学の基礎概念をふまえながら、社会学とは、どのような学問であるのか、その学問の特徴を明らかにし、現代に生きる人間にとって、どのような意味をもっているのか、社会集団の現実的な諸問題をどうして明らかにしてゆく。

図書館学Ⅰ

山 崎 慶 子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と

「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

（前期）高橋 信行
（後期）山崎 慶子

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

社会保障概論

小 沼 正

先ずわが国制度を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を取上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）、社会保障研究所編『経済社会の変動と社会保障』（東京大学出版会）

社会福祉法制

小 林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この

検討を終えた後は、教科書『社会福祉の法を考える』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人編著仮称『社会福祉の法を考える』（川島書店・60年3月末刊行予定）

〔参考書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

社会福祉方法総論

高橋重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論・歴史的展開過程、ソーシャル・ワーカーの専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての専門職業的倫理観や基本的姿勢についても追求したい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

社会福祉実習Ⅰ

高橋重宏

社会福祉実習は、社会福祉を学び専門性を体得していくために必要不可欠で極めて重要な科目である。具体的には、修得しつつある社会福祉の専門科目の理論や基礎知識と専門技術を、社会福祉機関や施設での実践体験と統合化させつつ深め、社会福祉実践のための専門性を体得したソーシャル・ワーカーに一歩ずつ迫ることになる。

配属された実習の場、社会福祉の理論や基礎知識、技術の有効性、妥当性を検証したり、現場の実態や今後の課題、自己の卒業論文の研究課題を探るための貴重な体験の場として有効に活用してほしい。さらに、自からが生活の中で学んだものを、現場の目を通して再検証していく努力を忘れてはならない。主体的・積極的な参加を必要とする。

〔参考書〕 1) 『国民の福祉の動向』（昭和59年度版厚生統計協会）

2) 仲村優一・岡村重夫阿・部志郎編『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）

3) 『社会福祉六法』（第一法規）

4) なお、「社会福祉実習」に関する資料

コーナーがあるので活用してほしい。

公的扶助論

小沼正

公的扶助は、社会保障とくに所有保障において、社会保険と並ぶ二つの主要な部門の一つであり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法保、護率、受給者の権利意識その他——および将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼正著『貧困—その測定と生活保護—』（第二版）（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山 京著『公的扶助論』（光生館）
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

障害福祉論

原田信一

主として、わが国における心身障害児（者）福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他著『心身障害児（者）福祉』（田研出版）

老人福祉論

奥山正司

老後・老人問題は、社会の変化を背景にして、その発生するプロセスと性格によって、大きく以下の三つにわかれる。即ち、老化に伴う経済的ニード、身体的ニード、精神的ニードとそのそれぞれに対応する家族的扶養が十分にえられないところからくる問題の三つである。また、それらの問題に対して、老人福祉対策は、大別して、施設福祉対策と在宅福祉対策が、不十分ではあるが準備されている。

したがって、講義の内容は、老人問題の発生過程を明

らかにし、そのうえで、老人福祉対策の現状と今後のあり方を考えることにする。

〔教科書〕 特になし

〔参考書〕 随特紹介していく

児童福祉論

原 田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく出現し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法など）の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』（川島書店）

母子福祉論

林 千 代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス・施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。それは、いわば婦人問題の集約であり、施策の最も具体的な対応がせまられる状況である。このような問題意義に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1、母子福祉への歩み、2、母子家庭とは、3、母子家庭の生活実態とその困難、4、母子福祉施策の現状と問題点。

〔教科書〕 講義ノートによる

〔参考書〕 随時紹介

医療社会事業論

春 見 静 子

1 医療制度の中での医療社会事業の位置づけを保険所、病院、施設それぞれについて考える。

2 疾病がもたらす心理、社会的負担について考察する

3 援助を行うための社会資源にはどのようなものがあるか。関係法規とその適応を検討する。

4 医療社会事業の方法について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの実際を学ぶ

〔教科書〕 野村茂他『医療社会事業の実際』（光生館）

地域福祉論

岡 田 真

CO（コミュニティ・オーガニゼーション）に時間配分の重点を置く。COはケースワークやグループワークと並んで福祉三大技術の一に位置するものであるから、「社会福祉方法総論」と極力同時に履修すること。

COの実体は、「地域の根廻し」の技術である。ただし、その適用はコミュニティ・ケアの展開、福祉計画充実などのためにであらねばならない。

他大学には「地域福祉論」で、福祉現実の地域的分析を行なう所もある。そして、福祉現実の科学的認識なくしては、ソーシャル・ワークはカラ廻りをしてしまう。だが本学ではその指導は都市社会学の一部で行なう。従って同じ担当者の都市社会学を、ともに知ることが望ましい。（もちろん本講義だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）。

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

他に最新の文献や入手困難な文献（コピーによる）

社会福祉事業発達史

林 千 代

いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 『社会福祉事業発達史』今岡他編（ミネールヴァ書房）

〔参考書〕 随時紹介

社会福祉管理運営論

重田 信一

本講では、我が国における社会福祉行政ならびに社会福祉施設運営の実態を検討し、それをとおして、社会福祉運営法の相対的独自性を明らかにするとともに、そのあるべき姿を追求し、今後の社会福祉運営法のあり方を明らかにしたい。これを客観的に、諸外国との比較において、あるいは一般行政、私企業との比較において、検討したい。

なお、第二年次生あるいは他学科学生の聴講を予定して、社会福祉実践事例を紹介しながら、講義内容に具体性を添えるよう配慮する。

〔教科書〕 別に指定する。

福祉外書講読

岡田 真

第一案：履修者各々が選んだ文献について、それぞれの履修者ごとに個別指導。この場合には、それぞれの文献の選定に関しても、要請があれば、アイデアを提供する。

第二案：「地域の根拠し」(C. O.) は、どのように実施すれば具体化するものであるかを考える。この場合には、担当者の下記著作の「本論」(第Ⅱ部)のネタを公開する。

昨年は、社会事業学校連盟モントリオール大会で岡田に配布された資料や、岡田の学会発表関連論文などがテキスト。評価のためには、講読した諸論文のうちの一つについて、レポートを提出してもらった。

〔教科書〕 両案いずれの場合にも、原文をコピーにとる場合が多かるう。

〔参考書〕 岡田 真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科

学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の1つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義・定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

〔教科書〕 1) 久保絃章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)

2) 仲村優一編『ケースワーク教室』(有斐閣)

3) 日本社会事業学校連盟編『ケースワーク実践の基礎—事例によるケースワーク研究—』(全国社会福祉協議会出版部)

グループワーク論

(前期) 松本栄二
(後期) 春見静子

学校、医療の場、社会福祉施設等における事例を用いながらグループワークの性質、方法を紹介する入門的なコース。

グループにかかわるソーシャルワーク、とグループワークの比較。社会教育的グループワークと臨床的グループワークの関係、機能主義と診断主義及び折良主義夫々のグループワーク等々についての紹介と共に出来ればロールプレーなどを教室でとり入れてみたい。

毎時間講義資料のコピーを渡す(実費徴収)。

海外社会福祉論

星野 貞一郎

社会福祉を理解するためには、世界各国がそれぞれの国情に応じて発生させてきた社会福祉のすぐれた制度や活動を学ぶことが大切であることをふまえ、以下の海外諸国の社会福祉事情について講義することにした。

(1) イギリスの社会福祉、(2) アメリカの社会福祉、(3) 北欧諸国の社会福祉、(4) 西ドイツの社会福祉、(5)

フランスの社会福祉, (6) オランダの社会福祉, (7) カナダの社会福祉等

〔教科書〕 国際社会福祉協議会日本国委員会編『各国の社会福祉』(全国社会福祉協議会1983年)

社会福祉学特講Ⅰ

高橋重宏

本年度は、『ケースワークの臨床事例研究』をとりあげる。ケースワーク実践の専門技術の体得は容易ではない。それは、臨床経験なしに修得することができない性質のものだからである。臨床的なことは本を読んだ知識だけではどうにもならない面がある。必要なのは、スーパーバイザーのもとで、臨床的経験を積み重ね、臨床的感覚を体得することである。

だが、学生がすぐ専門の臨床実習に入ることは危険でもある。そこで、まず、ケースワークの臨床事例を熟読し、ソーシャル・ワーカーの活動の姿について理解を深め、そのソーシャル・トリートメント過程の追体験をすることから始めたい。なお、ケースワークの単位を取得している、または取得中の学生の履修を原則とする。テキスト、事例は必要に応じて指示する。

社会福祉学特講Ⅱ

星野貞一郎

社会福祉調査事例を学ことによって、社会福祉に関する調査技術を実際に即し具体的に体得する。

〔教科書〕 その都度プリントを配付する。

社会福祉学特講Ⅲ

星野貞一郎

社会福祉現象に対して社会学の領域から接近して、これを分析する、その視角を養うことを目的として本年度はとくに、諸外国の研究動向として、Ramesh Mishraの Society and Social Policy から「福祉への接近」と「社会構造と福祉」を学ぶことにしたい。

〔教科書〕 Ramesh Mishra, Society and Social Policy, Macmillan Press, London. 1981

社会福祉実習Ⅱ

原田信一

社会福祉実習は、理論と実践、思考と体験とを有機的に結びつける実践学習である。そこで、これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場にてらし合わせながら、実際の福祉従事体験等を通してそこにいかなる実体、つまり相反や矛盾面があるかなどの現実認識をふかめると同時に、福祉の本質を学びとってもらう。一方、大学においては、激しく流動する福祉ニーズに即応できうる専従者として必要な専門的知識の指導をおこなうと共に、公私にわたる諸福祉施設、各機関の協力を仰ぎ、連繋をとりながら即戦力者養成をめざしすすめてゆく。したがって、将来、福祉職を目指す学生の受講を歓迎する。

〔教科書〕・〔参考書〕 随時紹介し、指導してゆく

障害児教育方法論

井田範美

養護学校教育義務制が実施され6年を経過したが、教育・福祉の現場は大きな変容をとげている。障害児教育の対象は軽度から重度の障害を包含し、教育の方法は多様化している。障害児教育は第二次大戦後、学校・施設は増大したが、児童・生徒の実態ならびに教育、社会のニーズの変化に伴って質的な変容をとげながら今日に経緯した。本講は以上の観点をふまえながら、養護学校特殊学級の教育方法を中心に、学習の指導形態、授業の方法、治療的指導法、教育評価法、早期指導の概要を講述すると共に、施設指導ならびに福祉的アプローチについて論述する。

〔教科書〕『知能障害児の指導』(明治図書)(3月刊行)

〔参考書〕『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房)(近刊)

障害児教育原論

井田範美

障害児教育の理念、目標、内容について健常児の教育と比較対照しながら論述する。しかし、障害児教育は障害種別により成立基盤、発展の過程は異なる。

そこで障害児全般にわたる基本的知識として各障害(視覚障害、聴覚障害、運動障害、病弱虚弱、知能障害、情緒障害、言語障害、等々)に関する心理学的概念ならびに教育の概要について講述する。さらに障害児教

育の今日の問題として、学校（教育現場）と施設（福祉現場）の両面から障害児教育における諸問題について論述する。

- 〔教科書〕 『障害児教育概説』（学芸図書） ¥1,300
〔参考書〕 『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）（近刊）

心理学史

萩野源一

心理学の歴史を概説し、科学的心理学の成立過程を述べ、さらに心理学の課題、その研究方法について論述する。

- 〔教科書〕 末永俊郎編『歴史と動向』（講座心理学Ⅰ）東大出版会 1971,
〔参考書〕 今田 恵著『心理学史』（岩波書店）1962.

心理統計学

篠原英寿

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的、処理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測定法処理方法などについて説明したい。

- 〔参考書〕 随時示す

心理学実験（実習）

篠原英寿・谷口泰富

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。さらに、実験レポートの作成についても指導する。

- 〔教科書〕 依田新監修『基礎実験』（心理学実験演習Ⅰ）（金子書房）

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法全般にわたる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷口泰富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究方法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛り込んでゆく予定である。

- 〔参考書〕 随時紹介する。

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠原英寿

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から生年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E. H. エリクソンの精神分析学的理論、及び、J. ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

- 〔参考書〕 随時指示する。

基礎心理学Ⅲ（学習）

小野浩一

学習心理学の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。さらに、人間を含む生物体の行動をコントロールしている変数について実験的行動分析の立場から吟味する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅳ（社会）

水原泰介

社会心理学研究における理論と実験の役割を解説することにより、社会心理学がどのような学問であるかの理解を深める。

- 〔参考書〕 水原泰介『社会心理学入門』（東大出版会）

基礎心理学Ⅴ（臨床）

中村昭之

1. 臨床心理学的人格理論（症状形成と治療）

- (1) 総論
- (2) カウンセリング
- (3) 精神分析
- (4) 森田療法
- (5) 行動療法
- (6) その他

2. カウンセリングテープの聴取その他

〔教科書〕『カウンセリング事例集第二輯』（臨床心理研究所 1982）

心理学研究Ⅰ（実習）

萩野源一

主として実験心理学に関する基礎的文献の紹介と、それらに関する初歩的実験の計画と実施を行なう。

参考書は開講後、順を追って示す。

心理学研究Ⅱ（実習）

水原泰介

社会心理学の代表的な実験について、計画、実験、結果処理、研究報告書作成の実習をおこなう。

心理学研究Ⅲ（実習）

中村昭之

臨床心理学の各種理論の講義、各種文献についての輪読、人格テストの実習などを行なう。

心理学研究Ⅳ（実習）

篠原英寿

心理学研究Ⅳは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学の内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験的内容を実習的に行なうことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行ないたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる。

〔参考書〕 Readings in Child Development & Personality : Edited by P.H. Mussen, J.J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965

心理学研究Ⅵ（実習）

谷口泰富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行なう。実習内容については、初めの時間に説明する。

〔参考書〕 随時紹介する。

生理心理学

谷口泰富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

児童心理学

天野珠子

児童心理学とは、乳児期・幼児期・児童期の精神発達の諸特性を探ることである。成人は誰でも児童期を経過しているため、児童の行動や心理を理解していると思いがちだが、その実、一方的先入観による解釈が多い。

正しい児童理解は、大人と子どもの関係を円滑にするため、又教育やしつけのためにも必要なことである。豊富な具体例を紹介しながら、児童心理学の今日の進歩の水準にたつて、概要を捉えていきたい。

〔参考書〕『児童心理学』（東京大学出版会）
『新版児童心理学』（学芸図書）

産業心理学

大塚 秀 治

産業心理学は様々な産業場面での心理学的諸問題を扱う応用心理学の一分野であり、心理学の全ての分野と密接な関係をもっている。ここではコンピュータに代表される人間-機械系のあり方を中心に ①作業とは何か ②作業環境と作業者の心理 ③ヒューマン・エラーは何故生じるか、等を講義し時間が許せば、航空機事故の事例研究や、簡単な実験を行ない理解を深める。

〔教科書〕 開講時に示す

〔参考書〕『心理学8「産業心理」』（有斐閣双書）、
『情報処理心理学』（サイエンス）、
『産業心理学』（恒星社厚生閣）

グループ・ダイナミックス

花 沢 成 一

集団の形成、集団の発達、集団の凝集性、集団内のコミュニケーション、同調行動、集団の生産性などについて講義する。講義だけではなく、体験的学習の機会も設けたい。

〔参考書〕 随時紹介する。

カウンセリング

鈴 木 順 一

講義形式による教師中心の授業ではなく、体験学習による学習者中心の授業にしたい。来談者中心カウンセリング、精神分析、行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、論理療法、芸術療法、禪的療法、グループ・アプローチ等の体験学習をすることにより、お互いのパーソナリティの理解と開発（自己実現）をめざしたい。

〔教科書〕 この授業に参加する一人一人が、生きた教科書であると考えたい。

〔参考書〕『カウンセリングの理論』『エンカウンター』
『新訂カウンセリング』（以上誠信書店）
『カウンセリング実習入門』（新曜社）
『エンカウンター・グループ』（創元社）
『暮らしの中のカウンセリング』（有斐閣）

『カウンセリング』（芸林書房）

心理検査法

花 沢 成 一

心理検査に関する基礎理論（心理検査の歴史・作成法・妥当性と信頼性・問題形式・利用法など）を講義するとともに、主要な現行心理検査（京大NX知能検査・WAIS・Y-G性格検査・MMPI・内田クレペリン精神検査・ロールシャッハ検査・TATなど）の施行や採点などの実習を行う。

〔参考書〕 随時紹介する

禅心理学

脇 本 平 也

禅心理学という用語には二重の意味がある。一つは、禅を対象とする心理学の立場からの研究である。もう一つは、禅仏教がもっている人間心理に関する知見である。前者を西洋に発した宗教心理学との関連において、後者を東洋における伝統的仏教思想との関連において、それぞれに考察し、さらに両者の関係について考えてみたい。

〔参考書〕 適時指示する。

心理学特講Ⅰ

佐々木 雄 二

自律訓練法は、神経症や心身症の治療法として、あるいは教育効果を高めたり創造性を開発するための技法として、広く用いられるようになった。本講では、このような自律訓練法の理論と方法を学ぶ。

〔参考書〕 佐々木雄二『自律訓練法の実際』（創元社）

心理学特講Ⅱ

佐々木 宏 幹

日本を含むアジア各地の通過儀礼を手がかりにして、誕生後の人間がどのような段階と手続きを経て社会化・文化化してゆくかについて考察する。文化・社会と人格との関係を儀礼の具体的展開のなかに捉えていくという態度をとってみたい。テキストは講義の進展に応じて取りあげてゆく。

心理学特講Ⅲ

古賀義亮

コンピュータに関する知識、技能等が基本的な素養として要求されるようになってきている。本講義では、コンピュータに関する基礎的な内容から始めて、プログラムの作成方法を通じ、コンピュータに関する理解を深めることを目的とする。

これにより、心理学実習における統計処理、実験などにコンピュータを応用する能力を養うことができる。従って、2学年、3学年からの履修が、効果的であろう。

〔教科書〕 大河内、他『基礎電子計算機』（実教出版）
〔参考書〕 古賀『マイコンソフトウェア入門』（講談社）

精神医学

柴田 出

心の病いについて触れるとき、人間個人の精神発達、脳病理学、精神生理学、そして、その個人が関わっている人化的、社会的背景の一つを除いても語ることはできない。

そこで、人間理解のための基礎的知識としての上記のそれらに触れてみたい。

また、各論として、疾患単位、また臨床的症候群のそれぞれについて、臨床事例を提供しながら言及する。

そして、ひいては、それらに対する治療、また対応を含んだ対策についても触れてみたい。

〔教科書〕 『心の自己分析』（有斐閣）¥1,300

心身医学

佐々木 雄二

心身医学とは、心身症——心理・社会的要因がその発病や経過に影響を及ぼしているからだの病気——を対象とする医学である。心身医学の領域では、心理面接、心理テスト、心理療法などの実践や研究で、臨床心理学者が大きな役割を担っている。本講では、臨床心理学者に必要な心身医学の基礎的事項を学ぶ。

〔教科書〕 池見西次郎『心療内科』（中公新書）

社会政策

清水英彦

社会政策の中心テーマである、賃金、労働時間、社会保障、雇用、失業、労使関係に関して、労働経済学の立場から分析を行い、その意味を検討してみる。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

民法

青山尚史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大系的説明を加えようと考えている。

〔教科書〕 教場にて指示する。

労働法

平岡一實

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に開設を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて、新しい動向等の把握を遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕 平岡一実『改訂労働法の基本問題』（八千代出版）

行政法

鷄徳啓登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家であるといわれている。それは、単に社会秩序を維持する国家ではなく、社会生活の向上及び社会福祉の実現を目指す国家である。それでは、現代国家の行政はどのように行われているのか、また、行政法とはどのような法令なのか。

一口に行政法といっても、他の法律とは異なり「行政法」という実定法はない。その意味で、行政法はとっつきにくい分野であろうと思われる。従って、本講座では「行政法入門講座」とも言うべく基本的な点を中心に行い、その理解を助けるべく具体的な例をあげて説明する。

〔教科書〕 『行政法の話』（第一法規）¥1,800

- 〔参考書〕『行政法入門』（有斐閣双書）¥1,100
又は、『要説行政法』（弘文堂）¥2,300

経 済 原 論

浅 野 克 巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に開設してゆきたい。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論 2. 企業行動の理論 3. 価格決定

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念 2. 国民所得の決定 3. 経済の変動と成長

III 現代経済学の課題と方向

IV 経済学の生成過程

〔教科書・参考書〕最初の授業で説明します。

青少年問題研究

和 田 謙 寿

「校内暴力や家庭内暴力、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校及び高等学校の教師をめざす者。ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をみつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）
¥1,200

教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	全 学 部 （ 59 年 度 入 学 生 より 適 用 ）
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部

目

次

教育原理(磯野 昌蔵)	1	人文地理学概説(高木 久)	7
教育原理(上岡 安彦)	1	社会学原論(渡辺 源樹)	7
教育原理(村山 輝吉)	1	経 済 原 論(小野 俊夫)	7
教育原理(坂本 信昭)	1	政治学原論(飯山 勇)	7
教育原理(北村 三子)	1	民 法 I(山崎 敏彦)	8
青年心理学(伊藤 研一)	1	哲学特講I(東洋)(篠原 寿雄)	8
青年心理学(武井 澄江)	1	哲学特講II(西洋)(国嶋 一則)	8
青年心理学(藤崎 春代)	1	宗教学特講I(松田 文雄)	8
青年心理学(牟田 悦子)	1	宗教学特講II(脇本 平也)	8
青年心理学(渡辺三和子)	2	宗教学特講III(洗 建)	8
教育心理学(伊藤 研一)	2	教 育 史(磯野 昌蔵)	8
教育心理学(久慈 洋子)	2	宗 教 教 育(松本 皓一)	8
教育心理学(武井 澄江)	2	教育関係法規(北村 三子)	8
教育心理学(中村 均)	2	教育関係法規(船木 正文)	9
教育心理学(藤崎 春代)	2	図書館学I(山崎 慶子)	9
教育心理学(荻野美佐子)	2	図書館学II(前期 高橋 信行)	9
教育心理学(渡辺三和子)	3	(後期 山崎 慶子)	9
道德教育の研究(万羽 晴夫)	3	博物館学I(倉田 芳郎)	9
教育実習(磯野 昌蔵)	3	博物館学II(林 俊雄)	9
教育実習(上岡 安彦)	3	博物館実習I(館務)(倉田芳郎・清水潤三)	9
教育実習(村山 輝吉)	3	博物館実習II(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉・所理 喜夫・高浜 秀)	10
教育実習(坂本 信昭)	3	博物館実習III(見学)(倉田芳郎・林 俊雄)	10
教育実習(北村 三子)	3	博物館実習IV(特講)(58年度以前入学生適用) (林 俊雄)	10
国語科教育法(神谷 道倫)	4	視聴覚教育(赤堀 正宜)	10
書道科教育法(谷村 義雄)	4	日本文化史I(圭室 文雄)	10
宗教科教育法(松本 皓一)	4	印度仏教文化史(奈良 康明)	10
英語科教育法(大沢 一雄)	4	西洋文化史I(椽川 一朗)	11
社会科教育法(地理)(高木 久)	4	西洋文化史III(阿部 重雄)	11
社会科教育法(地理)(中島 義一)	4	仏 教 美 術(林 良一)	11
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)	4	現代美術(宮崎 克己)	11
社会科教育法(谷敷 正光)	4	禪 美 術(竹内 尚次)	11
社会科教育法(長谷部八朗)	5	美術史概説(林 良一)	11
社会科教育法(大久保治男)	5	西域美術史(林 良一)	11
職業科教育法(佐藤 規子)	5	考古学概説I(日本)(倉田 芳郎)	11
職業科教育法(谷敷 正光)	5	考古学概説II(外国)(飯島 武次)	12
商業実習(前田 幸一)	6	考古学特講II(飯島 武次)	12
職業指導(山田 勇治)	6	考古学特講IV(高浜 秀)	12
産 業 概 説(和田 禎一)	6	日本民俗学(山折 哲雄)	12
世界史概説(中村 道雄)	6	仏教民俗学(和田 謙寿)	12
世界史概説(渡辺 惇)	6	宗教学人類学(佐々木宏幹)	12
日本史概説(芥川 龍男)	6	考古発掘実習(飯島 武次)	12
日本史概説(波田野富信)	7	社会福祉概論(岡田 真)	12
地誌学概説(今朝洞重美)	7	障害福祉論(原田 信一)	13
地誌学概説(長野 覚)	7	社会福祉実習I(岡田 真)	13
地誌学概説(渡邊 盾夫)	7		
自然地理学概説(早船 元峰)	7		

社会福祉法制（小林 弘人）	13
公的扶助論（小沼 正）	13
児童福祉論（原田 信一）	14
老人福祉論（奥山 正司）	14
社会保障概論（小沼 正）	14
地域福祉論（岡田 真）	14
ネットワーク論（高橋 重宏）	14
グループワーク論（前期 松本 栄二）	15
（後期 春見 静子）	15
社会福祉事業発達史（林 千代）	15
母子福祉論（林 千代）	15
医療社会事業論（春見 静子）	15
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	15
社会福祉管理運営論（重田 信一）	16
リハビリテーション論（原田 信一）	16
社会教育概論（磯野 昌蔵）	16
社会教育方法論（村山 輝吉）	16
社会教育行政財政（酒匂 一雄）	16
教育社会学（熊谷 一乗）	16
社会心理学（坪井 健）	17
社会教育施設（村山 輝吉）	17
児童教化（富田 博之）	17
青少年問題研究（和田 謙寿）	17
青少年指導演習（和田 謙寿）	17
社会教育演習（上岡 安彦）	17
教育法規研究（神田 修）	18
成人指導及青少年指導（酒匂 一雄）	18
生活指導（秋山 さと子）	18
教育哲学（汐見 稔幸）	18
教育調査（大塚 雄作）	18
教育学特講（熊谷 一乗）	18

教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か
中等教育の歴史と問題
青年期の特徴と中等教育
中等教育の教育課程

教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じるものとします。

〔教科書〕『エミール』(上・中・下)岩波文庫
上¥550, 中¥450, 下¥450

〔参考書〕『教育学研究入門』(東大出版会) ¥1,800

教育原理

村山輝吉

前半は主として下村湖人の教育論などを軸に、教育とはなにかということを原理的に考察する。後半は、いくつかの実践記録をとりあげ、それを読みあうことを通して、今日の教育がかかえている問題点を追究したい。

教育原理

坂本信昭

1. 私たちの受けた教育をふりかえてみよう。2. ひとの成長・発達・成熟。3. 家庭の役割, 地域のはたらき。4. 学校に期待されるもの。5. 授業のなかみを考える。6. 学習をふかめる。7. 人格をはぐくむ。8. 障害児について。9. 内なる差別を考える。10. 教師について。11. 教育制度を見直す。12. 学びへの出発(生涯教育)。という全体構成とテーマについてともに考えていきたい。

〔参考書〕『教育原理』(学芸図書) ¥900

『ビジュアルノートきょういく』(エイデル研究所) ¥未定

教育原理

北村三子

自分達の受けてきた教育の性格や問題点をより広い視野から捉え直すことを目標に、前半では近代公教育の歴史の成立とその性格について触れ、次いで民族学・民俗学・動物行動学などの知見を通して教育の原型を探ってみたい。また後半では、現代社会における教育の諸形態とその機能を今日の教育問題にもふれつつ検討する予定である。

〔参考書〕 適時指示

青年心理学

伊藤研一

青年の心理の諸相を、発達段階、精神分析的理解の見地から概観する。必要に応じて臨床事例や実証的研究を紹介する。

青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

青年心理学

藤崎春代

前半は、乳児期から児童期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、青年期の諸問題について検討する。

青年心理学

牟田悦子

青年期は第二の誕生といわれるが、出生以来つくりあげてきたパーソナリティの変革と再構成の時期である。はじめに、人間の発達の中での青年期を位置づける。こ

これは青年期にある受講者の自己理解の作業も含む。次に現代の青年たちがかかえている問題、教育の場で問題となっている様々なことがらについて共に考えていきたい。

〔参考書〕『中学生の心とからだ』(岩波書店) ¥950,
『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)
¥950

青年心理学

渡辺 三和子

前期は人格が形成されるとはどういうことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

教育心理学

伊藤 研一

教育心理学を発達、学習、人格、適応等の諸側面にわたって概説する。

〔教科書〕『教育心理学・改訂版』倉石他編著(新曜社)
¥1,500

教育心理学

久慈 洋子

子どもの発達の道すじを述べ、教育がどのように関与して発達を支えていくかについて論ずる。具体的には、次のような流れに沿って授業をすすめる。

- 1) 発達とは何か
- 2) 発達と教育
- 3) 発達の諸側面(認知・思考、情動、自我形成など)
- 4) 教授・学習の過程
- 5) 個人差と教育
- 6) 学習の評価・テスト
- 7) 教師と学級経営
- 8) 児童文化——子どもの考えていること

〔参考書〕『教育心理学』(有斐閣新書) ¥580, 『児童心理学 テキストブック心理学(4)』(有斐閣) ¥1,100 『子どもの能力と教育評価』(東大出版会) ¥980

教育心理学

武井 澄江

「発達」「学習」「パーソナリティと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

教育心理学

中村 均

人間の変化を、①時間的な変化を視点にして眺めた「発達」、②経験を視点にして眺めた「学習」、③変化が人によって異なる点に着目しての「個人差」、④1人だけみた時と集団でみたときとは変化の具合が違う点に着目しての「学級集団の役割」、この4点から検討するとともに、その検討のためのデータを得る手段である「教育評価」について、概観する。

〔教科書〕東正(責任編集)『教育心理学要説』(川島書店)

教育心理学

藤崎 春代

前半は、乳児期から青年期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、教育をめぐるいくつかの問題(授業・評価・テスト・障害児、等)について検討する。

教育心理学

荻野 美佐子

教育の過程を心理学的に理解し、科学的に考える態度を形成する。人間の発達やパーソナリティの理解のしかた、個人差についての考え方、学習のメカニズム、教育評価の方法、教師-生徒関係の力動性などについて講義する。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

教育心理学

渡辺 三和子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

道徳教育の研究

万羽 晴夫

今年度は、生徒指導という事柄に目をむけてみたいと思う。

子どもは、様々な場面で様々な行動を演じるのであるが、その際彼らは多様な意味を行動——表現に付与する。それらの意味を読みとり、解説していくことについて考えてみたい。

対象は、preadolescence から early あるいは mid adolescence にかけての子どもたちである。

別言すれば、本講義のテーマは、子どもにおける対人関係なし「子ども——子ども関係」の意味と構造の検討と述べてもよいかもしれない。

〔参考書〕 ミード『精神、自我、社会』（青木書店）

教育実習

磯野 昌蔵

実習前の指導

教育実習について諸注意
学習指導のための準備

実習期間中の指導

実習後の指導

教育実習の体験をもとにして、学習指導や生活指導
その他教育の現場における諸問題を検討する。

教育実習

上岡 安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作製実習

訪問指導

実習期間中の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）
¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）
¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

教育実習

村山 輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面談等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本 信昭

本学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めま

す。教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容（領域）に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行う。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート提出、(3)グループ編成による授業（ディスカッション）を行い教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行う。

〔参考書〕『教えるということ』（共文社）¥580

『世界でいちばん自由な学校』（人文書院）
¥1,600

教育実習

北村 三子

実習前は、教育実習の意義や心構えなどを過去の実習生の事例なども交えて講義や話し合いを行なう。実習後は各自の体験をふまえて、授業や生活指導上の問題や教師のあり方などについて考え合う。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・動向、ならびに学習内容(領域)、教材に即したそれぞれの指導方法について講義。後期は実際の教材にあたって、教材研究のあり方、指導事項、方法等々、主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新編)』
(桜楓社) ¥1,200

書道科教育法

谷村義雄

1. 中高校に於ける「書写」教育の実際と、教材教具およびその基礎知識について講義する。
2. 古典研究
古典の臨書を中心に書法を研究する。
3. 講読
主として唐の孫過庭書譜を講読する。書の精神性と自然との同化を説く。

宗教科教育法

松本皓一

教職科目である宗教科の教育法を理論的に考察し、他日、教職に立った場合の基礎を培うことにする。カリキュラム・教材研究を中心とする。

〔参考書〕講義中必要に応じ指示する

英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教授法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙(い)、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法(地理)

高木久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

社会科教育法(地理)

中島義一

中学・高校の社会科(地理)につき指導計画・指導案の立て方、教材研究、地理クラブ・修学旅行の指導法等につき講じ、後半は授業演習を行う。下記教科書のほか①中学校の社会科(地理)教科書と、②地図帳(中学生または高校生の時に使用したものでよい)を必要とする。①については授業時に指示する。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』
(古今書院)

社会科教育法(歴史)

野呂肖生

中・高等学校における社会科の授業はどのように展開すべきかを、とくに歴史分野を中心に考えてゆきたい。そのさい、とくに実践面にウエイトをおき、自らつくりだす授業ということを目指したいと思う。

社会科教育法

谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分

検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修(授業参観)などを行う予定である。

社会科教育法

長谷部 八 朗

社会科教育の主要な眼目の1つは、十全たる国民・社会生活を営む上で欠くことのできない社会的人格の形成をめざすところにあるといえよう。しかるに、それが実現のためには、以下の諸点が問題とされねばなるまい。すなわち、① 学習者に、日常生活の諸局面をめぐり、主体的に問いかけ、理解し、洞察する態度を育成させるような指導が求められる。② 学習者からこうした態度を引き出すためには、指導者自身が、単なる知識提供者に終わらず、物事を深く掘り下げ、見据える社会科学的視野を陶冶しておく必要がある。

かかる観点にたつて、本講義は、社会科教育のあるべきようを受講者と共に模索していきたい。より具体的な講義方針については、最初の授業で述べる。

〔教科書〕〔参考書〕 適宜指示する

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』(中学・高校の社会)各自が使用した社会関係の教科書。

職業科教育法

佐 藤 規 子

職業教育は、教職を志す者に必要であるばかりでなく職業人として社会で貢献するうえでも重要である。本講座では、教職を志す者にすぐ役立つように、主として職業教育の実践に関する基礎知識・技能を体系的に講述する。講義の大筋は、次のとおりである。

1. 職業教育の意義及び重要性
2. 新しい職業教育観
3. 職業教育の内容
4. 職業教育の基礎知識

〔教科書〕 開講時に発表する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従つて、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」と

いったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じた商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）
竹内宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）
神田修『学校からみた教育政策』（有斐閣）
その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

商業実習

前田幸一

商品の流通とそれに係わる事務手続きについて勉強をする。

職業指導

山田勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の単なる斡旋指導ではなくて、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）¥1,300円

〔参考書〕 近藤大正・有本章編著『職業と教育—職業指導編—』（福村出版）¥1,500円

産業概説

和田禎一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわってきた日本の産業と産業政策を、概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいし適宜指示する。

世界史概説

中村道雄

ヨーロッパ世界の成立と発展の次第を述べる。参考書は下記のもののほか、高校教科書も参考になる。また簡単な世界史地図も参照したい。問題意識をもって授業に臨むことを希望する。

〔参考書〕 衣笠茂ほか『概説西洋史』（東京創元社）、
尾鍋輝彦『西洋史概説』（学生社）『詳密世界史地図』（帝国書院）

世界史概説

渡辺惇

アジア史を東アジア・東南アジア・南アジア（インド）・西アジア・内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の特色、推移について講義する。

〔教科書〕 特に定めず。プリント、資料を配布する

〔参考書〕 松田寿男『アジアの歴史』（NHK市民大学叢書21、日本放送出版協会）その他講義の中で指示する。

日本史概説

芥川龍男

日本の中世に重点をおいて講述する。教科書は用いないが、講義の進行につれて参考書を紹介するので積極的

に読破すること、はなはだしい遅刻者については入室を
ことわるので注意してほしい。

日本史概説

波田野 富 信

中世から近世までを中心に講義する。前期は中世、後
期は近世とし、それぞれの政治・社会経済にわたって、
通史的に概説する。参考書は特に指定しないが、必要に
応じそでの都度紹介する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を
講義する。

地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの
ち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性
をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習す
る。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほ
しい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』〔改訂版〕
(大明堂)

地誌学概説

渡 邊 盾 夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講
義をする。受講希望者は地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、
人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を
用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業
(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を
作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース
紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

人文地理学概説

高 木 久

地理学の思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考
察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、
人文地理学の各部門(地図、自然、人文関係)について
概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡 辺 源 樹

社会的行為、地位、役割、同調、逸脱、準拠集団と所
属集団というような、社会学の基礎概念をふまえなが
ら、社会学とは、どのような学問であるのか、その学問
的特徴を明らかにし、現代に生きる人間にとって、ど
のような意味をもっているのか、社会集団の現実的な諸問
題をどうして、明らかにしてゆく。

経済学原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果を
も考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済
を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

飯 山 勇

本講義は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その
原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講義で
は現代政治についての理解を深める意図から、現代国家
と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的
諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主
として、政治権力、国家、政治機構などを解明したい。

〔教科書〕 飯山勇『政治要論』(八千代出版)

民法 I

山崎敏彦

民法のうち、総則、物権を対象とする。説明にあたっては、判決例をできるだけ多く示すなどにより、具体的理解が得られるよう努めたい。なお、聴講に際しては、小さなものでよいから、六法を必ず持参されたい。

〔教科書〕 我妻=有泉『民法I』（一粒社）

哲学特講 I（東洋）

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 『老子』（中公文庫）¥280円

〔参考書〕 その都度紹介したい。

哲学特講 II（西洋）

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしてほしい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

協本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想、教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 協本平也『宗教を語る—入門宗教学—』

（日新出版）

宗教学特講 III

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

松本皓一

幼少時の宗教的情操培養、青年期の心理と宗教カウンセリング、高齢者社会に対する宗教的アプローチ、困難な問題であるが「死」に直面した人々への臨床的教化法の問題などを考えてみたい。

〔参考書〕 講義中随時指示する。

教育関係法規

北村三子

日本の教育法の基本的性格を理解するために前半では主として憲法・教育基本法成立の歴史的背景や意義を説明する。後半では、戦後の教育と法の動態をふまえてつ

今日の教育現場での教育法規と関わる諸問題を具体的に考察したい。

〔参考書〕 『教育小六法』(学陽社)

教育関係法規

船木正文

戦後教育の基本原則を定めた教育基本法を中心に教育関係法規を概説する。その際、今日の教育現場で生起している学校事故、体罰、管理強化などの具体的な諸問題を教育関係法規と関連させながら取り上げることにする。

〔教科書〕 とくに教科書は使用しないが、参考用テキストについては講義の際紹介する

〔参考書〕 『解説教育六法』(昭和61年版)、三省堂発行 ¥2,000

図書館学 I

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』(学芸図書)

図書館学 II

(前期) 高橋 信行

(後期) 山崎 慶子

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」を講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』(学

芸図書)

『図書館学演習資料 後編』(全国学校図書館協議会)

博物館学 I

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ(見学)」ならびに「実習Ⅳ(特講)」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」(2単位)も履修することが必要である。受講方法について、誤まりの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学 II

林 俊雄

開講時に指示する。

博物館実習 I (館務)

倉田 芳郎・清水 潤三

博物館で10日間以上の学芸員についての実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉・所理喜夫・高浜 秀

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 考古学発掘調査 | 7月中旬から8月中旬 |
| 2. 民俗調査 | 8月下旬と2月中旬 |
| 3. 文書・石仏調査 | 9月下旬 |
| 4. 石仏調査 | 10月上旬 |
| 5. 遺跡分布調査 | 2月中下旬 |

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・林 俊雄

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ（特講）

(58年度以前入学生適用) 林 俊雄

開講時に指示する。

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔注〕 特別教科書は使用しない。

〔参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

日本文化史Ⅰ

圭 室 文 雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかかわりを追求してみたい。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹他・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史』Ⅱ（山川出版社）

印度仏教文化史

奈 良 康 明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史のアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇編『インド入門』（東大出版会）

奈良康明『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版）

西洋文化史Ⅰ

椽川 一朗

西洋都市史。フランス・イギリス都市とドイツ都市との歴史的な性格を比較しつつ、中世から近代への変遷を概観する。

西洋文化史Ⅲ

阿部 重雄

今年は、昨年の続き。「ヨーロッパ中世社会とその文化」というテーマで講述する。内容の概略は次の通り。

1. 民族大移動とローマ帝国の解体
2. 『ビザンツ帝国』の発展
3. サラセン文化の影響
4. Feudalism とは何か。その構造と特色
5. 中世ヨーロッパの生活と文化
6. 中世都市の発達

仏教美術

林 良一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

現代美術

宮崎 克己

19・20世紀の西洋絵画を、具体的な作品を多く採り上げながら考える。現代美術に内在する空間、色彩、意味内容の問題を中心に据え、その他、現代美術を取巻く環境についても述べる。講義以外にも、美術館や展覧会を自主的に見に行く事が必要になるであろう。

禅美術

竹内 尚次

禅美術の本質について考えてみる。禅美術は禅林（禅宗教団）から自然に発生した中国の宋および元の時代に独自の展開を見せ、また我国では鎌倉時代末期から室町時代を通して開花した。禅そのものとは明確に区別することによって、禅の表白が禅美術であるとする従来の思考の誤りを、正さなくてはならない。まず、曹洞宗の高僧風外慧薫風外本高禪師の画事から始めて、禅林絵画・禅林墨蹟の本質について検証し、東洋美術史のなかに於てのその位置を確かめることができれば幸である。なお、ここに採用する美術品は、国宝・重要文化財を中心とする。さて、これらの作品を、折にふれて目で直接見て取ることが、大切である。

〔教科書〕 『思想の群馬(風外慧薫)』（あさを社）¥800

〔参考書〕 『夢窓国師』玉村竹二著（平楽寺書店）
¥2,200

美術史概説

林 良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

西域美術史

林 良一

アフガニスタンより中央アジアにいたる地域に展開した、いわゆる西域美術について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

『考古学ゼミナール』の講読を通じて外国考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』山川出版社、1976年（学生版、¥2,800）

考古学特講Ⅱ

飯島武次

UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China" の講読を行なう。

〔教科書〕 UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China", 東洋文庫附属ユネスコ東アジア文化研究センター、1984年、¥2,100

考古学特講Ⅳ

高浜秀

北アジア考古学。特にシベリアから中国の北方を中心として北方ユーラシア・ステップ（草原）地帯の青銅器～初期鉄器時代文化を概観する。この時期には、スキタイ系遊牧騎馬民族文化が各地に興り、中国の北では匈奴などの活躍が知られる。匈奴がその主要な担い手であったと考えられるオールドス青銅器文化と、匈奴考古学に重点を置く予定である。

日本民俗学

山折哲雄

日本人の生死観を、とくに柳田国男・折口信夫の説にもとづいて考察し、それを西欧やアジアの諸民族のそれと比較する。

〔教科書〕 山折哲雄著『神と仏』（講談社新書）

仏教民俗学

和田謙寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会）¥2,900円

宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会・文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

考古発掘実習

飯島武次

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

社会福祉概論

岡田真

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに、「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混乱し使用している場合が多い。

社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるように指導する。この点は、福祉学専攻一年生の同一学科目と変らないが、本時は、高学年の、しかし専攻生ほどには数多く福祉学学科目を履修できない人たち

のための時間である。そこで、以上に加えて、下記のことにつとめたい。

- ① 本講座の各科目相互の関連の明確化
- ② あなたの主専攻の、専門福祉職務への役立て方
- ③ 「社会福祉方法総論」として専攻生には必修になっている内容のアウトライン

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）
岡田 真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）
欠席したらその週のうちにノートを補っておくこと。教科書の章を追っての教科書解説的な授業は行なわない。

障害福祉論

原 田 信 一

主として、わが国における心身障害児者の福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築を素ともてらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』〔第二版〕（有斐閣）
〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児（者）福祉』（田研出版）

社会福祉実習Ⅰ

岡 田 真

昭和60年度以降は、福祉専攻生以外には「配属施設」配属がない。各自で実習先を開拓しなければならなくなった理由の一つは、各自が実習先に責任を自分で負ってもらいたいことにある。しかも、自営経営の施設で実習する等は、従来通り、認められない。

教務部窓口を開拓の資料があるし、担当教員等も積極的に協力する。

オリエンテーション期間

1. 「明日の福祉」（NHK）の視聴方法の指導
 2. 自分の実習先につき、役割、機構などの下調べ
- フィールド期間：電話相談を遠慮なく。402研究室は東京418—9292、助手室は9301、フィールド終了後：実習ノートを基に助言、共同討議
注意：第3学年までの成績証明書（コピー可）を提出。

実習は、あなたの固有の専門を、福祉学との関連において検証できる場である。USA等の福祉学諸大学院は実習を特に重視している。プロ意識をもって履修してほしい。

- 〔参考書〕 1) 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）
2) 『国民の福祉の動向』（昭和58年版、厚生統計協会）
3) 仲村優一・岡村重夫・阿部志郎他編『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）
4) 『社会福祉六法』（第一法規）
5) なお、「社会福祉実習」に関する資料コーナーがあるので活用してほしい。

社会福祉法制

小 林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会福祉の法を考える』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人編著仮称『社会福祉の法を考える』（川島書店 60年3月末刊行予定）

〔参考書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ二つの主要な部門の一つであり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他——および将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼 正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山 京著『公的扶助論』（光生館）
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原田 信一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機の様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法）などの関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』（川島書店）

老人福祉論

奥山 正司

老後、老人問題は、社会の変化を背景にして、その発生するプロセスと性格によって、大きく以下の三つにわかれる。即ち、老化に伴う経済的ニード、身体的ニード、精神的ニードとそのそれぞれに対応する家族的扶養が十分にえられないところからくる問題の三つである。また、それらの問題に対して、老人福祉対策は、大別して、施設福祉対策と在宅福祉対策が、不十分ではあるが準備されている。

したがって、講義の内容は、老人問題の発生過程を明らかにし、そのうえで、老人福祉対策の現状と今後のあり方を考えることにする。

〔参考書〕 随時紹介していく

社会保障概論

小沼 正

先ずわが国制度を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を挙げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）

社会保障研究所編『経済社会の変動と社会保障』（東京大学出版会）

地域福祉論

岡田 真

CO（コミュニティ・オーガニゼーション）に時間配分の重点を置く。COはケースワークやグループワークと並んで福祉三大技術の一に位置するものであるから、「社会福祉方法総論」と極力同時に履修すること。

COの実体は、「地域の根廻し」の技術である。ただし、その適用はコミュニティ・ケアの展開、福祉計画充実などのためにであらねばならない。

他大学には「地域福祉論」で、福祉現実の地域的分析を行なう所もあるが、本学ではそれを都市社会学の一部に含める。そして、福祉現実の科学的認識なくしては、ソーシャル・ワークはカラ廻りをしてしまう。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。（もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）。

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

他に最新の文献や入手困難な文献（コピーによる）

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の1つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過

程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かを体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

- 〔教科書〕 1) 久保絃章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』（川島書店）
2) 仲村優一編『ケースワーク教室』（有斐閣）
3) 日本社会事業学校連盟編『ケースワーク実践の基礎—事例によるケースワーク研究—』（全国社会福祉協議会出版部）

グループワーク論

（前期）松本栄二・（後期）春見静子

学校・医療の場、社会福祉施設等における事例を用いながらグループワーク性質、方法を紹介する入門的なコース。

グループにかかわるソーシャルワークとグループワークの比較。社会教育的グループワークと臨床的グループワークの関係。機能主義と診断主義など折衷主義夫々のグループワーク等々についての紹介と共に出来ればロールプレーなどを教室でとり入れてみたい。

毎時間講義資料のコピーを渡す（実費徴収）。

社会福祉事業発達史

林 千代

いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は、資本主義の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に部分的に米国にもふれるよう社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 『社会福祉事業発達史』今岡他編（ミネルヴァ書房）

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス・施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。それは、いわば婦人問題の集約であり、施策の最も具体的な対応がせまられる状況である。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子福祉への歩み、2. 母子家庭とは、3. 母子家庭の生活実態とその困難、4. 母子福祉施策の現状と問題点。

〔教科書〕 講義ノートによる

〔参考書〕 随時紹介

医療社会事業論

春見静子

1. 医療制度の中での医療社会事業の位置づけを保健所、病院、施設それぞれについて考える。
2. 疾病がもたらす心理・社会的負担について考察する
3. 援助を行うための社会資源にはどのようなものがあるか。関係法規とその適応を検討する
4. 医療社会事業の方法について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの実際を学ぶ

〔教科書〕 野村茂 他『医療社会事業の実際』（光生館）

社会福祉方法総論

高橋重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論・歴史的展開過程、ソーシャル・ワーカーの専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての専門職業的倫理観や基本的姿勢についても追求したい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

社会福祉管理運営論

重田 信一

本講では、わが国における社会福祉行政ならびに社会福祉施設運営の実態を検討し、それをとおして、社会福祉運営法の相対的独自性を明らかにするとともに、そのあるべき姿を追求し、今後の社会福祉運営法のあり方を明らかにしたい。これを客観的に、諸外国との比較において、あるいは一般行政、私企業との比較において、検討したい。

なお、第2年次生あるいは他学科学生の聴講を予定して、社会福祉実践事例を紹介しながら、講義内容に具体性を添えるよう配慮する。

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因につながっているとされる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる

〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野 昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度と法
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育方法論

村山 輝吉

本講に関する既刊のテキスト類を数種目を通して見たが、そのとりあげている領域は広狭まちまちであり、また、叙述の視点やアプローチの角度も千差万別であっ

て、学問領域としてまだ一定の合意をみているとはいえないように思う。私としては、本年が開講一年目に当たるので、まずその辺のところから手をそめていかねばなるまいと考えている。いずれにしろ、単なる小手先の方法・技術にとどまるところなく、学習主体、学習課題、学習方法の相関関係を、過去及び現在の具体的ななすぐれた社会教育実践の事例の分析を通して明らかにしたいと望んでいる。

社会教育行政財政

酒匂 一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

この視点から、Ⅰ. 社会教育の本質と社会教育行政、Ⅱ. 戦前の社会教育行政の歴史、Ⅲ. 戦後社会教育の理念と制度——法制・施設・職員など——Ⅳ. 経済政策と社会教育政策、Ⅴ. 住民主体の社会教育行政、Ⅵ. 生涯教育と行政、Ⅶ. 社会教育行政の動向と課題、などを講義する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 ① 碓井正久編『新社会教育』（学文社）

② 小林文人他『社会教育ハンドブック』

〔改訂版〕（エイデル研究所）

③ 『社会教育行政必掲』〔昭和60年版〕（第一法規）

教育社会学

熊谷 一乗

教育は人間を意図に育成することによって社会の過去、現在、未来を結びつける役割をはたしており、私たちの社会生活に重要な意味をもっている。しかも、教育がどのように行われるかは経済、政治など社会の動向に強く影響されている。さらに教育は人と人との触れ合いを基本とする社会的な過程として成り立っている。講義では、教育と社会との関係、社会の観点からみた教育の構造、機能、過程を明らかにするため、つぎのようなテーマを行う。

(1) 人間の発達と社会 (2) 教育と集団 (3) 教育の社会的構造 (4) 地域社会と教育 (5) 現代社会と教育 (6) 学校の社会学

〔教科書〕 その都度、プリントをわたす。

〔参考書〕 清水義弘『教育社会学』（東大出版会）

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。社会心理学には、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持ち、ミクロな心理的過程を重視する心理学的アプローチにも留意しつつ、躍動する社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、マクロな社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とする。

〔参考書〕 講義の中で指示する

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とはなにか。
2. 社会教育施設にかかわる人びと。
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向の課題

児童教化

富田博之

「児童教化」の現代的形態としての〈子ども文化（児童文化）〉の成立過程（歴史）と現状を探り、併せて〈子ども文化〉に関わる仕事をする人のための実習を行なう。

〈子ども文化〉の歴史では、主として子どものためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い、その現状では、主として子どものためのマス・コミの現状について学習する。

実習は、〈子ども文化〉に関わる仕事をする人にとって必須な、身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の初歩を学習する。

〔参考書〕 林義雄著『こえとことばの科学』鳳鳴堂書店刊

青少年問題研究

和田謙寿

「校内暴力や家庭内暴力、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』全防連
¥1,200円

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

社会教育演習

上岡安彦

秋期に埼玉県川口市内の公民館、図書館、児童文化センター、幼児館、青少年館、婦人会館等で一週間の社会教育実習を行ないます。

実習前は、社会教育実践記録として『成人教育への挑戦』を読み実習後はマクロの視点から『生涯教育』を読みます。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会）¥750
エトナー・ジェルピ、前平泰志訳『生涯教育』（東京創元社）¥1,500

教育法規研究

神田 修

教育法規をめぐる基本問題について学習する。

- 〔参考書〕 永井・堀尾『教育法を学ぶ』（有斐閣）
¥1,500
兼子・神田『教育法規事典』（北樹出版）
¥2,000

成人指導及青少年指導

酒匂 一雄

子どもの発達と学校外教育を中心に講義する。

- I. 子どもの発達と家庭・地域。①遊びと性格・学力
②日常生活と学力の関連
- II. 教育的環境の変容と「地域の教育力」 ①青少年の生活構成の変容, ②中学生の発達課題と社会教育活動, ③問題行動の克服と地域, ④地域の教育・文化活動と「地域の教育力」
- III. 「学校外教育」とその展開。①「学校外教育」とは, ②児童館, ③学童保育, ④公民館, ⑤学校と学校外教育, ⑥国の青少年政策
- IV. 青年・成人の学習と指導。①グループワーク, ②サークル活動, ③学級・論座など。
- 〔教科書〕 酒匂一雄他『子どもの発達と日常生活—学力と人格を育てる—』（ぎょうせい）
その他必要によりプリントを用意する。

生活指導

秋山 さと子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことにしていないのではないのでしょうか。

- 〔参考書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書）

教育哲学

汐見 稔幸

昨年度にひき続き、教育とは何か、人間が発達するとはどういうことか、考えるということの本質は何か、など教育人間学的な問題をあれこれ考え合ってみてみたいと思っている人のための授業である。ただし、授業形態はゼミ方式で、テキストを毎回読んできた上で討議し合うので、それだけの意欲のない人は、はじめから遠慮願いたい。テキストとしては、昨年度をひきついでルソーの『エミール』（第四篇以降）を選ぶか、パスカルの『パンセ』あたりを選ぶか、それとももう少し現代のものをを選ぶか、参加者と相談して決めたい。教職を志す人に限らず、教育や人間の問題を一度はつつこんで考えてみたいと思う人は参加してみてほしい。

教育調査

大塚 雄作

調査・測定に関する基本的な解説を、教育場面を素材として行っていく。特に、テストの作成法、テスト得点の見方、標準的なテストの種類など、教育場面で最もよく利用されることになるであろう「テスト」に関する話題が中心となる。

- 〔参考書〕 『調査と測定』（新曜社）¥2,800 | 『探索的データ解析入門』（朝倉書店）¥3,800

教育学特講

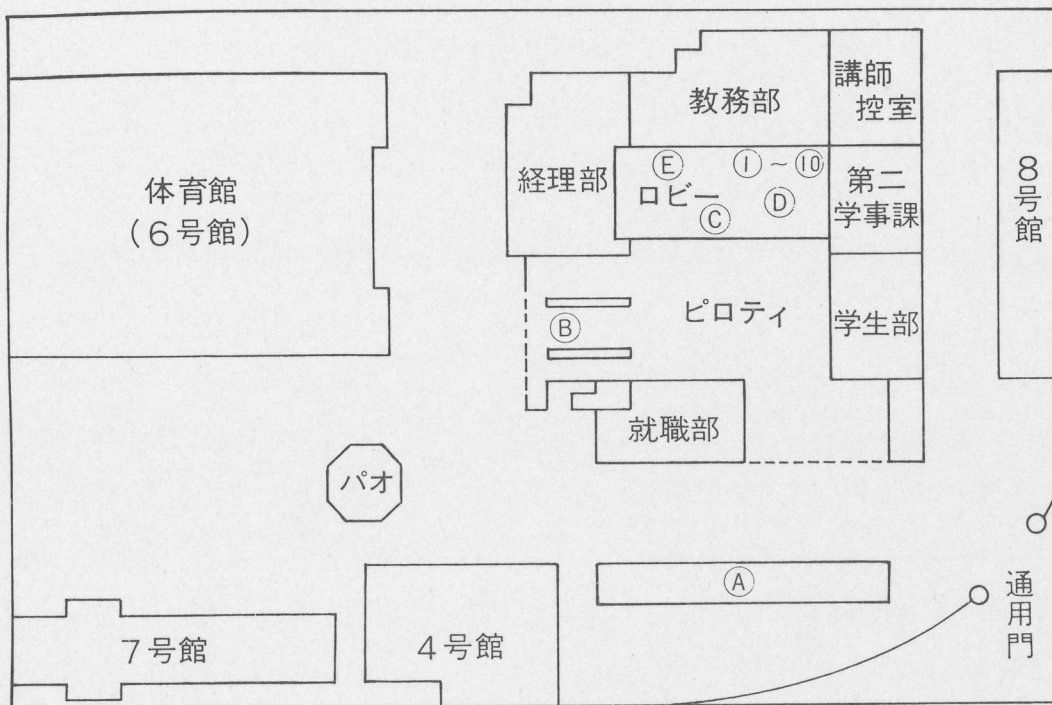
熊谷 一乗

講義は「現代教育の諸問題」というテーマで行われる。教育改革が国家的な課題となっていることが示すように、私たちの社会は、今、多くの深刻な教育問題をかかえている。校内暴力、学校恐怖症、差別、さらに「偏差値支配」といった病的現象が正常な教育をさまたげ、社会の将来に不安を投ずかけている。講義では、現代の教育をめぐる主要な問題をとりあげ、その病理を社会との関係で明らかにする。講義でとりあげる問題はつぎのとおりである。(1)子供の生活時間をめぐる問題 (2)親子関係の問題 (3)家庭の崩壊と子供 (4)少年非行の動向 (5)教育をめぐる暴力の問題 (6)教育をめぐる差別の問題 (7)教育における疎外の問題 (8)情報化社会のインパクト。

- 〔教科書〕 使わない

- 〔参考書〕 授業のさいに指示

教務部窓口及び掲示板案内



①教職課程

学校図書館司書教諭講座

②博物館学講座

社会福祉主事講座
社会教育主事講座

④証明書(教務関係)申込受付・発行

(健康診断書および
在学証明書は学生部)

諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

⑤諸届願 (休学・退学・復学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更
保証人住所変更・聴講)

⑥大学院関係・留学生関係

学部演習 (仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部)

卒業論文(仏教学部・文学部)

⑦時間割変更・休講・外国語指定届

卒業証書・転部科

⑨履修・試験・成績・学業相談

④第1 掲示板(表面)……………公示・告示, 学生部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他

第2 掲示板(裏面)―臨時掲示板―

……………教務部関係連絡事項(12月～3月), 就職部関係連絡事項(9月～11月)

③第3 掲示板―臨時掲示板―

……………教務部関係連絡事項(12月～3月), 就職部関係連絡事項(9月～11月)

◎休講掲示板

◎授業時間表カウンター

◎大学院・留学生関係掲示板

